岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第463集

南日詰（みなみひづめ）遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査

岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

南日詰（みなみひづめ）遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されております。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であります。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、紫波町南日詰地区で行われる経営体育成基盤整備事業に関連して平成15年度に発掘調査を実施した、紫波町南日詰遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、南日詰遺跡は縄文時代には狩猟場、平安時代と近世～近代にかけては集落として営まれていたことが明らかになりました。中でも、この調査によって検出した近世の掘立柱建物跡８棟は、この時期を考える上で貴重な資料を提供することができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時にその保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県盛岡地方振興局盛岡農政部農村整備室、紫波町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成16年10月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1. 本報告書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字田中143ほかに所在する南日詰遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、経営体育成基盤整備事業南日詰地区に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡登録番号はLE77-1086、遺跡略号はMHZ-03である。
4. 野外調査及び室内整理期間、調査担当者などは以下の通りである。

野外調査	期　間	平成15年9月16日～11月11日
	面　積	1,491㎡
	担当者	北田　勲・坂部恵造
室内整理	期　間	平成15年11月1日～平成15年12月31日
	担当者	北田　勲・坂部恵造

5. 野外での遺構写真撮影は担当調査員、遺物の写真撮影は福士昭夫が行った。
6. 本報告書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室、その他及び編集は北田 勲が担当した。
7. 遺物の分析・鑑定、自然科学分析は以下の機関に委託した。

石器の石材鑑定	：	花崗岩研究会
樹種同定	：	株式会社パリノサーヴェイ

8. 座標原点の測量及び空中写真撮影は以下の機関に委託した。

座標原点の測量	：	株式会社ハイマーテック
空中写真撮影	：	東邦航空株式会社

9. 本書では、国土地理院及び岩手県宇宙航空開発推進協議会発行の以下の地形図を使用した。
   1/25,000地形図　日詰
   1/200,000地形図　宇宙から見た岩手県付録
10. 野外調査及び本報告書の作成にあたり、以下の機関から御指導・御助言をいただいた。
   紫波町教育委員会
11. 発掘調査資料は、すべて岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
12. 調査成果は岩手県立埋蔵文化財調査略報(平成15年度)・現地公開資料などに発表してきたが、本報告書の内容が優先するものである。

凡　例

1．遺構図の用例は次の通りである。

(1) 遺構実測図の縮尺は住居跡・竪穴遺構の平面・断面図 1/50、建物跡の平面図・断面図 1/60・1/80、土坑・井戸跡の平面・断面図 1/50、陥し穴状遺構平面図・断面図 1/50、ピットの平面 1/100 で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

(2) 推定線は破線で表した。また、重複遺構については実線で表した。

(3) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構覆土等にアラビア数字を使用した。

(4) 土層色調の観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

2．遺物実測図の用例は次の通りである。

(1) 遺物実測図の縮尺は土器 1/3、陶磁器 1/2、石器（剥片）2/3、銭貨 1/2 で表した。ただし法量の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

(2) 土器については、須恵器は断面を黒色にして示し、そのほかは土師器とした。

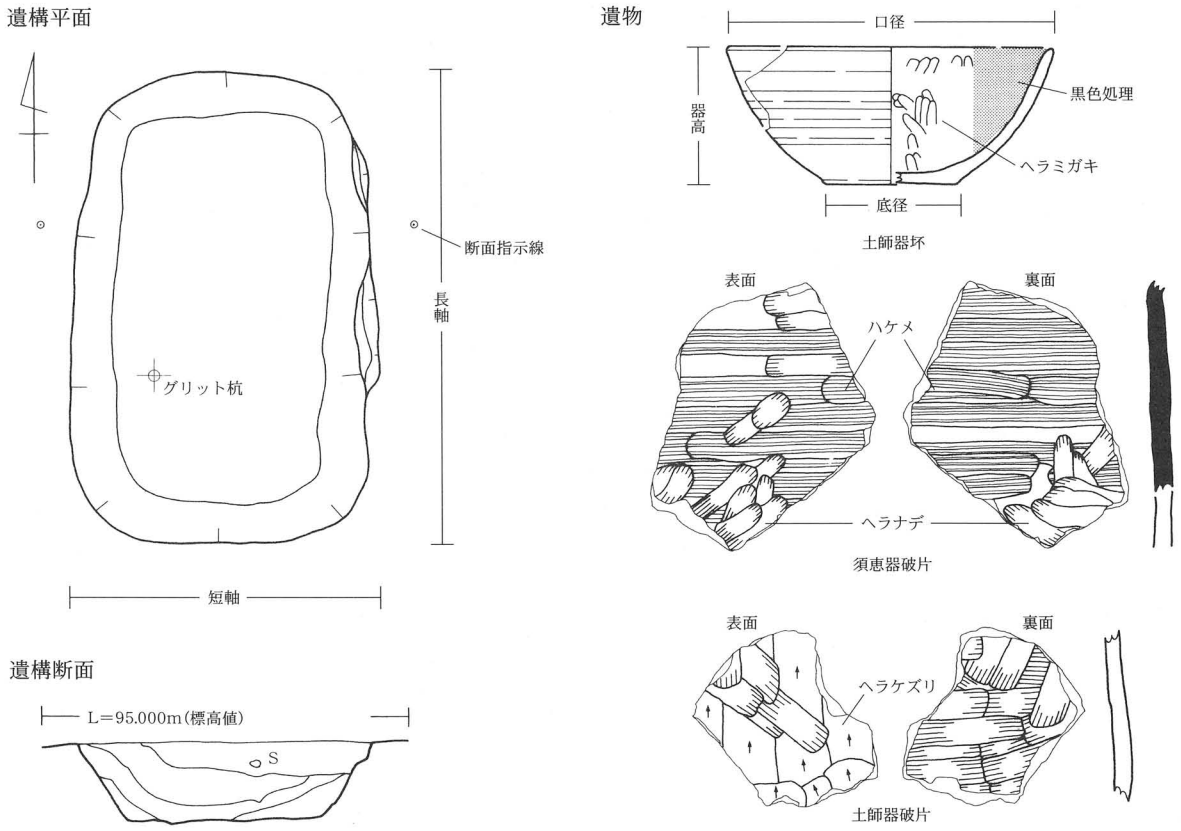
(3) 剥片石器については、折れ面が存在する場合、その部分の実測図も付した。

(4) 陶磁器については、釉薬が 1 回のみと 2 回重ねられている場合を 1 破線と 2 破線に分けて表示した。

3．写真図版の用例は次の通りである。

(1) 遺構写真図版については基本的に平面及び断面写真をセットとし、遺構種別に合わせて遺物出土状況などを掲載した。

(2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じている。撮影面は正面と裏面をセットとし、必要に応じて断面などを撮影し掲載したものもある。



凡例図

目　次

序

例言

凡例

〈本文〉

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1．遺跡の地理的環境……1

（1）遺跡の位置……1

（2）遺跡周辺の地形と地質……1

2．遺跡の歴史的環境……5

3．基本層序……9

（1）調査区の地形……9

（2）調査区内の層序……9

Ⅲ　調査と整理の方法

1．調査経過……10

2．野外調査の方法……10

（1）グリッド設定……10

（2）試掘調査……10

（3）重機及び人力による粗掘・遺構検出……12

（4）遺構の調査方法……12

（5）遺物の取り上げ方……12

3．室内整理の方法

（1）遺構……13

（2）遺物……13

（3）掲載図版の構成……13

Ⅳ　検出遺構

1．住居跡……15

2．竪穴遺構……17

3．建物跡……18

4．井戸跡……28

5．土坑……29

6．溝跡……32

7．陥し穴状遺構……34

8．ピット……38

Ⅴ　出土遺物

1．土器

A．須恵器……40

B．土師器……40

2．陶磁器

A．陶器……44

B．磁器……44

3．石器……47

4．銭貨……47

Ⅵ　まとめ

1．縄文時代……57

2．平安時代……58

3．近世～近現代……58

4．まとめ……59

参考文献……59

Ⅶ　自然科学分析

1．樹種同定……62

報告書抄録……86

職員名簿……87

〈表〉

第1表　周辺遺跡分布表……8

第2表　住居跡一覧表……48

第3表　竪穴遺構一覧表……48

第4表　建物跡一覧表……48

第5表　井戸跡一覧表……49

第6表　土坑一覧表……49

第7表　溝跡一覧表……49

第8表　陥し穴状遺構一覧表……50

第9表　ピット一覧表……51

第10表　土器観察表……55

第11表　陶磁器観察表……55

第12表　石器観察表……56

第13表　銭貨観察表……56

〈図版〉

凡例図

第１図　岩手県全図

第２図　遺跡位置図……２

第３図　地形分類図……３

第４図　周辺遺跡分布図……６・７

第５図　グリッド配置図……11

第６図　遺構配置図……14

第７図　ＳＩ01 住居跡……16

第８図　ＳＸ01 竪穴遺構……17

第９図　ＳＢ01 建物跡……19

第 10 図　ＳＢ02・05 建物跡……21

第 11 図　ＳＢ03 建物跡……22

第 12 図　ＳＢ04 建物跡……23

第 13 図　ＳＢ06 建物跡……25

第 14 図　ＳＢ07・08 建物跡……27

第 15 図　ＳＥ01・02 井戸跡……28

第 16 図　ＳＫ01～08 土坑……31

第 17 図　ＳＤ01～03 溝跡……33

第 18 図　ＳＤ04～06 溝跡……35

第 19 図　ＳＫＴ01～04 陥し穴状遺構……37

第 20 図　ＳＫＴ05～09 陥し穴状遺構……39

第 21 図　土器（１）……41

第 22 図　土器（２）……42

第 23 図　土器（３）……43

第 24 図　陶磁器（１）……45

第 25 図　陶磁器（２）、石器、銭貨……46

第 26 図　南日詰村小絵図・善知鳥館跡配置図……60

第 27 図　建物跡想定図……61

〈写真図版〉

写真図版１　調査区全景航空写真……64

写真図版２　航空写真（1970 年当時の南日詰地区）・現況・基本層序……65

写真図版３　ＳＩ01 住居跡……66

写真図版４　ＳＸ01 竪穴遺構……67

写真図版５　ＳＢ01・02 建物跡……68

写真図版６　ＳＢ03・04 建物跡……69

写真図版７　ＳＢ05・06 建物跡……70

写真図版８　ＳＢ07・08 建物跡……71

写真図版９　ＳＫ01～06 土坑……72

写真図版10　ＳＫ07・08 土坑、ＳＥ01・02 井戸跡……73

写真図版 11　ＳＤ01・02 溝跡……74

写真図版 12　ＳＤ03・04 溝跡……75

写真図版 13　ＳＤ05・06 溝跡……76

写真図版 14　ＳＫＴ01・02 陥し穴状遺構……77

写真図版 15　ＳＫＴ03・04 陥し穴状遺構……78

写真図版 16　ＳＫＴ05・06 陥し穴状遺構……79

写真図版 17　ＳＫＴ07・08 陥し穴状遺構……80

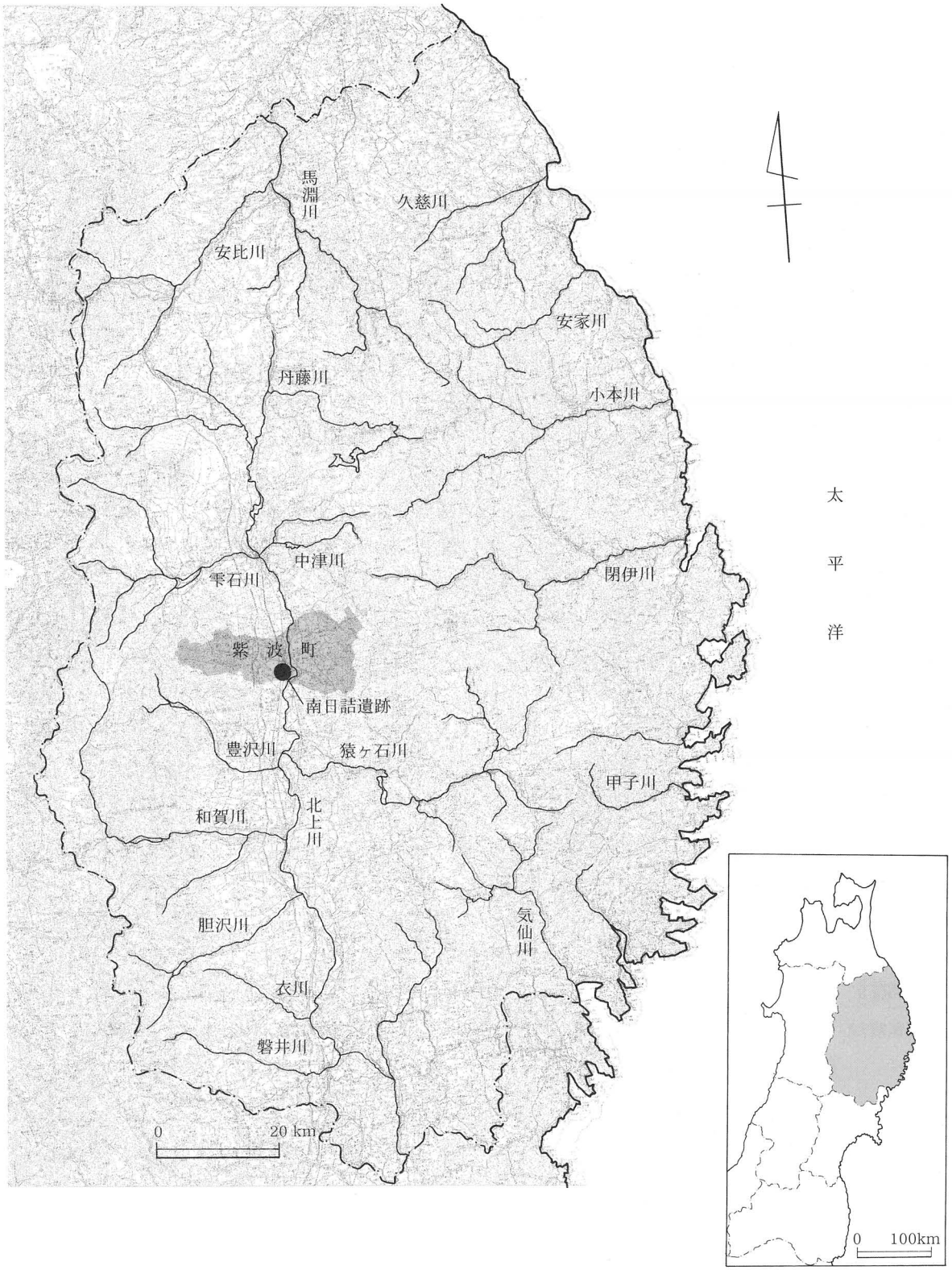
写真図版 18　ＳＫＴ09 陥し穴状遺構、遺跡出土木材……81

写真図版 19　土器（１）……82

写真図版 20　土器（２）……83

写真図版 21　土器（３）、陶磁器（１）……84

写真図版 22　陶磁器（２）、石器、銭貨……85


馬淵川
久慈川
安比川
安家川
丹藤川
小本川
太平洋
中津川
閉伊川
雫石川
紫波町
南日詰遺跡
豊沢川
猿ヶ石川
甲子川
和賀川
北上川
気仙川
胆沢川
衣川
磐井川
0
20 km
0
100km

第１図　岩手県全図

Ⅰ　調査に至る経過

経営体育成基盤整備事業南日詰地区は、紫波郡紫波町南日詰地内における北上川右岸とその支流の滝名川に挟まれた水田地帯約 90ha を事業区域として、ほ場の区画整理、用水路のパイプライン化、道路及び排水路の拡幅・新設等により高生産性農業の確立による地域農業の持続的発展及び地域の生活環境の向上に資することを目的として、平成 12 年度より着手している。

当該事業区域の埋蔵文化財包蔵地については、事業計画策定時の平成 10 年 5 月に岩手県教育委員会の分布調査によって、南日詰遺跡の確認をしており、同年 12 月に同委員会が実施した試掘調査結果を踏まえ、南日詰遺跡に係わる工事着手前に発掘調査を行うこととしていた。

平成 12 年度に地区採択となった後、平成 14 年度までに全体実施設計及び幹線用水路工事を実施し、ほ場整備工事に向けての基礎的条件が整ったことから、平成 15 年度にほ場整備工事を着手するに至ったものであるが、その工事範囲に南日詰遺跡付近も含まれていたため、発掘調査についても併せて実施することとなったものである。

発掘調査については、発掘調査前年度である平成 14 年度に同委員会と当該事業の事業主体である岩手県（盛岡地方振興局農政部農村整備室）とで、調査の規模、時期等具体的な内容について協議したところ、財団法人岩手県文化振興事業団に発掘調査を委託することとなり、同委員会は平成 15 年 1 月 14 日付け教生第 1457 号において、同事業団へ平成 15 年度事業としての実施を通知し、調査主体を決定した。

その後、平成 15 年 9 月 12 日付けで同事業団と発掘調査業務の委託契約を締結し、平成 15 年 9 月 16 日より発掘調査の着手となったものである。

（岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

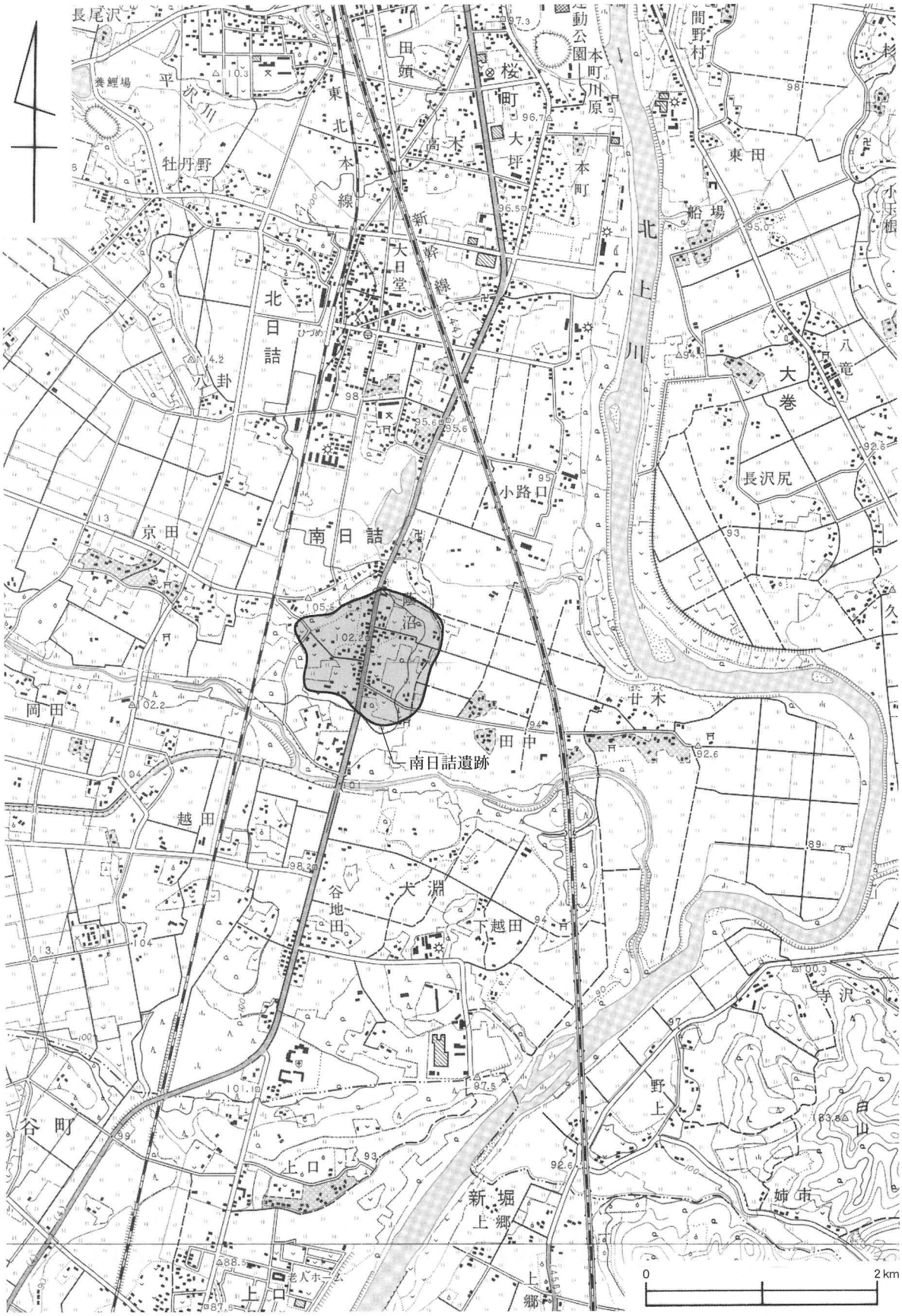
1.　遺跡の地理的環境

(1)遺跡の位置

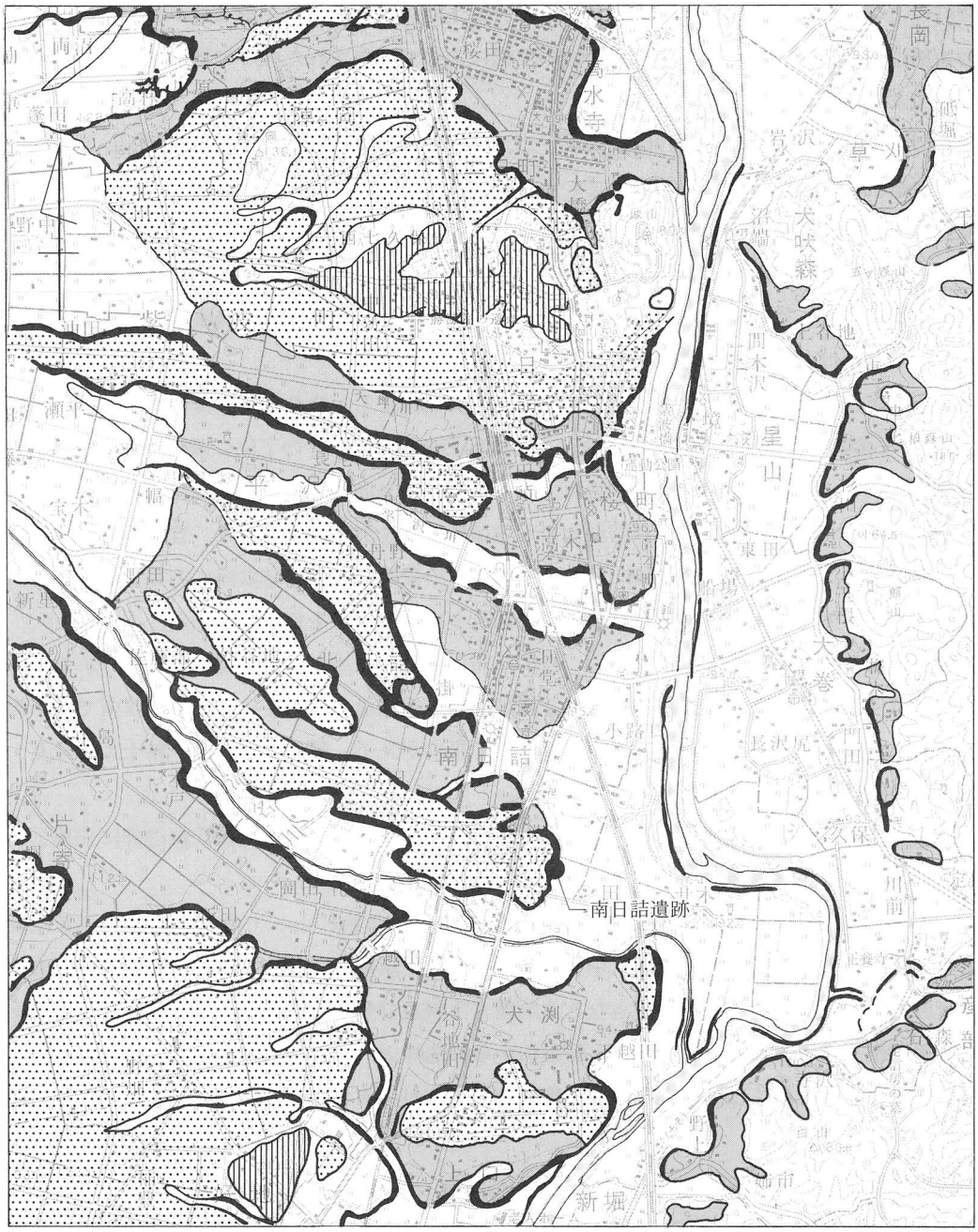
南日詰遺跡の所在する紫波町は岩手県のほぼ中央にあり、東は大迫町、南は石鳥谷町、西は雫石町、北は矢巾町、盛岡市の 1 市 4 町と隣接する。紫波町は東西約 27.8 km、南北約 12.9 km、総面積 238.32 ㎢の人口 34,527 人（平成 16 年 5 月現在）を有する。遺跡は紫波町役場の南側約 4 km、南日詰字田中に所在し、二枚橋段丘縁辺部に立地している。本遺跡は、国土地理院発行の 1:50,000 地形図「日詰」NJ-54-13-15（盛岡 15 号）の図幅に含まれ、北緯 39 度 31 分 32 秒、東経 141 度 9 分 56 秒付近にあたる。標高は 94.4～95.0ｍで、現況は水田、畑地である。

(2)遺跡周辺の地形と地質

遺跡の所在する紫波町には、町内のほぼ中央を南に向かって流れる北上川がある。この川は奥羽山脈と北上山地を東西に二分して北上河谷帯を南北に縦断する全長 243 km の大河で、盛岡以北を上流、盛岡から一関を中流、一関以南を下流域とする 3 区分がなされている。


長尾沢
養鯉場
平沢川
牡丹野
東北本線
田頭
桜町
大坪
高木
本町
本町川原
運動公園
間野村
東田
船場
北上川
新幹線
大日堂
北日詰
八卦
大巻
八竜
長沢尻
小路口
京田
南日詰
陸沼
岡田
廿木
田中
南日詰遺跡
越田
谷地田
犬淵
下越田
寺沢
野上
白山
谷町
上口
新堀
上郷
姉市
老人ホーム
0
2 km

第２図　遺跡位置図



0　1500m

1：50,000

石鳥谷段丘　二枚橋段丘　都南段丘　崖

第３図　地形分類図

紫波町はこの区分の北上川中流域北部に位置し、北上川以西には広汎な段丘群が発達している。これは奥羽山脈に源を発する滝名川、太田川などの支流によって形成された大小の扇状地や旧河原が段丘化したものである。

これらの段丘は中川久夫ほか（1963）によって、石鳥谷段丘（上位段丘）、二枚橋段丘（中位段丘）、都南段丘（低位段丘）の３つに区分されている（中川ほか　1963）。

上位段丘は西部山地東縁の山麓部に断片的に分布するほか、北上川河谷平野の中央、日詰付近にも孤立的に見られる。日詰付近でこの段丘は 3m以上の砂・粘土を伴う礫層と、これを覆う厚さ 1m前後の火山灰層で構成され、構成礫層の風化は著しく進んでいる。これは前述の石鳥谷段丘にあたり、構成礫層は日詰礫層と呼ばれ、砂礫堆積段丘を呈している。

中位段丘は上位段丘の前面に拡がり、極めて広範囲に発達する。北日詰の八掛付近の中位段丘は厚さ3.5m以上の堆積物からなり、堆積物の上部 1.5mは灰白色粘土で、その下位に礫層が続いている。この付近では開析によって段丘面が相当分割されている。一方、日詰以北の中位段丘は未だ開析が進まず、広い段丘面を残している。そして、日詰以北のものは構成層を欠くこともあり、日詰以南の中位段丘とは性格を異にする。中川久夫ほか（1963）は日詰以北の中位段丘面は日詰以南に分布する前述の二枚橋段丘が削剥されて生じた侵食面であるとし、花巻段丘と呼んで両者を区分している。

下位段丘は北上川本・支流沿いに分布し、特に日詰以北の北上川右岸に大規模に認められる。日詰より上流側では一般に段丘崖の比高差は小さく、崖地形の不明瞭な部分も多いが、日詰以南では下流に向かって現河床及び谷底平野面との比高差を増してゆく傾向がある。礫及び砂混じり粘土よりなり、構成物の厚さは数m以下である（東郷正美　1974）。

これを踏まえて本遺跡の位置を確認すると、本遺跡は北上川西岸の二枚橋段丘縁辺部に立地し、東側には北上河岸低地が広がる地形に所在する。標高は95m前後である。

紫波町の地質は中央部の盛岡－白川構造線が走る北上川低地帯によって西半部の新第三系以後の岩石の造る背陵山地と、東半部の古生層、中生層からなる北上山地とに二分されている。東半部の古生層は、粘板岩・輝緑凝灰岩・チャートからなる北部型古生層及び粘板岩・石灰岩・輝緑凝灰岩・チャートからなる南部型古生層で、両者は沢口山・朝島山から早池峰山へと連なる早池峰超塩基性岩によって分けられている。北上山地には、花崗岩類と斑糲岩類の岩体が分布し、背陵山地には花崗岩類の小岩体が分布する。

西半部の地層は、第三紀中新世のグリーン・タフ活動による安山岩質～流紋岩質岩石が広く分布し、これらに第四紀の安山岩類が岩株状に貫入している。また、南北性の第四紀以後に活動したと見られる断層の東側には凝灰質砂岩・頁岩が分布する。

中央部には複合扇状地と段丘群が広く発達し、北上川には広い沖積地が分布している。また、背後及び北上山地には河谷沿いに沖積層、扇状地、段丘堆積物、崖錐性堆積物が分布し、新期火山性ローム層が各所に見られる（目加田義正　1974）。

1. 中川久夫・石田琢二・佐藤二郎・松山力・七崎修　1963a　「北上川上流沿岸の第四系および地形－北上川流域の第四紀地史(1)」『地質学雑誌』69　p163～171
2. 中川久夫・岩井淳一・大池昭二・小野寺信吾・森由起子・木下尚・竹内貞子・石田琢二　1963b　「北上川中流沿岸の第四系および地形－北上川流域(2)」『地質学雑誌』69　p219～227

3. 岩手県 1974 「日詰 5万分の1 国土調査」『北上山系開発地域 土地分類基本調査』

2. 遺跡の歴史的環境

岩手県教育委員会のまとめによると、平成12年度現在で県内には約9,677ヵ所の遺跡が確認され、そのうち紫波町内には325ヵ所の遺跡が登録されている。このうち本遺跡を中心とする半径10kmの近隣地区には、145ヵ所（紫波町125ヵ所、石鳥谷町20ヵ所）確認されている。

145遺跡のうち、縄文時代の遺跡14ヵ所、縄文時代・古代の遺跡30ヵ所、縄文時代・古代・中世の遺跡1ヵ所、古代の遺跡57ヵ所、古代・中世の遺跡2ヵ所、10・12世紀の遺跡1ヵ所、中世の遺跡12ヵ所、中・近世の遺跡3ヵ所、近世の遺跡3ヵ所、時期不明の遺跡22ヵ所である。

縄文時代の遺跡には№109西田遺跡（縄文時代中期）が縄文時代中期の集落遺跡として知られている。1975～77年の3ヵ年にかけて行われた調査では、集落の中央部には墓坑と考えられる舟底状の土坑群が環状に並び、その外側に住居跡が分布、さらに北側では住居跡とともに貯蔵穴状の土坑群の分布がみられる。また、№83南日詰遺跡は本遺跡の国道4号沿いで行った調査で縄文時代中期前葉（大木7b式期）の集落とそれに伴う遺構・遺物が出土している。

古代の遺跡は最も多く分布している。№125野上遺跡では9世紀後半とされる住居跡、№97暮坪遺跡では10世紀中～後半とされる住居跡・溝・土坑群が検出されている。本遺跡南方に位置する№99伝善知鳥館跡は1963年に調査が行われ住居跡・堀などを検出しており、安倍氏に関連する居館的柵と推定されている。1992年に滝名川河川改修に伴って調査が実施された№111下川原Ⅱ遺跡は、9世紀末～10世紀とみられる住居跡21棟のほか、陥穴状遺構・土坑などが検出されている。№110西田東遺跡は9世紀末～10世紀とみられる住居跡20棟、陥穴状遺構187基・土坑13基などが検出されている。

№67比爪館跡は本遺跡の北西約0.8kmに位置すると考えられ、1988年などに調査が行われている。比爪館は比爪氏の居館跡とされており、現在は赤石小学校敷地となっている。調査の結果、12世紀代の遺構・遺物とともに10世紀とされる住居跡などの遺構・遺物が見つかっている。

中世の遺跡は館跡を中心に調査が進められている。№75大巻館跡は北上川東岸に位置し、河村氏の居館跡とされている。また、石鳥谷町の新堀城跡は複数の郭・堀・土塁を構築している。№51金館跡は2000年に調査が行われ、中世に比定される曲輪・堀などを検出している。

1. 岩手県教育委員会 2000 「岩手県遺跡台帳」
2. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『比爪館跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第151集
3. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『西田東遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第221集
4. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『金館跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第378集

96
98
97
95
35
75
92
91
74
93
94
27
34
73
70
71
72
86
87
89
90
23
69
85
88
78
66
24
64
82
25
29
32
65
67
76
77
31
33
63
79
81
30
26
28
80
68
4
21
48
54
57
47
44
46
22
43
53
56
55
3
42
45
5
2
16
12
41
52
10
18
1
14
19
9
17
20
50
51
13
15
40
11
39
8
38
36
6
7
49
37

第４図　周辺遺跡分布図

115
112
114
113
122
123
124
145
142
136
143
144
111
108
107
110
106
121
125
134
135
140
141
109
120
101
102
119
118
104
139
99
100
103
105
133
83
117
84
138
62
129
131
137
128
116
126
130
132
5 km
127
61
59
60
10km
58
0
3 km

第４図　周辺遺跡分布図

第４図　周辺遺跡分布図

第４図　周辺遺跡分布図

第1表　周辺遺跡分布表

No.	市町村名	遺跡名	時代	所在地
1	紫波町	平沢越場Ⅱ	平安	平沢字越場
2	紫波町	平沢堤頭Ⅱ	平安	平沢字堤頭、字川又
3	紫波町	日詰上新田	古代	日詰字上新田
4	紫波町	桜町下野沢	平安	桜町字下野沢
5	紫波町	桜町上野沢	縄文・平安	桜町字上野沢
6	紫波町	南七合Ⅰ	平安	稲藤字南七合
7	紫波町	南七合Ⅱ	平安	稲藤字南七合
8	紫波町	平沢檜Ⅰ	平安	平沢字桧
9	紫波町	平沢檜Ⅴ	平安	平沢字桧
10	紫波町	伝平沢館	平安	平沢字館
11	紫波町	平沢幅Ⅰ	縄文・古代	平沢字幅
12	紫波町	平沢堤頭Ⅰ	縄文・平安	平沢字堤頭、字川又
13	紫波町	平沢檜Ⅱ	平安	平沢字桧
14	紫波町	平沢檜Ⅲ	縄文・平安	平沢字桧、字川又
15	紫波町	平沢幅Ⅱ		平沢字幅、字境田、字的場
16	紫波町	平沢境田	古代	平沢字境田
17	紫波町	平沢四折	古代	平沢字四折
18	紫波町	平沢新田Ⅰ	縄文・古代	平沢字新田
19	紫波町	平沢新田Ⅱ	古代	平沢字新田
20	紫波町	平沢野田Ⅰ	縄文・古代	平沢字野田
21	紫波町	平沢松田	古代	平沢字松田、字佐藤部
22	紫波町	北日詰牡丹野	縄文	北日詰字牡丹野
23	紫波町	吉兵衛館	中・近世	二日町字向山
24	紫波町	戸部御所（西御所）	中世	二日町字南七久保
25	紫波町	日詰下丸森	古代	日詰字下丸森
26	紫波町	日詰下野沢		日詰字下野沢
27	紫波町	間木沢		犬吠森字間木沢
28	紫波町	桜町中桜Ⅰ	縄文・古代	桜町字中桜
29	紫波町	西裏	古代	日詰牡字丹野
30	紫波町	日詰牡丹野	古代	日詰字牡丹野
31	紫波町	平沢松田Ⅲ	古代	桜町字中森、平沢字松田
32	紫波町	田頭		桜町字田頭
33	紫波町	桜町田頭	古代	桜町字田頭、字高木
34	紫波町	星山館	中世	星山字間野村
35	紫波町	花立		大巻字花立
36	紫波町	平沢野田Ⅱ	縄文・古代	平沢字野田
37	紫波町	尻掛	縄文	土館字新里
38	紫波町	平沢佐藤部		平沢字佐藤部
39	紫波町	平沢滝名川Ⅰ	古代	平沢字滝名川
40	紫波町	平沢滝名川Ⅱ	縄文・古代	平沢字滝名川
41	紫波町	北日詰外谷地Ⅶ		北日詰字外谷地
42	紫波町	北日詰外谷地	古代	北日詰字外谷地
43	紫波町	北日詰外谷地Ⅰ	縄文・古代	北日詰字外谷地
44	紫波町	北日詰外谷地Ⅱ	縄文・古代	北日詰字外谷地
45	紫波町	北日詰外谷地Ⅵ	古代	北日詰字外谷地
46	紫波町	北日詰外谷地Ⅲ		北日詰字外谷地
47	紫波町	北日詰外谷地Ⅳ		北日詰字外谷地
48	紫波町	北日詰外谷地Ⅴ	古代	北日詰字外谷地
49	紫波町	片寄中島	古代	片寄字中島
50	紫波町	南日詰野原	古代	南日詰字野原
51	紫波町	金館	中世	南日詰字梅田
52	紫波町	南日詰長根	縄文・古代	南日詰字長根
53	紫波町	南日詰長根Ⅱ	縄文・古代	南日詰字長根
54	紫波町	南日詰川原	古代	南日詰字川原
55	紫波町	南日詰梅田	古代	南日詰字梅田
56	紫波町	南日詰梅田Ⅱ	古代	南日詰字梅田
57	紫波町	南日詰京田Ⅰ	縄文・古代	南日詰字京田
58	紫波町	上久保館	中世	片寄字上久保
59	紫波町	片寄	縄文・古代	片寄第字鍛冶屋敷、土手田
60	紫波町	片寄野畑	縄文	片寄字野畑
61	紫波町	四ツ屋		片寄字四ツ屋
62	紫波町	片寄越田	縄文・古代	片寄字越田
63	紫波町	北日詰下藪	古代	北日詰字下藪
64	紫波町	北日詰東ノ坊Ⅱ	古代	北日詰東ノ坊、下東ノ坊
65	紫波町	北日詰東ノ坊Ⅰ	古代～中世	北日詰字東ノ坊
66	紫波町	北日詰東ノ坊Ⅲ	古代～中世	北日詰字東ノ坊
67	紫波町	比爪館	10・12C	北日詰字箱清水
68	紫波町	北日詰八卦	古代	北日詰字八掛
69	紫波町	大日堂		北日詰字大日堂
70	紫波町	北日詰城内Ⅱ	縄文	北日詰字城内
71	紫波町	北条館	中世	北日詰字城内
72	紫波町	北日詰下東ノ坊	古代	北日詰下東ノ坊、字城内
73	紫波町	北日詰城内Ⅰ	古代	北日詰字城内
74	紫波町	梅ノ木館（八竜）	中世	大巻字梅ノ木
75	紫波町	大巻館	中世	大巻館字花立
76	紫波町	五郎沼	縄文	南日詰字箱清水
77	紫波町	伝蛇塚		南日詰字箱清水
78	紫波町	南日詰宮崎	古代	南日詰字宮崎
79	紫波町	南日詰蔭沼Ⅰ	古代	南日詰字蔭沼
80	紫波町	南日詰京田Ⅱ	古代	南日詰字京田
81	紫波町	南日詰蔭沼Ⅱ	古代	南日詰字蔭沼
82	紫波町	南日詰田中Ⅰ	古代	南日詰字田中
83	紫波町	南日詰	縄文・古代	南日詰字蔭沼、京田、滝名川、田中
84	紫波町	南日詰京田Ⅲ	古代	南日詰字京田
85	紫波町	南日詰大銀Ⅰ	古代	南日詰字大銀、字小路口
86	紫波町	南日詰大銀Ⅱ	古代	北日詰字城内、南日詰字 大銀
87	紫波町	南日詰小路口Ⅰ	古代	南日詰小路口
88	紫波町	南日詰小路口Ⅱ	古代	南日詰字小路口
89	紫波町	南日詰小路口Ⅲ	古代	南日詰字小路口
90	紫波町	南日詰田中Ⅱ	古代	南日詰字田中
91	紫波町	大巻長沢尻Ⅱ	縄文	大巻字長沢尻
92	紫波町	大巻間田	古代	大巻字間田
93	紫波町	大巻長沢尻	縄文・古代	大巻字長沢尻
94	紫波町	赤川館	中～近世	大巻字長沢尻
95	紫波町	彦部久保	古代	彦部字久保
96	紫波町	彦部赤堰古墳		彦部字暮坪
97	紫波町	暮坪	縄文	彦部字暮坪
98	紫波町	彦部館	中世	彦部字暮坪
99	紫波町	伝善知鳥館（善知鳥館）	縄文・古代	南日詰字滝名川
100	紫波町	南日詰滝名川Ⅰ		南日詰字滝名川
101	紫波町	南日詰滝名川Ⅴ	縄文	南日詰字滝名川
102	紫波町	犬渕新田堰	縄文・古代	犬渕字新田堰、南日詰字滝名川
103	紫波町	南日詰滝名川Ⅲ		犬渕字新田堰
104	紫波町	南日詰滝名川Ⅳ		南日詰字滝名川
105	紫波町	犬渕谷地田	古代	犬渕字谷地田、字新田堰
106	紫波町	南日詰八坂	古代	南日詰字八坂
107	紫波町	西田北	縄文	犬渕字西田
108	紫波町	下川原Ⅰ	古代	南日詰字下川原、字八坂
109	紫波町	西田	縄文・古代・中世	犬渕字西田
110	紫波町	西田東	古代（平安）	犬渕字西田
111	紫波町	下川原Ⅱ	古代	南日詰字下川原
112	紫波町	定内	縄文	彦部字定内
113	紫波町	元町	古代	彦部字川久保
114	紫波町	館盛	中～近世	彦部字機械
115	紫波町	機織館（彦部館）	中世	彦部字機械
116	紫波町	鎌倉街道		
117	紫波町	犬渕谷地田南		犬渕字谷地田
118	紫波町	南谷地		犬渕字南谷地
119	紫波町	下越田Ⅰ		南比詰字下越田
120	紫波町	下越田Ⅱ		犬渕字下越田
121	紫波町	下越田Ⅲ	古代	犬渕字下越田（西田？）
122	紫波町	小深田	古代	彦部字小深田
123	紫波町	寺沢	縄文・奈良	彦部字寺沢
124	紫波町	是信房墓所		
125	紫波町	野上	縄文	彦部字野上
126	石鳥谷町	村境塚	中世	字好地第１１・１２地割
127	石鳥谷町	石沢	縄文・古代	字好地
128	石鳥谷町	数馬尾根	縄文・古代	字好地
129	石鳥谷町	館野	縄文・古代	字好地
130	石鳥谷町	熊野堂	縄文・古代	字好地
131	石鳥谷町	堀子田	近世	字好地上好地
132	石鳥谷町	馬頭	縄文・古代	字好地
133	石鳥谷町	境船場	近世	字好地第１３地割
134	石鳥谷町	宝木Ⅰ	縄文	字新堀
135	石鳥谷町	宝木Ⅱ	縄文・古代	字新堀第５地割
136	石鳥谷町	鳥鳴田Ⅰ	縄文	字新堀第６８地割
137	石鳥谷町	石鳥谷船場	近世	字好地
138	石鳥谷町	―	縄文・平安	三日堀
139	石鳥谷町	沼の欠	平安	字新堀
140	石鳥谷町	殿屋敷	中世	字新堀北島
141	石鳥谷町	島	平安	字新堀
142	石鳥谷町	新堀城	中世	字新堀第６５地割
143	石鳥谷町	長善寺Ⅰ	縄文・古代	字新堀第６５地割
144	石鳥谷町	長善寺Ⅱ	縄文・古代	字新堀第６５地割
145	石鳥谷町	鳥鳴田Ⅱ	縄文	字新堀第６６地割

３．基本層序

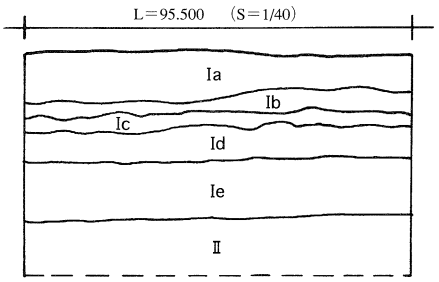
（１）調査区の地形

本調査区は二枚橋段丘の縁辺部、東向き緩斜面地に位置する。現況は水田と畑地で、現況の標高は95m前後である。現況では水田造成の盛土でほぼ平坦となっているが、旧地形を観察すると調査区の西から東にかけて緩やかに傾斜しており、調査区西側の最高位で標高95.0m、東側の最低位で94.4mとなっている。調査区は幅が直線距離にして約22mで0.6m低下しており、傾斜角度は約1.56°である。この数値からも分かるように調査区内はほぼ平坦であると言ってよい。

（２）調査区内の層序

調査区は南北に長い長方形を成しており、南北が最大長約65m、東西の最大長約22mである。調査区内を西から東に向かって緩やかに傾斜していき、調査区外東側の一段低い水田面に落ちる。

層位は大きく２層に区分されるが、Ⅰ層は水田造成時の盛土や水田床土などの現耕作土層であり、遺構は検出されない。Ⅱ層上面が明黄褐色粘土質土を呈しており、唯一の遺構検出面である。



基本層序　断面図

第Ⅰ層　現耕作土層である。総層厚は約10～90㎝で、土質の特徴によりさらに５細分される。

第Ⅰａ層（10YR2/3）黒褐色のシルト層である。層厚は約10～20㎝で、現況からの攪乱などで荒れている。

第Ⅰｂ層（10YR2/3）黒褐色のシルト層である。層厚は約0～20㎝で、明黄褐色の粘土質シルトブロックを混入する。水田耕作土層と見られる。

第Ⅰｃ層（10YR3/3）暗褐色のシルト層である。層厚は約0～10㎝で、水田耕作土層と見られる。

第Ⅰｄ層（10YR5/6＋10YR2/3）黄褐色の粘土質シルトと黒褐色のシルトの互層である。層厚は約10～20㎝で、水田を平坦にするために造成された盛土層である。

第Ⅰｅ層（10YR2/2）黒褐色のシルト層である。層厚は約0～60㎝で、旧耕作土層と見られる。

第Ⅱ層（10YR7/6）明黄褐色の粘土質シルト層である。層厚は不明で、唯一の遺構検出面である。すべての遺構がこの層位の上面で確認される。

Ⅲ　調査と整理の方法

１．調査経過

本遺跡の発掘調査は平成 15 年９月 16 日～11 月 11 日の 40 日間で実施し、それに伴う室内整理を平成 15 年 11 月１日～平成 15 年 12 月 31 日の 40 日間で実施した。以下、野外調査の経過を列記する。

９月 16 日午後、調査開始。機材の搬入及び現場設営を行う。

９月 17 日～18 日、雑物撤去及び試掘トレンチ（T1～T9）を設定し、順次トレンチ内をⅡ層上面まで掘り下げを行う。

９月 19 日～30 日、試掘トレンチ調査が終了した箇所から重機（バックホー）による表土除去作業を行う。合わせて、人力によるⅡ層上面の遺構検出を実施する。

10 月１日～６日、時期不明のピット約 300 基を検出し、数棟の掘立柱建物跡があることを確認する。検出した遺構から随時精査を行う。

10 月 10 日、岩手県立花北青雲高校３年生体験発掘（生徒約 25 名）。

10 月 14 日～24 日、陥し穴状遺構９基を検出し、随時精査を行う。並行して、コンタ図作成などを行う。

10 月 28 日、終了確認。

11 月１日、航空写真撮影。

11 月７日午後、調査終了し、器材撤収を行う。

11 月７日～11 日、借地箇所から排土を調査区内に運搬し、すべての調査を終了。

２．野外調査の方法

（１）グリッド設定

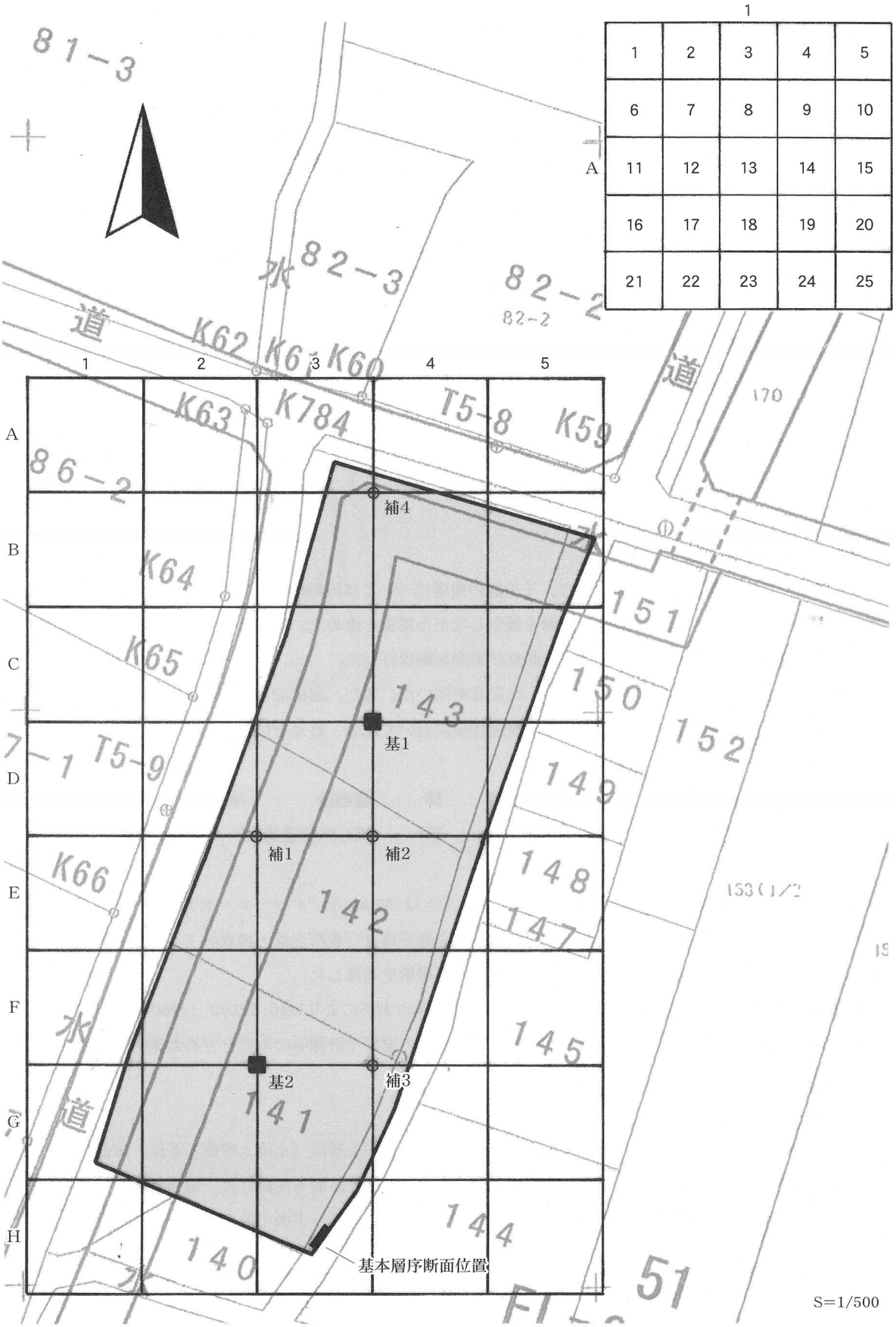
南日詰遺跡の調査区域は南北に約 65m、東西に約 22m の範囲で、北東から南西を長軸線とする長方形の形状を呈している。グリッドの設定については、国土座標Ｘ系に合わせ基準点１、基準点２を設定し、これを基に調査区全域をカバー出来るようにした。大グリッド（10×10m）は北から長軸方向にアルファベット大文字Ａ～Ｈ、短軸方向は算用数字１～５である。また、小グリッドは大グリッドを２×２ｍで 25 に分割し、北西隅を起点として、東西方向に１～５・６～10・11～15・16～20・21～25 とした。(例：１Ａ１グリッド)。なお、基準点の成果値は以下の通りである（日本測地系・世界測地系を併記)。

基準点１　Ｘ＝-52900.000　Ｙ＝28880.000　Ｈ＝95.181
基準点２　Ｘ＝-52930.000　Ｙ＝28870.000　Ｈ＝95.269　（日本測地系）

基準点１　Ｘ＝-52592.1399　Ｙ＝28580.1967　Ｈ＝95.181
基準点２　Ｘ＝-52622.1395　Ｙ＝28570.1964　Ｈ＝95.269　（世界測地系）

（２）試掘調査

雑物撤去後、最初に地形の状況と地層の堆積状況、遺構の有無、遺構・遺物集中区域の確認と把握を目的として、任意に 10 箇所の２×８ｍトレンチを設定し、人力でトレンチ調査を行った。


1
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10
A 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20
21 22 23 24 25
1 2 3 4 5
A B C D E F G H
補4
基1
補1
補2
基2
補3
基本層序断面位置
S=1/500

第５図　グリッド配置図

この結果、Ⅰ層現耕作土（層厚 10～90 cm）の下はⅡ層黄褐色粘土質土（層厚不明）となる層序を観察し、現表土層の下はすぐに最終遺構検出面になることを確認した。これは現代の耕作による攪乱または水田造成時の削平の影響が考えられる。

調査区中央付近に設定したトレンチでは、人力による掘削を行っている時からかなりの量の湧水があり、掘り上げたトレンチの中が水没するほどであった（これは以前水田として利用していたときの引き込みパイプがまだ埋まっているために、降雨の際などに湧き出たものである）。

Ⅰ層現耕作土層は層厚 10～90 cmあり、調査区の西から東に向かって緩やかに傾斜している。現況はほぼ平坦（水田の利用による）であるが、水田造成のために旧地形を改変したものであることも分かった。

（３）重機及び人力による粗掘・遺構検出

試掘トレンチ調査の成果をもとに、Ⅰ層現耕作土を重機（バックホー）により掘削、除去した。この後、人力による遺構検出などを行い、これによって遺構が検出された付近に関しては精査を行った。

これに合わせて調査区中央には東西方向にセクションベルトを設け、南北方向の調査区壁とで調査区内の堆積状況が分かるようにした。

（４）遺構の調査方法

住居跡及び竪穴遺構の調査は四分法で、その他の遺構については原則的に二分法で行い、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を順次行った。

遺構については、その性格により分類化した記号を用いた。また、遺構記号は調査を進めていく段階で付記した性格の遺構が検出された場合は、室内整理作業において記号・番号を付け直している。

SI ： 住居跡	SX ： 竪穴遺構	SB ： 建物跡	SK ： 土坑
SE ： 井戸跡	SD ： 溝跡	SKT ： 陥し穴状遺構	P ： ピット

遺跡・遺構・出土遺物の写真撮影については、フィルムは 35 mm モノクローム・カラーリバーサルを併用し、6 × 4.5 cm モノクロームは住居跡・竪穴遺構平面完掘写真及び遺跡全景・調査終了写真などに限って使用した。また、調査終了直前に調査区域全体の航空写真撮影を実施した。

実測図の縮尺は1/20を基本としたが、遺構の種類や規模の大小により1/10、1/100、1/200などを用いた。なお、調査の進行上土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみにとどめた遺構もある。

（５）遺物の取り上げ方

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位（上位・中位・下位・床面直上・床面・底面など）を記し、このうち床面・底面出土分については出土位置も記録した。遺構外出土分はグリッド毎に層位を記した。ただしⅠ層出土分及び表採分については大グリッド名のみのものもある。

３．室内整理の方法

平成 15 年 11 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日〔約２ヵ月間：整理作業員３名（12月は２名)〕の期間で室内整理作業を行った。以下、室内整理の経過を列記する。

11 月 1 日、室内整理作業開始（室内整理作業職員数３名)。遺物洗浄及び註記作業を行う。

11 月中下旬は土器接合作業を行う。並行して調査員は遺構第二原図作成、遺物観察表作成を行う。11 月下旬まで復元・石膏入れを行う。

11 月下旬、遺物実測開始（土器・石器)・土器拓影、並行して遺構トレース図作成、原稿執筆・遺物計測・遺物写真撮影を行う（～12 月中下旬)。

12 月下旬、遺構・遺物トレース図作成を行う。

12 月中～下旬、図版仮組開始。調査員は原稿執筆を行う。

12 月下旬、図版本組開始。

12 月 26 日、室内整理作業終了（40 日間)。

（１） 遺構

遺構については現場で図化してきた遺構図面を第一原図とし、註記や遺構の切り合い関係、配置などを検討しながら担当調査員が遺構毎に第二原図を作成し、その上でトレースを行った。各遺構については、位置・規模・形態などの基礎データを抽出し、遺構一覧表を作成した。遺構図版は各遺構種別に、住居跡・竪穴遺構・建物跡・土坑・井戸跡・溝跡・陥し穴状遺構・ピットの順で掲載した。

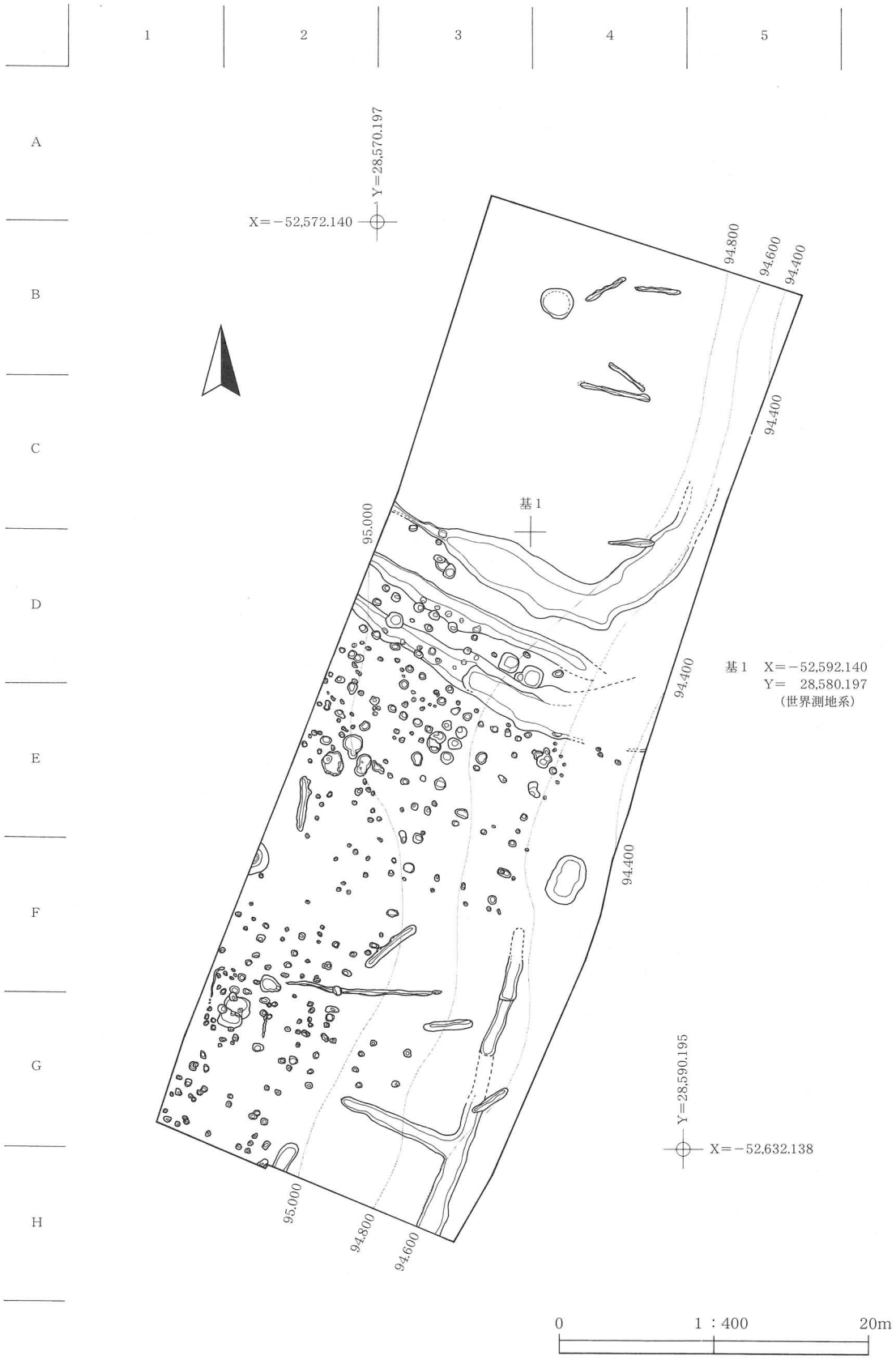
（２） 遺物

水洗・註記を行った後、グリッド毎・遺構毎に仕分けを行い、重量計測を行った。そして、各遺構・各層位・各グリッドで接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録作業、実測、拓影、トレース、写真撮影といった手順で行った。

掲載遺物については、遺構内から出土したものを最優先とし出来る限り掲載するよう努めた。遺構内出土遺物については、基本的に層位順に掲載し、遺構の存続時期に近いと考えられる床面・底面→覆土下位→覆土中位→覆土上位の順序とした。遺構外出土遺物については時期的な変遷が追えるような資料を優先とし、出来る限りその順序で掲載した。また、立体土器・口縁部破片・器形復元可能な破片を掲載した。上記の基準を満たさないものでも出来る限り図化し、掲載した。

（３） 掲載図版の構成

掲載図版は遺構と遺物を分け、遺構図版は遺構の種別毎に掲載し、遺物図版は土器・陶磁器・石器など種別毎に掲載した。遺物番号については、№0001 から連番で付し、さらに掲載番号を付した。このほかに、図版番号・写真番号も合わせて記載している。観察表の（　）内数値は残存値、〔　〕内数値は推定値である。


1
2
3
4
5
A
B
C
D
E
F
G
H
Y=28,570.197
X=−52,572.140
94.800
94.600
94.400
94.400
基1
95.000
94.400
基1 X=−52,592.140
Y= 28,580.197
(世界測地系)
94.400
Y=28,590.195
X=−52,632.138
95.000
94.800
94.600
0
1：400
20m

第6図　遺構配置図

Ⅳ　検出遺構

検出遺構数は、住居跡１棟、竪穴遺構１棟、建物跡８棟、井戸跡２基、土坑８基、陥し穴状遺構９基、溝跡６条、ピット156基である。いずれの遺構も近年の水田造成の影響を大きく受けており、遺構上部をかなり削平されている。残存状態は悪く、遺物出土量もかなり少ない。

遺構説明については、住居跡→竪穴遺構→建物跡→井戸跡→土坑→溝跡→陥し穴状遺構→ピットの順で記載する。

１．住居跡（ＳＩ）

本調査で検出された住居跡は１棟である。住居跡を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形、覆土の状態、壁・床面の状態、遺構に伴うピットと柱穴の判別、炉の形態、出土遺物、推察される遺構の所属時期について記載を行う。

ＳＩ０１住居跡

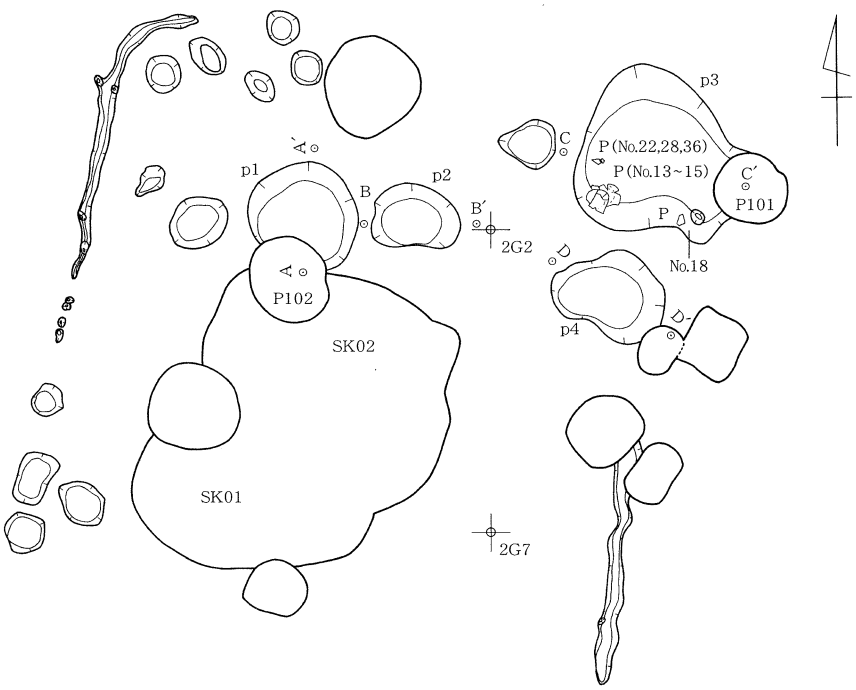
遺構（第７図、写真図版３）

[位置・検出状況]調査区南西の2G1～2・2G6～7グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構覆土は削平の影響により失われており床面レベルが露出した状態であったが、一部方形に巡る周溝が観察されたこと、カマドの痕跡と見られる焼土跡を確認したことから住居跡と判断して精査を進めた。[重複関係]遺構中央にSK01・02土坑と重複しており、本遺構が切られている。この他にSB04～06建物跡を構成する柱穴、ピットなど多くと重複しているが、いずれも本遺構よりも新期であり、本遺構が切られている。[規模・平面形]竪穴住居である。壁は失われており不明であるが、周溝の位置から推定すると長軸で(450)cm以上、短軸で(450)cmの隅丸方形プランを呈すると考えられる。床面積は推定で(20.7)㎡である。[覆土]削平の影響により失われている。しかし、周溝覆土から黒褐色堆積土であったとみられる。[壁・床面]前述の通り壁は残存しておらず、詳細は不明である。床面は全体的に堅緻でありレベルはほぼ平坦であるが、カマド燃焼部の残存がみられないため僅かながら削平されている可能性がある。[柱穴]柱穴と推定されるピットを遺構想定範囲から11基検出した。規則性はみられないが、周溝内側にみられる。[廃棄焼土ピット]当初はカマドの残存と考えていたが、廃棄焼土を堆積したピットである。覆土には炭化物粒も少量混在する。遺構推定範囲の床面北寄りから３基検出した。p1が80×78cmの楕円形で、深さ約11cmで強変した焼土を堆積している。p2が58×14cmの楕円形で、深さ約18cmで強変した焼土を堆積している。p4は68×48cmの楕円形で、深さ約18cmで強変した焼土を堆積している。[貯蔵ピット]遺構推定範囲内の北東隅に120×(100)cm規模のピット(p3)を１基検出した。ピット内から土師器坏２個体ほかを検出しており、住居跡に伴うピットであると推定される。

遺物（第21～23図、写真図版19～21）

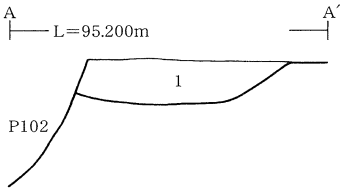
[出土状況]貯蔵ピット（p3）底面から出土している。[遺物]No.13～15土師器坏、No.18土師器高台付坏片、No.22・28土師器甕片、No.36須恵器大甕片。いずれも貯蔵ピット（p3）からの出土。

時期　遺構プラン及び付属施設から出土した遺物から、平安時代中期に所属すると考えられる。



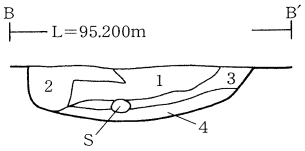
0　1：50　2m

p1



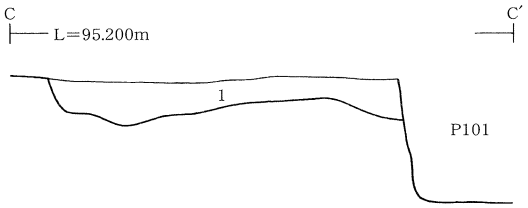
1．2.5YR4/8 赤褐色+2.5YR3/6　暗赤褐色廃棄焼土
　粘性やや弱　しまり密
　含極暗褐色シルト(径1cm)2％

p2



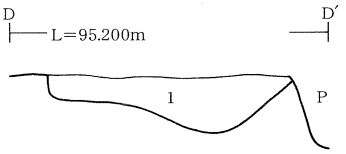
1．5YR5/6　明褐色　粘性弱　しまり密
2．5YR2/3　極暗褐色　粘性弱　しまり密
3．10YR2/3 黒褐色　粘性弱　しまり密
　含炭化物(径1～5cm)5％
4．2.5YR5/8 明赤褐色　粘性弱　しまり密

p3



1．10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　しまりやや密

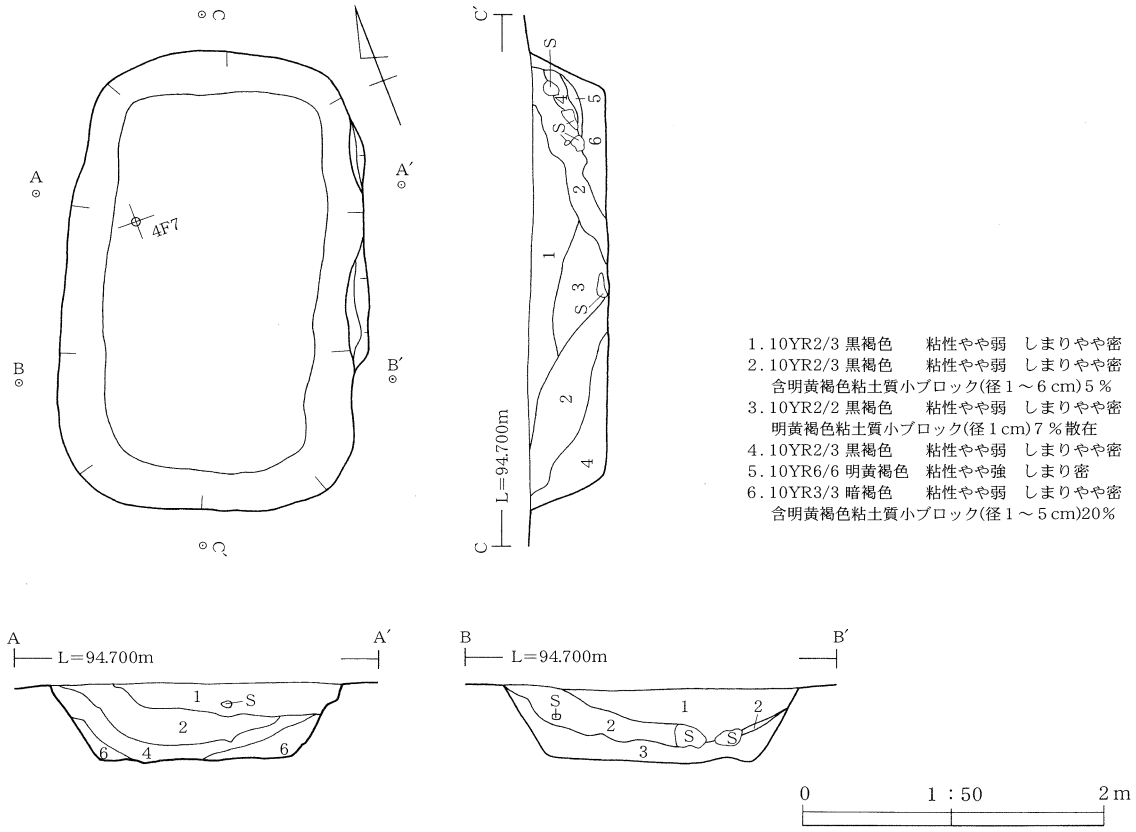
p4



1．10YR4/6 褐色+5YR5/8 明赤褐色廃棄焼土
　粘性やや弱　しまり密

0　1：20　80cm

第7図　S I 01 住居跡



第8図　ＳＸ01 竪穴遺構

2．竪穴遺構（ＳＸ）

計1棟検出した。住居跡とほぼ同様の平面形を呈するが、炉や柱穴など住居跡を構成する要素に欠けている遺構を分類した。

竪穴遺構を説明するために、住居跡とほぼ同様の項目について記載を行う（遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形、覆土の状態、壁・底面の状態、遺構に伴うピット、出土遺物、推察される遺構の所属時期）。

ＳＸ０１竪穴遺構

遺構（第8図、写真図版4）

[位置・検出状況]調査区中央東側の4F1･2､6･7､11グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランで拡がる黒褐色土を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から深さ約60 cmのところで床面に達した。しかし、カマドなど居住施設を持たないことなどから竪穴遺構と判断して精査を進めた。[重複関係]なし。[規模・平面形]隅丸長方形プランを呈し、長軸で約308 cm、短軸で約193 cmである。深さは約55.2 cm、床面積は推定で約3.58 ㎡である。[覆土]黒褐色土主体で構成される。水分を多量に含んでおり、掘り下げ段階から水が湧く状態であった。[壁・床面]壁高は東壁50 cm・西壁50 cm・北壁50 cm・南壁46 cmであり、床面からは外形しながら急斜度で立ち上がる。床面はほぼ平坦に構築されている。[柱穴]なし。

遺物（第24・25図、写真図版21・22）

[出土状況]遺構覆土などから出土している。[遺物]№50陶器碗片（18世紀）、№66陶器壺片？（時期不明）。

時期　遺構の位置及び形状、出土遺物からSB01建物跡と同時期に想定されることから、近世と考えられる。

３．建物跡（ＳＢ）

計８棟検出した。建物跡はいずれも掘立柱建物跡で、礎石建物跡はない。

建物跡を説明するために、以下の項目について記載を行う（遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形式、建物の方位（長軸方向）、覆土の状態、柱間寸法、遺構に伴う柱穴、付属施設の有無、想定される建物の性格、出土遺物、推察される遺構の時期）。

ＳＢ０１建物跡

遺構（第9図、写真図版5）

[位置・検出状況]調査区中央の3F4グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約33.0㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]なし。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は桁行1,151㎝、梁行727㎝の長方形プランを呈する。床面積は推定で83.68㎡（25.36坪）である。[建物方位]N-20°-E　[覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]6.0尺（約182㎝）を多用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は41基である。柱は残存していないため、廃棄時に抜去されたものとみられる。[付属施設]隣接するSX01竪穴遺構が付属施設として想定される。[建物の性格]規模及び平面形式から主屋と考えられる。

遺物（第21～23図・写真図版19・20）

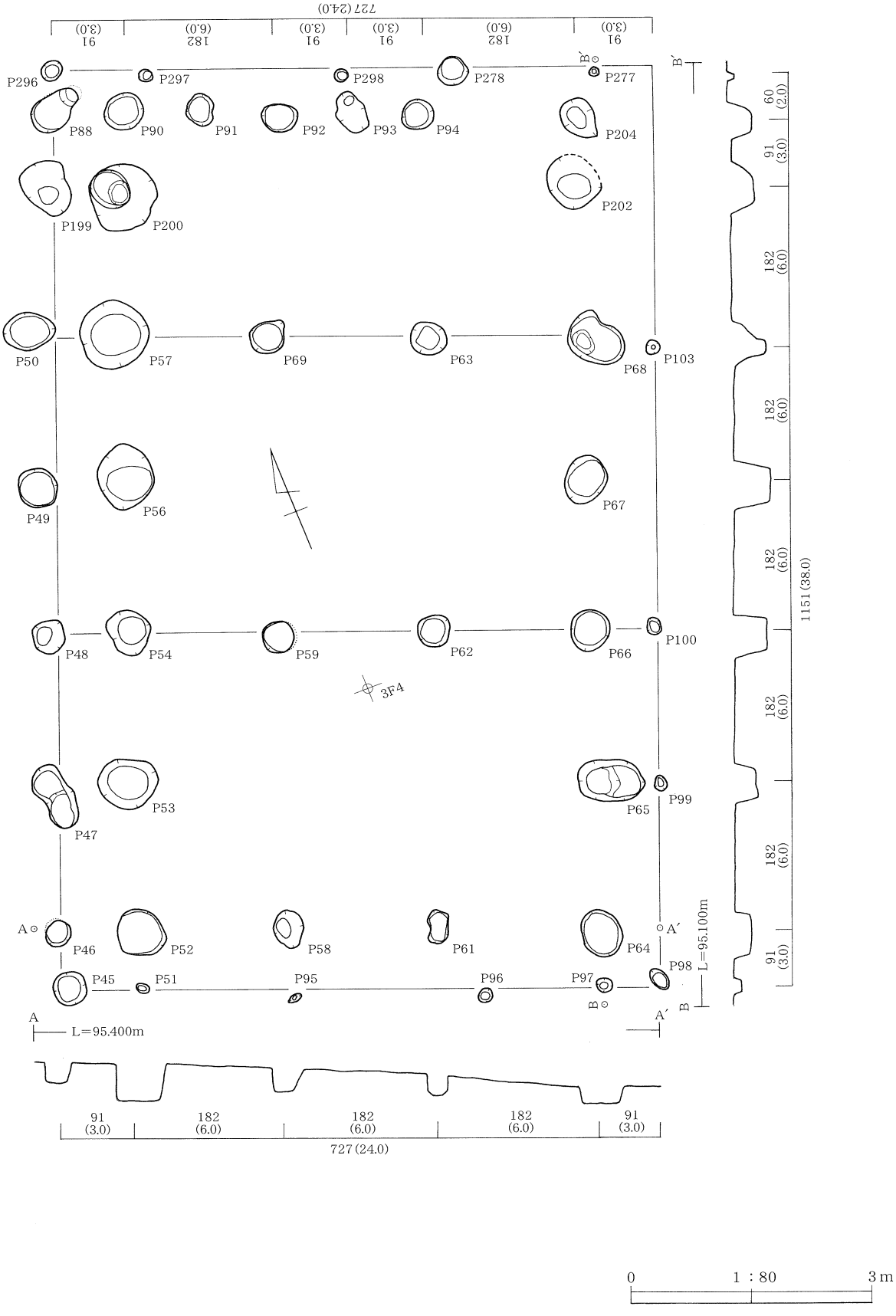
[出土状況]P50（№2・31）、P57（№7・8・32・33）覆土から出土している。[遺物]№2須恵器坏片、№7・8土師器坏片、№31～33須恵器大甕片（9世紀後半～10世紀初頭）。

時期　柱穴覆土内から前述の遺物を出土しているが、いずれも廃棄後などの混入によると考えられる。遺構の存続時期は不明であるが、遺構形態から近世～近代に所属すると考えられる。

ＳＢ０２建物跡

遺構（第10図、写真図版5）

[位置・検出状況]調査区中央の3D17グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約30.9㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]プラン内でSB03建物跡と重複するが本遺構が旧期にあたる。また、SD04・06溝跡と重複関係にあるが、これも本遺構が旧期にあたる。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は桁行515㎝、梁行288㎝の長方形プランを呈する。床面積は推定で14.83㎡（4.50坪）である。[建物方位]N-60°-W　[覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]3.0



0　1：80　3m

第9図　SB01 建物跡

尺（約91 cm）を多用しているが、3.5尺（約106 cm）・4.5尺（約136 cm）など様々な寸法を使用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は11基である。柱は残存していないため、廃棄時に抜去されたものとみられる。[付属施設]隣接するSB01建物跡の付属施設として想定される。[建物の性格]規模及び平面形式から付属屋と考えられる。

遺物　なし。

時期　出土遺物が皆無なため不明であるが、隣接するSB01建物跡に付属すると考えられ、同時期の近世～近代に想定される。

ＳＢ０３建物跡

遺構（第11図、写真図版6）

[位置・検出状況]調査区中央の3E1グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約33.1 cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]プラン内でSB02建物跡と重複するが本遺構が新期にあたる。また、SD04・06溝跡と重複関係にあるが、これも本遺構が新期にあたる。遺構南側の柱穴P104がSK03土坑と重複しており、切られている。[規模・平面形式]　掘立柱建物である。規模は桁行1033 cm、梁行658 cmの長方形プランを呈する。床面積は推定で67.97 ㎡（20.60 坪）である。[建物方位]N-20°-E　[覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]6.2尺（約188 cm）・3.1尺（約94 cm）を多用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は39基である。このうち、P70・84・104・107・110・111・112・114・117・120・182・214・216・299・302の15基には柱材が残存しており、いずれも柱材根元部分には加工はされてなく円柱状である。P84・114・182・216・299の5基出土柱材について樹種同定を行ったところ、いずれもブナ科クリ属クリであるとの同定結果を得た。[付属施設]遺構プラン内北西隅にSK07土坑が存在し、間仕切り中央に配置されていることから、何らかの付属施設である可能性がある。[建物の性格]規模及び平面形式から主屋と考えられる。

遺物（第23図、写真図版21）

[出土状況]P83（№37）覆土から出土している。[遺物]№37須恵器大甕片。

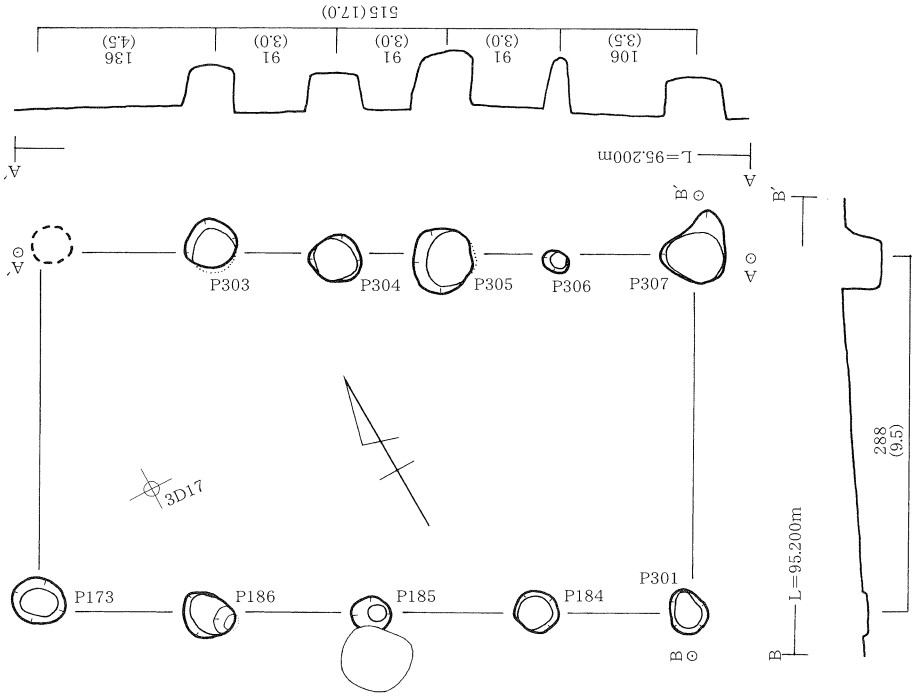
時期　柱穴覆土内から前述の遺物を出土しているが、いずれも廃棄後などの混入によると考えられる。遺構の存続時期は不明であるが、遺構形態から近世～近代に所属すると考えられる。また柱材を多く残存すること、他遺構からはあまり検出されていないこと、他建物跡との重複関係から検出した建物跡の中では最も新しいとみられる。

ＳＢ０４建物跡

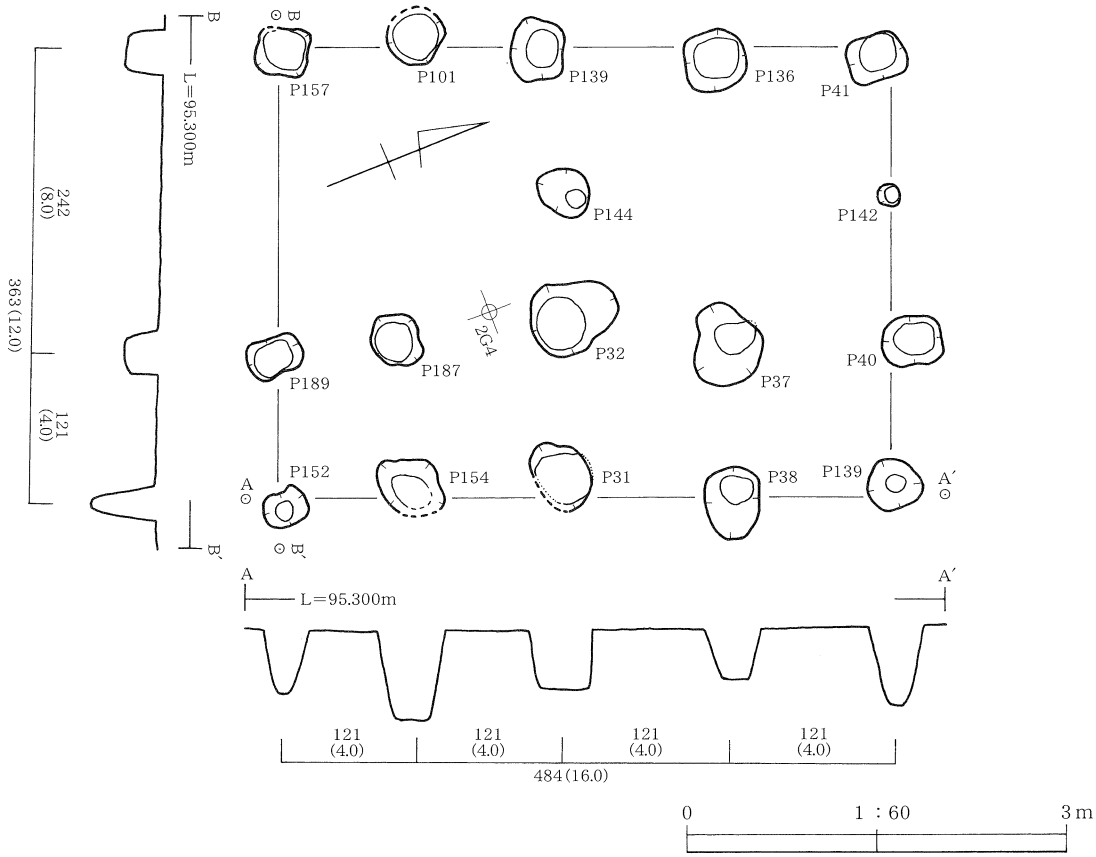
遺構（第12図、写真図版6）

[位置・検出状況]調査区南西側の2G15グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約27.4 cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]

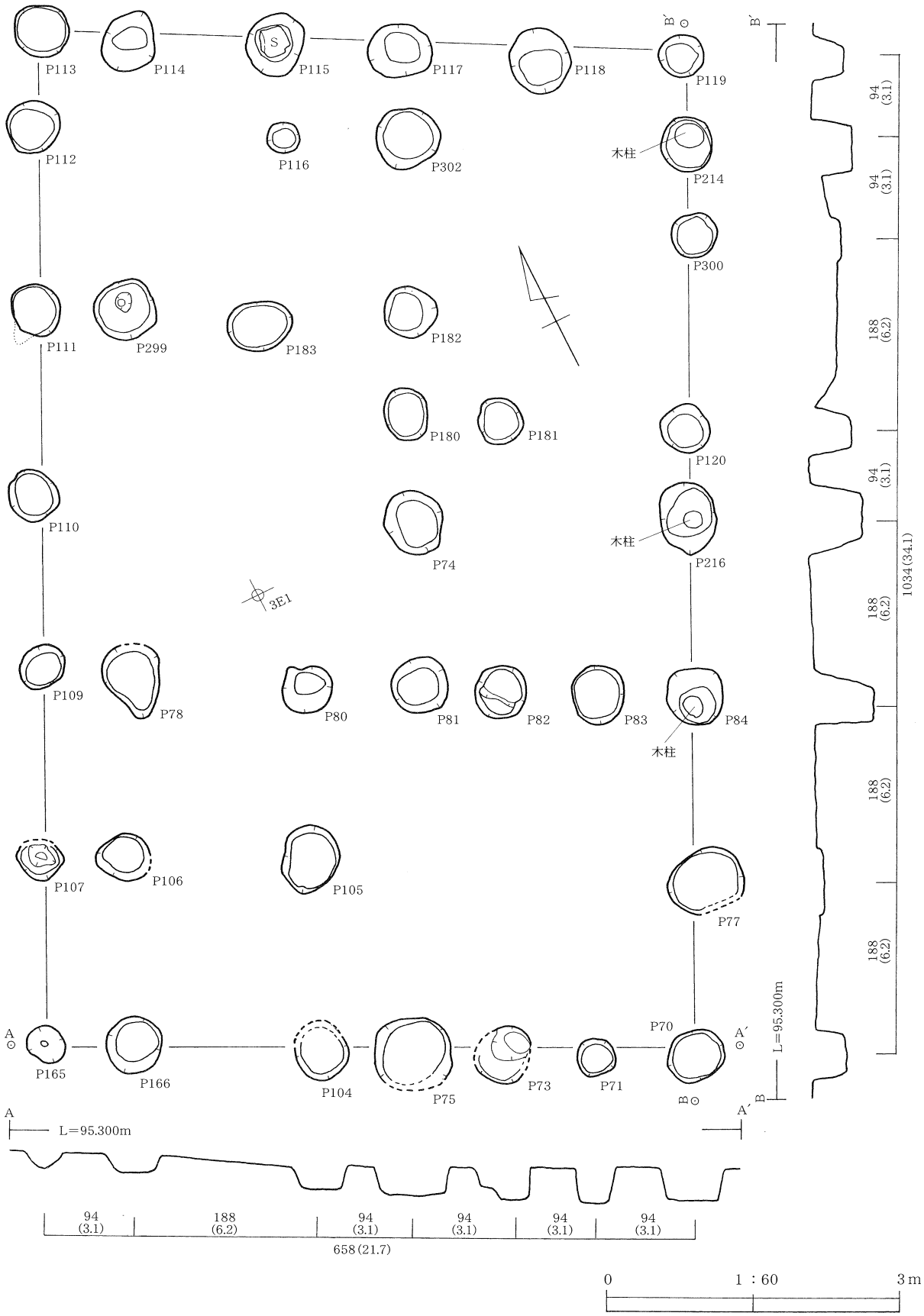
SB02



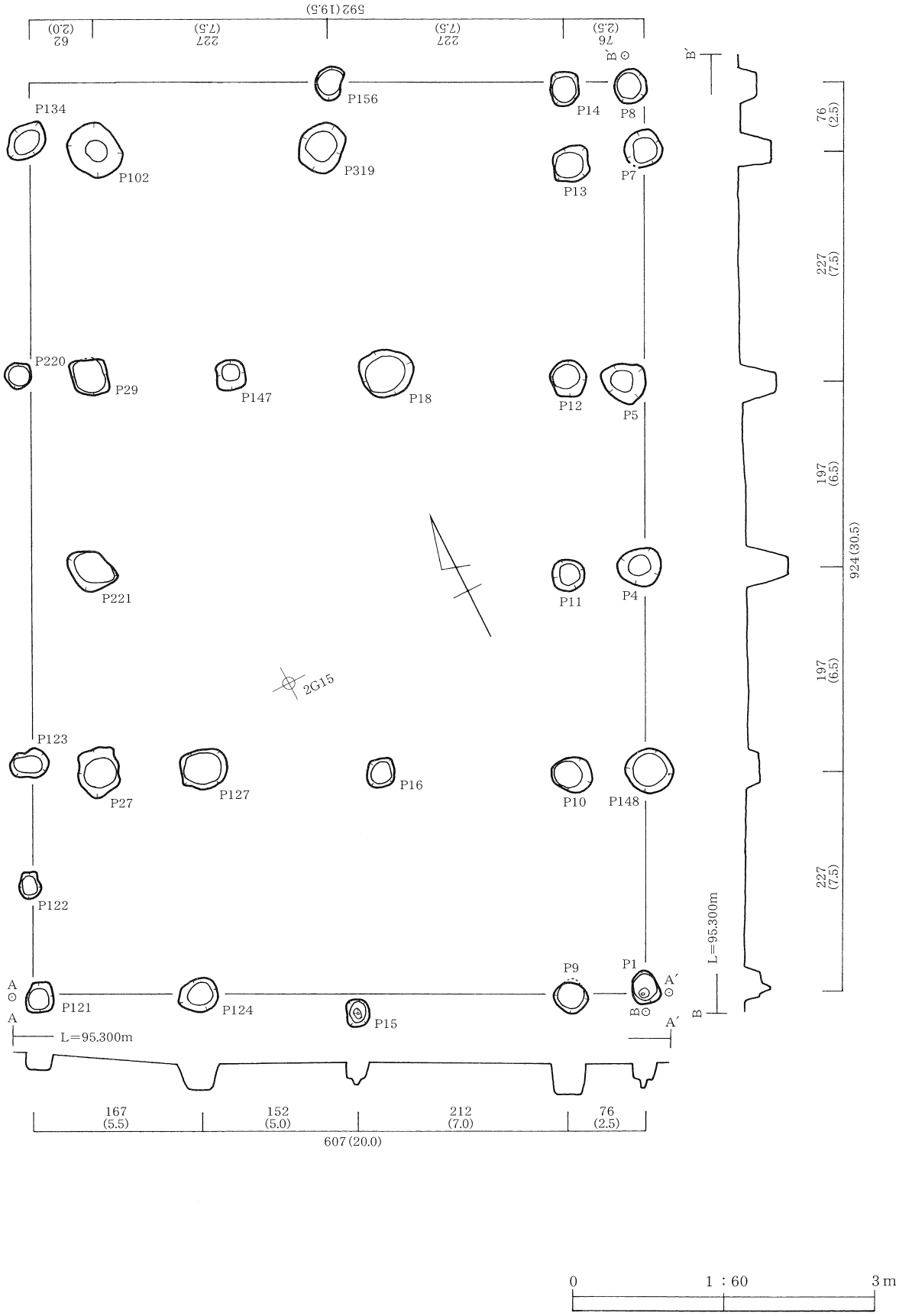
SB05



第10図　ＳＢ02・05 建物跡



第11図　ＳＢ03 建物跡



第12図　ＳＢ04 建物跡

プラン内でSB06建物跡と、また遺構北側でSB05建物跡とも重複しているが新旧関係は不明である。遺構北側でSI01竪穴住居跡・SK01・02土坑と重複しているが、本遺構が新期である。その他、多数のピットと重複関係にあるが、新旧関係は不明である。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は桁行924㎝、梁行606㎝の長方形プランを呈する。床面積は推定で55.99㎡（16.97坪）である。[建物方位]N-20°-E　[覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]6.5尺（約197㎝）・7.5尺（約227㎝）のほか、5寸で割り切れる様々な寸法を使用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は30基である。柱は残存していないため、廃棄時に抜去されたものとみられる。[付属施設]隣接するSB07建物跡が付属施設として想定される。[建物の性格]規模及び平面形式から主屋と考えられる。

遺物（第21・23図、写真図版19・21）

[出土状況]P124（№40）、P127（№9）覆土から出土している。[遺物]№9土師器坏片、№40須恵器片？。

時期　柱穴覆土内から前述の遺物を出土しているが、いずれも廃棄後などの混入によると考えられる。遺構の存続時期は不明であるが、遺構形態から近世～近代に所属すると考えられる。

ＳＢ０５建物跡

遺構（第10図、写真図版7）

[位置・検出状況]調査区南西側の2G4グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約46.1㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]遺構南側でSB04建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。プラン内でSD03溝跡と重複しているが、本遺構が新期と考えられる。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は桁行485㎝、梁行364㎝の長方形プランを呈する。床面積は推定で17.65㎡（5.35坪）である。[建物方位]N-20°-E　[覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]4.0尺を基準寸法としている。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は17基である。このうち、P101には柱材が残存していた。[付属施設]隣接するSB06・08建物跡が付属施設として想定される。[建物の性格]SB06建物跡を主屋とし、これに付属する小屋的な建物と考えられる。SB08建物跡も同じ性格と考えられるが、本遺構と同時期に存在していたかは不明である。

遺物（第22図、写真図版20）

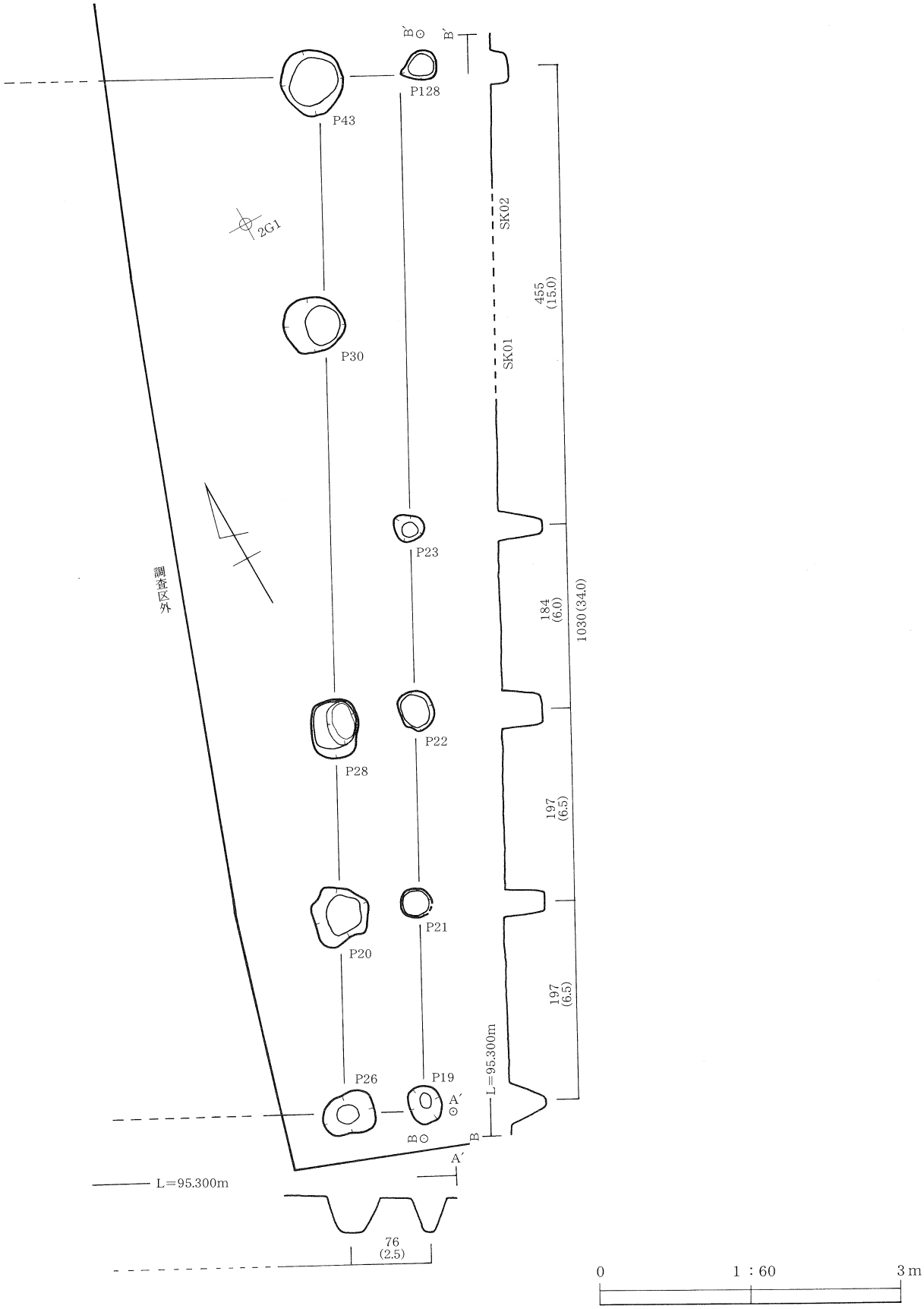
[出土状況]P157（№29）覆土から出土している。[遺物]№29土師器甕片。

時期　柱穴覆土内から前述の遺物を出土しているが、いずれも廃棄後などの混入によると考えられる。遺構の存続時期は不明であるが、遺構形態から近世～近代に所属すると考えられる。

ＳＢ０６建物跡

遺構（第13図、写真図版7）

[位置・検出状況]調査区南西側の2G1グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、一部が調査区外へと延びる長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結



第13図　ＳＢ06 建物跡

果、検出面から深さ平均約 36.6 cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]遺構全体で SB04 建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。また、SI01 住居跡・SK01・02 土坑と重複しており、いずれよりも新期である。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は調査区外に延びているため残存値であるが、桁行（1,030）cm、梁行（300）以上cmの長方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で（30.9）㎡以上（9.36 坪以上）である。[建物方位]N-28°-E [覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]6.0 尺（約 182 cm）・6.5 尺（約 197 cm）などを使用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は 10 基である。柱は残存していないため、廃棄時に抜去されたものとみられる。[付属施設]隣接する SB05・08 建物跡が付属施設として想定される。[建物の性格]調査区外に架かっているため全体の平面形式は不明であるが、規模から主屋的な建物と考えられる。本遺構に付属すると考えられる SB05・08 建物跡は、付属小屋的な建物と想定される。

遺物（第 22 図、写真図版 20）

[出土状況]P43（№23）覆土から出土している。[遺物]№23 土師器甕片。

時期　柱穴覆土内から前述の遺物を出土しているが、いずれも廃棄後などの混入によると考えられる。遺構の存続時期は不明であるが、遺構形態から近世～近代に所属すると考えられる。

ＳＢ０７建物跡

遺構（第 14 図、写真図版 8）

[位置・検出状況]調査区南西側の 2G10 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約 47.6 cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]遺構の一部が SB05 建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。また P31 柱穴が SD03 溝跡と重複しており、本遺構が新期である。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は残存値で桁行 530 cm、梁行 275 cm の長方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で 14.58 ㎡以上（4.42 坪以上）である。[建物方位]N-20°-E [覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]4.5 尺（約 135 cm）・3.5 尺（約 106 cm）などを使用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は 7 基以上である。柱は残存していないため、廃棄時に抜去されたものとみられる。[付属施設]隣接する SB04 建物跡が付属施設として想定される。[建物の性格]SB04 建物跡を主屋とし、これに付属する小屋的な建物と想定される。

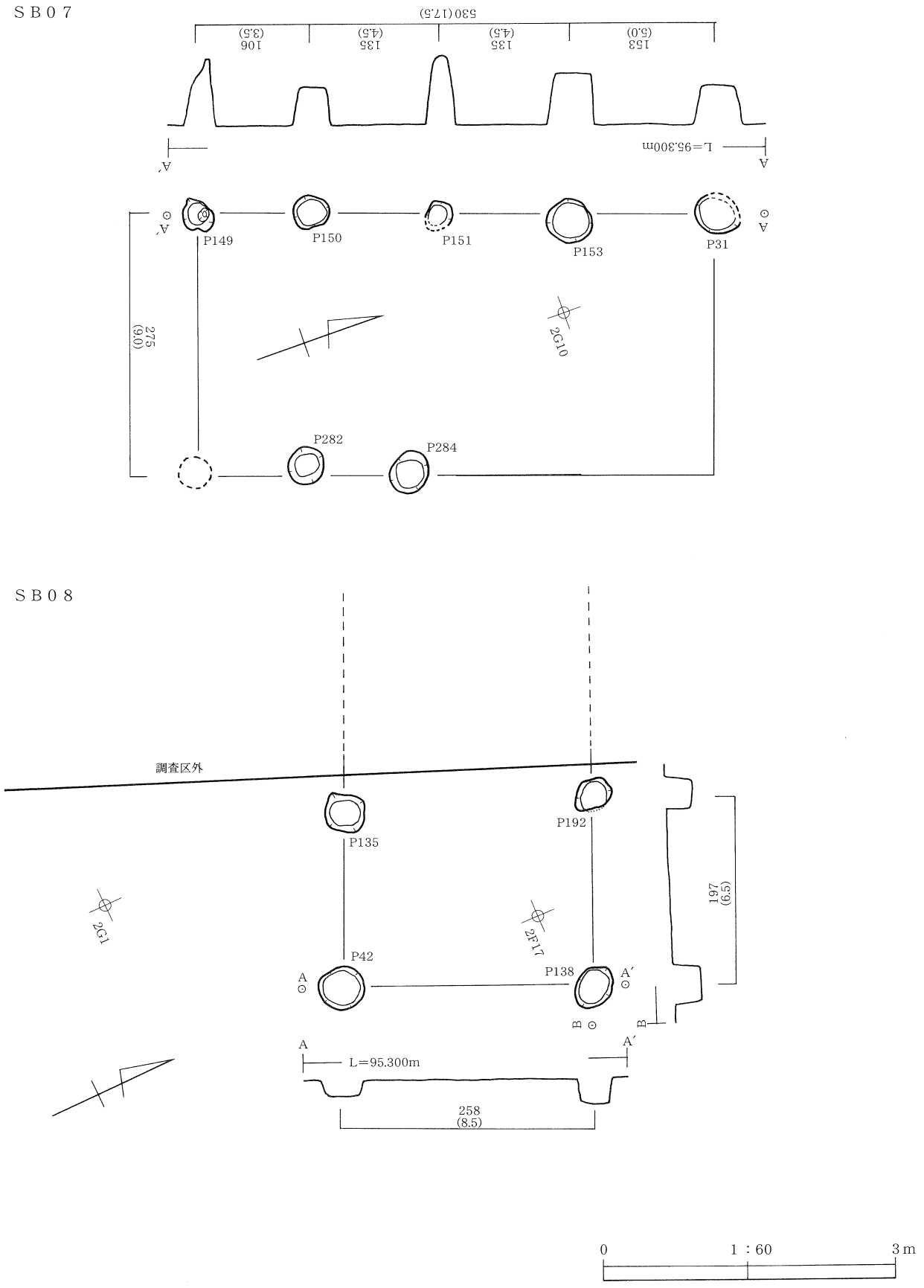
遺物　なし。

時期　出土遺物が皆無なため不明であるが、隣接する SB04 建物跡に付属すると考えられ、同時期の近世～近代に想定される。

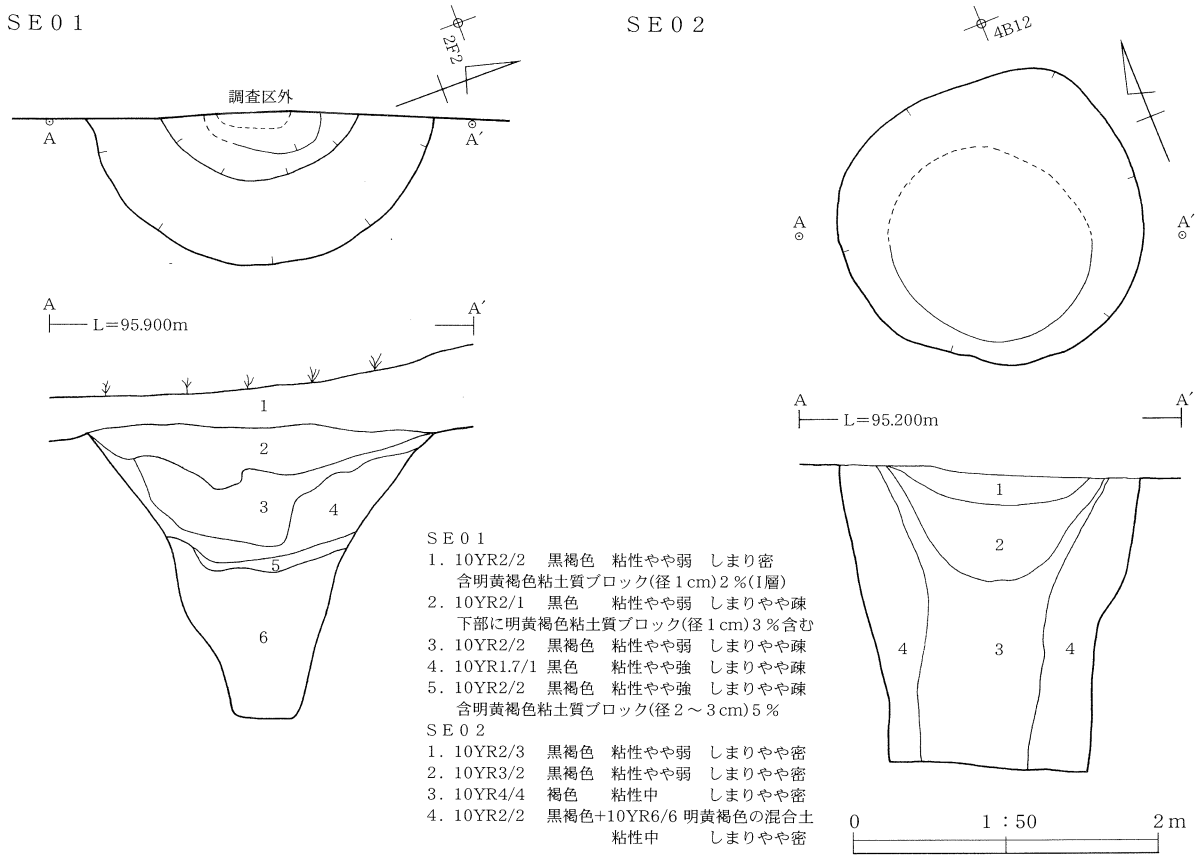
ＳＢ０８建物跡

遺構（第 14 図、写真図版 8）

[位置・検出状況]調査区中央の 2F17 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、一部が調査区外へと延びる長方形プランに配列



第14図　ＳＢ07・08 建物跡



第15図　ＳＥ01・02 井戸跡

する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ平均約 23.8 cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。[重複関係]なし。[規模・平面形式]掘立柱建物である。規模は調査区外に延びているため残存値であるが、桁行(197)cm以上、梁行 258 cmの長方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で(5.08)㎡以上（1.54 坪以上）である。[建物方位]N-66°-W　[覆土]柱穴覆土はほぼ単一層を呈し、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。[柱間寸法]6.5 尺（約 197 cm）・8.5 尺（約 264 cm）などを使用している。[柱穴]本遺構に使用されたと考えられる柱穴は 4 基以上である。柱は残存していないため、廃棄時に抜去されたものとみられる。[付属施設]隣接する SB05・06 建物跡が付属施設として想定される。[建物の性格]SB06 建物跡を主屋とし、これに付属する小屋的な建物と考えられる。SB05 建物跡も同じ性格と考えられるが、本遺構と同時期に存在していたかは不明である。

遺物　なし。

時期　出土遺物が皆無なため不明であるが、隣接する SB06 建物跡に付属すると考えられ、同時期の近世～近代に想定される。

4．井戸跡（ＳＥ）

計 2 基検出した。井戸跡を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の形状及び規模、覆土の状態、出土遺物、推定される形成時期について記載を行う。

ＳＥ０１井戸跡（第 15 図、写真図版 10）

[位置・検出状況]調査区中央西際の 2E2 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、調査区に架かる半円形の黒褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は残存値で（224）×（102）cmの円形である。断面形は漏斗状で下半部はほぼ垂直、上半部は徐々に開く形状である。深さは 188 cmを測る。[覆土]5 層に細分され、黒褐色土主体である。下部は水分を多く含み、粘性が強い。堆積状況から人為堆積と考えられる。[出土遺物（第 22 図、写真図版 20）]№19 須恵器壺片？、№26 土師器甕片。[時期]　詳細な時期は不明であるが、建物跡に付属すると考えられるため、近世に所属すると想定される。

ＳＥ０２井戸跡（第 15 図、写真図版 10）

[位置・検出状況]調査区北側の 4B11 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は開口部 198×193 cmの円形である。断面形は下半部がほぼ垂直、上半部は開口部に向かってやや開く形状である。深さは 204 cmを測る。[覆土]大きく 3 層に分けられ、上半部は黒褐色土主体、下半部は褐色土主体で構成される。下部で井戸枠と見られる建築部材を確認している。堆積状況から人為堆積と考えられる。[出土遺物]なし。[時期]不明であるが、形態から近世～近現代とみられ、近接する SB03 建物跡との関連が想定される。

５．土坑（ＳＫ）

計 8 基検出した。土坑を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の形状及び規模、覆土の状態、出土遺物、推定される形成時期について記載を行う。

ＳＫ０１土坑（第 16 図、写真図版 9）

[位置・検出状況]調査区南西側の 2G1 グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、楕円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SI01 住居跡・SK02 土坑と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、SB06 建物跡 P30 及び P25 と重複しているが、これらには切られており本遺構が旧い。[形状・規模]平面形は 156×（110）cmの楕円形である。断面形は皿形で深さ 31.8 cmを測る。[覆土]黒色土主体の単一層で構成される。[出土遺物（第 21 図、写真図版 19）]№3 須恵器坏片。[時期]遺構の重複関係から平安時代以降、近世以前に想定される。

ＳＫ０２土坑（第 16 図、写真図版 9）

[位置・検出状況]調査区南西側の 2G1 グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、楕円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SI01 住居跡と重複関係にあり、本遺構が新しい。また SK01 土坑、SB06 建物跡 P30 及び P102 と重複しているが、これらに切られており本遺構が旧い。[形状・規模]平面形は 170×（130）cmの楕円形である。断面形は皿形で深さ 20.5 cmを測る。[覆土]黒色土主体の単一層で構成される。[出土遺物（第 22・24 図、写真図版 20・21）]№24 土師器甕片、№41 陶器皿片。[時期]　遺構の重複関係から平安時代以降、近世・近世以前に想定される。

ＳＫ０３土坑（第16図、写真図版9）

[位置・検出状況]調査区中央西側の2E15グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SB03建物跡P104と重複しており、本遺構が旧い。[形状・規模]平面形は123×110㎝の円形である。断面形は皿形で深さ31.4㎝を測る。[覆土]黒色土主体の2層で構成される。[出土遺物]なし。[時期]重複関係から近世以降に想定される。

ＳＫ０４土坑（第16図、写真図版9）

[位置・検出状況]調査区中央西側の2E14グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SK05土坑と重複しており、本遺構が新期である。[形状・規模]平面形は80×64㎝の円形である。断面形は擂鉢形で深さ43.2㎝を測る。[覆土]黒色土主体の単一層で構成される。[出土遺物（第23図、写真図版21）]№34須恵器大甕片。[時期]覆土内から遺物を出土しているが、本遺構の存続時期に関係するか不明である。

ＳＫ０５土坑（第16図、写真図版9）

[位置・検出状況]調査区中央西側の2E14グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SK04土坑と重複しており、本遺構が旧期である。[形状・規模]平面形は159×150㎝の円形である。断面形は皿形で深さ29.8㎝を測る。[覆土]黒褐色土主体の単一層で構成される。[出土遺物]なし。[時期]不明である。

ＳＫ０６土坑（第16図、写真図版9）

[位置・検出状況]調査区中央の3D25グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、方形に拡がる混合土プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は121×119㎝の方形である。断面形は皿形で深さ37.5㎝を測る。[覆土]3層で構成される。混合土中心に粘土質土が多いため、人為堆積と考えられる。[出土遺物]なし。[時期]不明である。

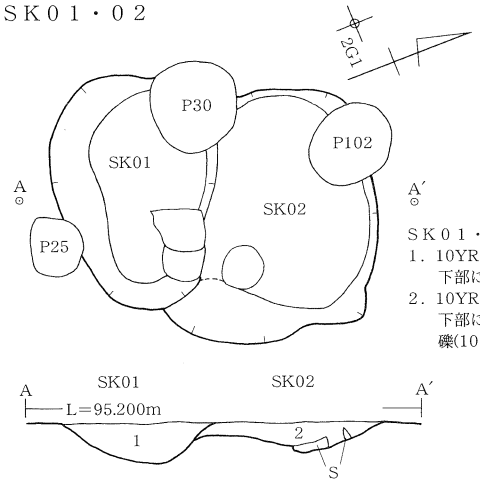
ＳＫ０７土坑（第16図、写真図版10）

[位置・検出状況]調査区中央西側の3D11グリッドに位置する。SD04溝跡を精査後、円形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SD04溝跡と重複しており、本遺構が新しい（精査はSD04溝跡精査後に行った）。[形状・規模]平面形は102×96㎝の円形である。断面形は擂鉢形で深さ99.0㎝を測る。[覆土]黄褐色粘土質土がブロック状に混入する黒褐色土主体で構成される。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物なく不明であるが、SB03建物跡プラン北東隅にあたり、何らかの関係性も考えられる。

ＳＫ０８土坑（第16図、写真図版10）

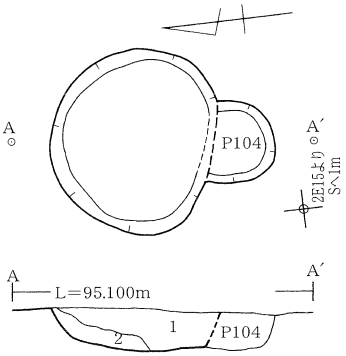
[位置・検出状況]調査区中央の3D25グリッドに位置する。SD04溝跡を検出中に、方形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]SD04溝跡と重複しており、本遺構が古い。[形状・規模]平面形は130×126㎝の方形である。断面形は皿形で深さ34.0㎝を測る。[覆土]2層で構成され、上部が黒褐色土の単一層、下部が混合土である。堆積状況から人為堆積と考えられる。[出土遺物]なし。[時期]不明である。

ＳＫ０１・０２



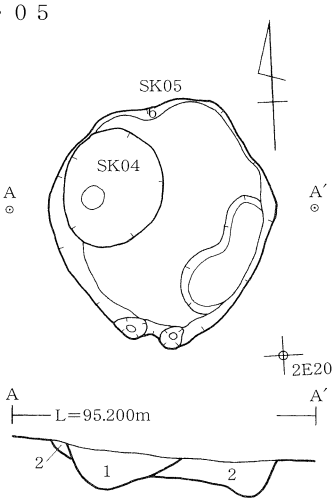
ＳＫ０１・０２
1．10YR2/1 黒色　粘性やや弱　しまりやや疎
　下部に黒褐色+明黄褐色粘土質土の混合土含む(10%)
2．10YR2/1 黒色　粘性やや弱　しまりやや疎
　下部に黒褐色+明黄褐色粘土質土の混合土含む(15%)
　礫(10×20cm)２個含む

ＳＫ０３



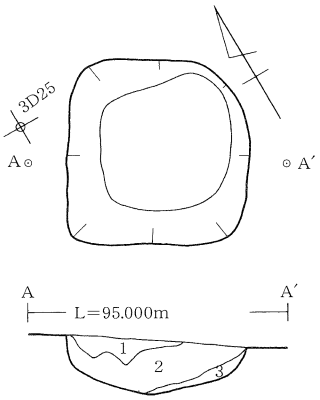
ＳＫ０３
1．10YR1.7/1 黒色　粘性やや弱　しまりやや密
　２層との境に明黄褐色粘土質ブロック(径２～３cm)２%混入
2．10YR2/1　黒色　粘性やや弱　しまりやや密
　全体に黄褐色粘土質ブロック50%混入

ＳＫ０４・０５



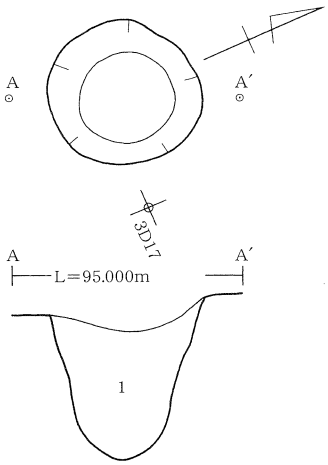
ＳＫ０４・０５
1．10YR2/1 黒色　　粘性やや弱　しまりやや密
　全体に黄橙色粘土質ブロック(径１～３cm)５%混入
2．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや疎
　全体に明黄褐色粘土質ブロック(径１cm)５%混入

ＳＫ０６



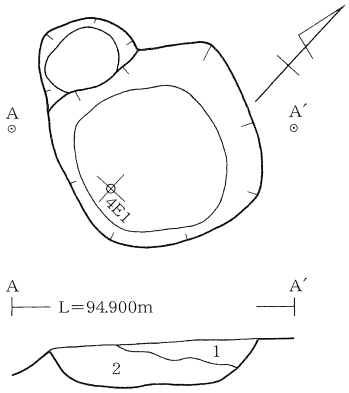
ＳＫ０６
1．10YR7/8 黄褐色+10YR3/4 暗褐色の混合土
　粘性やや弱　しまりやや密
2．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密
　明黄褐色土(径１～10cm)10%散在
3．10YR7/8 黄橙色　粘性やや弱　しまりやや密

ＳＫ０７



ＳＫ０７
1．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや疎
　含黄橙色粘土質土(径１～10cm)20%、礫少量

ＳＫ０８



ＳＫ０８
1．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱～中　しまり密
2．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱～中　しまり密
　黄橙色粘土質土50%散在

0　1：50　2m

第16図　ＳＫ01～08 土坑

６．溝跡（ＳＤ）

計６条を検出した。調査区南側にSD01～03溝跡の３条、調査区中央を東西に走るSD04～06溝跡の３条である。いずれも形成時期の特定は困難であるが、遺構の配置と重複関係から調査区南側SD01～03溝跡はSD04～06溝跡よりも旧期にあたると見られる。溝跡を説明するために、遺構の位置・検出状況、重複関係、遺構の形状及び規模、堆積状況、推定される形成時期について記載を行う。

ＳＤ０１溝跡（第17図、写真図版11）

[位置・検出状況]調査区南東側の3F20・25、3G4・5・9・10・14・15・19・23・24、3H3・4・7・8・12・13グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、直線状の溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]遺構プラン南側2/3から西方向に直角に延びるSD02溝跡が重複しているが、覆土の状態及び規模から本遺構と同時期に存在していた可能性がある。[形状・規模]平面形は残存値で（2,030）×158㎝の溝形で、南端は調査区外へ延びている。断面形は浅い皿形を呈し、深さは21.6㎝を測る。[長軸方位]N-18°-E　[覆土]黒褐色土主体の単一層で構成される。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明である。

ＳＤ０２溝跡（第17図、写真図版11）

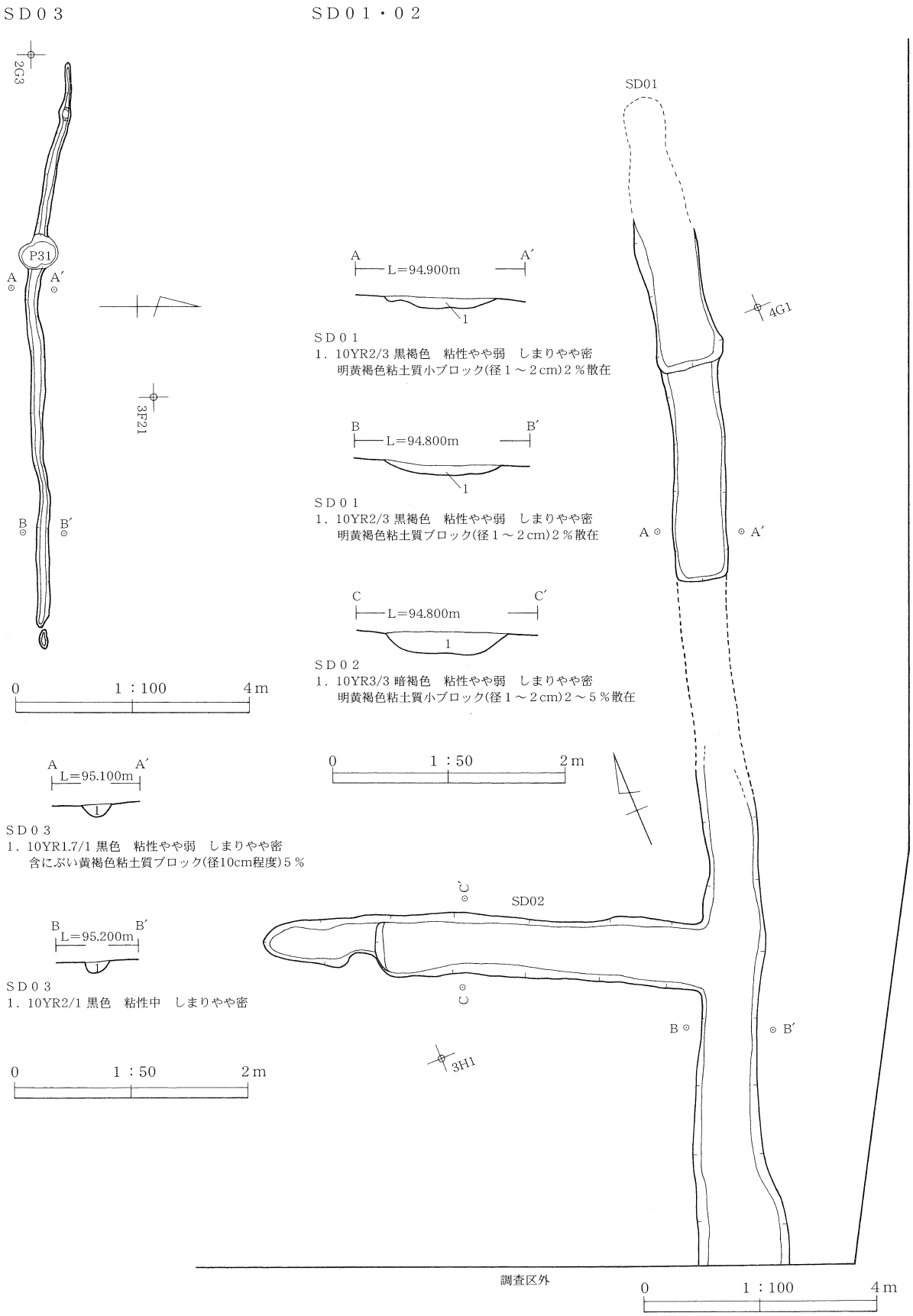
[位置・検出状況]調査区南東側の2G19・20・25、3H2・3、3G16・21・22・23グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、直線状の溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]遺構プラン東端が南北に走るSD01溝跡と重複しているが、覆土の状態及び規模から本遺構と同時期に存在していた可能性がある。[形状・規模]平面形は残存値で760×118㎝の溝形で、東端はSD01溝跡と接している。断面形は浅い皿形を呈し、深さは20.3㎝を測る。[長軸方位]N-65°-W　[覆土]黒褐色土主体の単一層で構成される。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明である。

ＳＤ０３溝跡（第17図、写真図版12）

[位置・検出状況]調査区南東側の2F23・24・25、2G4・5、3F21・22・23、3G1・2・3グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、直線状の溝形に拡がる黒色プランを確認した。[重複関係]遺構プラン東半1/3の箇所にSB05・07溝跡P31が重複しており、本遺構が切られている。[形状・規模]平面形は残存値で1,020×23㎝の溝形で、やや蛇行している。断面形は浅いU字形を呈し、深さは14.5㎝を測る。[長軸方位]N-90°-W　[覆土]黒色土主体の単一層で構成される。[出土遺物（第21図、写真図版19）]№4須恵器坏片、№6土師器坏片。[時期]出土遺物が少量なため不明である。

ＳＤ０４溝跡（第18図、写真図版12）

[位置・検出状況]調査区中央の2D15・20、3D11・16・17・18・22～25、3E3～5・10、4E1～3・6～9・14グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、調査区を東西にほぼ横断する溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]遺構プラン西半がSB02・03建物跡と重複関係にあり、いずれにも切られている。また、SK07土坑と重複しており、本遺構が旧い。SK08土坑と重複しており、本遺構が新しい。[形状・規模]平面形は残存値で（2,090）×330㎝の溝形で、東に向かうほどに幅が広くなり、北側に曲線的にカーブする。遺構の東西は調査区外へと延びている。断面形は皿形を呈し、深



第17図　ＳＤ01～03 溝跡

さは55㎝を測る。底面の遺構西半は浅いが、中央から東側は急に深くなっている。[長軸方位]N-62°-W [覆土]4層で構成され、黒褐色土主体である。また、自然堆積と考えられる。[出土遺物（第21・25図、写真図版19・22）]№10・11土師器坏片、№72陶器鉢片（19世紀）、№79剥片石器。[時期]出土遺物が少量なため不明であるが、SD04溝跡とほぼ同様の遺構形態をとるため、同時期と考えられる。

ＳＤ０５溝跡（第18図、写真図版13）

[位置・検出状況]調査区南東側の3C21・22、3D2～5・8～10、3D15、4D1・6～10・11～14・17・18グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、調査区を東西にほぼ横断する溝形に拡がる暗褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は残存値で(2,350)×328㎝の溝形で、遺構西側1/3付近から幅が拡張し深さも増す。遺構東側1/3付近から北側に急にカーブし調査区外へと延びる。断面形は皿形を呈し、深さは46.9㎝を測る。[長軸方位]N-59°-W [覆土]5層で構成され、黒褐色土主体である。[出土遺物（第22・25図、写真図版20・22）]№30・35・38須恵器大甕片、№68陶器甕片（時期不明）。[時期]出土遺物が少量なため不明であるが、SD04溝跡とほぼ同様の遺構形態をとるため、同時期と考えられる。

ＳＤ０６溝跡（第18図、写真図版13）

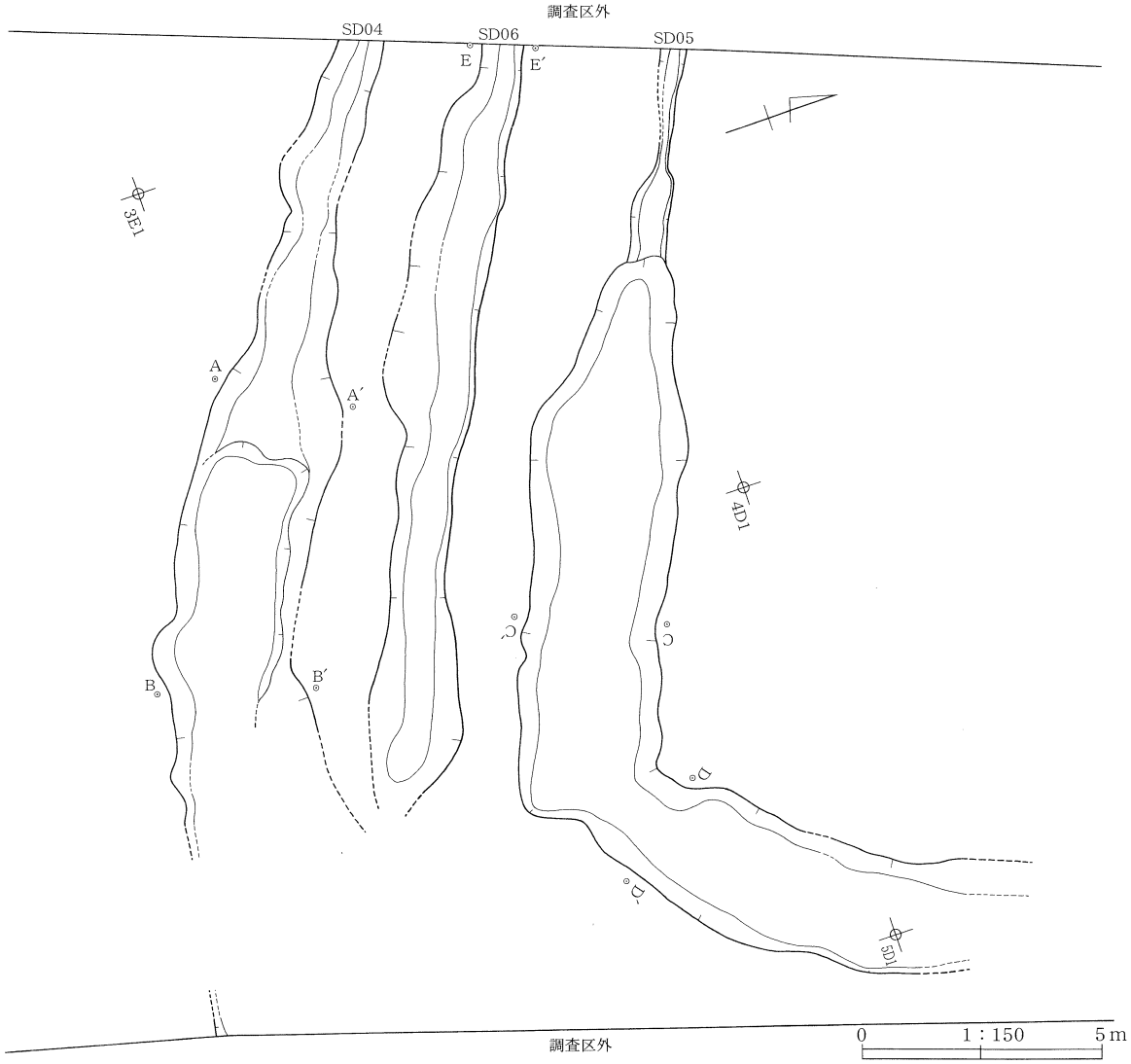
[位置・検出状況]調査区南東側の2D5・10、3D1・6～8・12～15、3D18～20、4D16・17・21～23グリッドに位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、調査区を東西にほぼ横断する直線状の溝形に拡がる暗褐色プランを確認した。[重複関係]遺構プラン西半がSB02・03建物跡と重複関係にあり、いずれにも切られている。[形状・規模]平面形は残存値で(1,820)×195㎝の溝形である。断面形は皿形を呈し、深さは25.6㎝を測る。[長軸方位]N-62°-W [覆土]2層で構成され、上部が混合土、下部が黒褐色土主体である。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、重複関係からSB02・03建物跡より旧い。

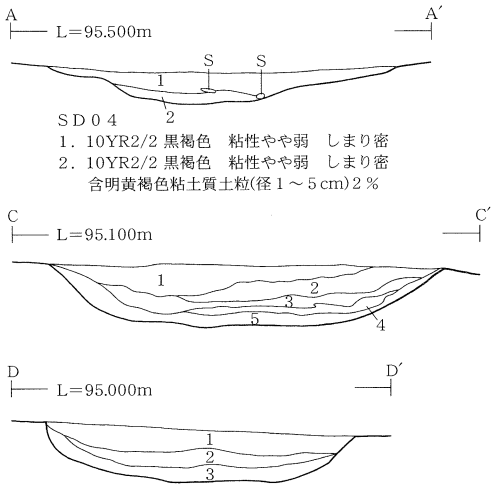
７．陥し穴状遺構（ＳＫＴ）

計9基を検出した。陥し穴状遺構を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の形状及び規模、覆土の状態、出土遺物、推定される形成時期について記載を行う。

ＳＫＴ０１陥し穴状遺構（第19図、写真図版14）

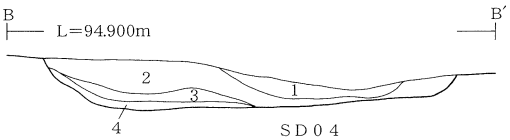
[位置・検出状況]調査区中央西側の2E18グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]ピット2基と重複関係にあるが、本遺構が旧期である。[形状・規模]平面形は360×43.5㎝の溝形である。断面形はU字形を呈し、深さ65.2㎝を測る。[長軸方位]N-2°-W [覆土]2層で構成され、黒褐色土主体である。下部は、断面実測後にさらに掘り下がったため断面図はないが、明黄褐色粘土質土の壁面崩落土を挟んで底部に黒褐色土が堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。





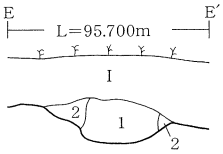
SD04
1．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまり密
2．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまり密
含明黄褐色粘土質土粒(径1～5cm)2％

SD05
1．10YR2/3 黒褐色　粘性弱　しまり密
含黄橙色粘土質ブロック(径1cm)5％散在
2．10YR3/4 暗褐色　粘性弱　しまり密
含黄橙色粘土質ブロック(径1cm)2％散在
3．10YR4/4 褐色　粘性弱　しまり密
含黄橙色粘土質ブロック(径1cm)10％散在



SD04
1．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまり密
含黄橙色粘土質土粒(径1cm)5％
2．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまり密
含明黄褐色粘土質土粒(径1～3cm)15％
3．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまり密
4．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密
含明黄褐色粘土質土粒(径1～2cm)5％

SD05
1．10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　しまりやや密
含黄橙色粘土質ブロック(径1cm)3％
2．10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　しまりやや密
含黄橙色粘土質ブロック(径3～10cm)10％
3．10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　しまりやや密
黄橙色粘土質ブロック(径5cm)7％散在
4．10YR2/3 黒褐色 粘土質　粘性やや弱　しまりやや密
5．10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　しまりやや密
黄橙色粘土質ブロック(径1～3cm)10％散在



SD06
1．10YR3/3 暗褐色+10YR6/6
明黄褐色の混合土
粘性やや弱　しまり密
2．10YR2/3 黒褐色
粘性やや弱　しまり密

0　1：50　1m

第18図　ＳＤ04～06 溝跡

ＳＫＴ０２陥し穴状遺構（第 19 図、写真図版 14）

[位置・検出状況]調査区中央西側の 3F16 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]重複関係はない。[形状・規模]平面形は 410×45 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 67.9 cmを測る。[長軸方位]N-54°-E [覆土]黒褐色土主体の単一層で構成される。下部は、断面実測後にさらに掘り下がったため断面図はないが、明黄褐色粘土質土の壁面崩落土を挟んで底部に黒褐色土が堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

ＳＫＴ０３陥し穴状遺構（第 19 図、写真図版 15）

[位置・検出状況]調査区中央東側の 3G3 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は 312×72 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 104.7 cmを測る。[長軸方位]N-81°-E [覆土]黒褐色土主体の単一層で構成される。下部は、断面実測後にさらに掘り下がったため断面図はないが、明黄褐色粘土質土の壁面崩落土を挟んで底部に黒褐色土が堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

ＳＫＴ０４陥し穴状遺構（第 19 図、写真図版 15）

[位置・検出状況]調査区南東側の 3G19 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる暗褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は 266×60 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 86.6 cmを測る。[長軸方位]N-55°-E [覆土]2 層で構成され、暗褐色土主体である。下部は、断面実測後にさらに掘り下がったため断面図はないが、明黄褐色粘土質土の壁面崩落土を挟んで底部に黒褐色土が堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

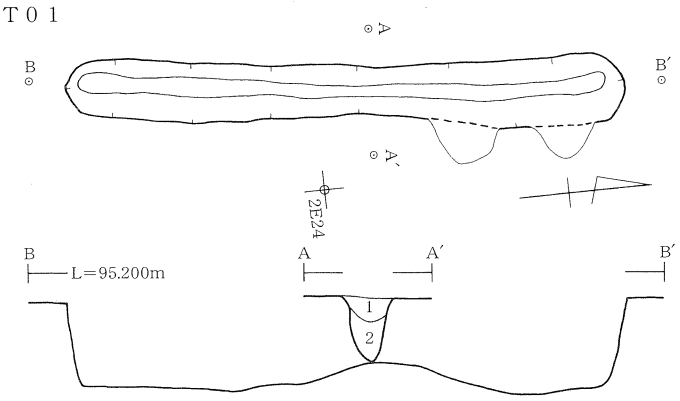
ＳＫＴ０５陥し穴状遺構（第 20 図、写真図版 16）

[位置・検出状況]調査区北側の 4C3 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は 448×35.5 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 59.2 cmを測る。[長軸方位]N-79°-W [覆土]3 層で構成され、黒褐色土主体である。下部には明黄褐色粘土質土の壁面崩落土が堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

ＳＫＴ０６陥し穴状遺構（第 20 図、写真図版 16）

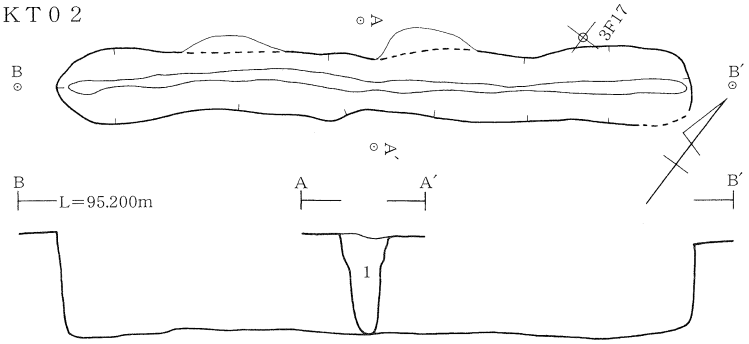
[位置・検出状況]調査区北側の 4B23 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は 288×24 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 59.1 cmを測る。[長軸方位]N-58°-W [覆土]3 層で構成され、黒褐色土主体である。下部には明黄褐色粘土質土の壁面崩落土が厚く堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

SKT01



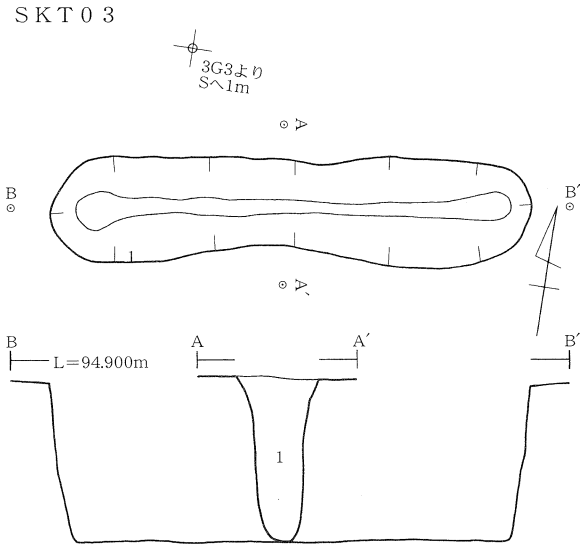
SKT01
1．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　　しまりやや密
2．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱～中　しまりやや密

SKT02



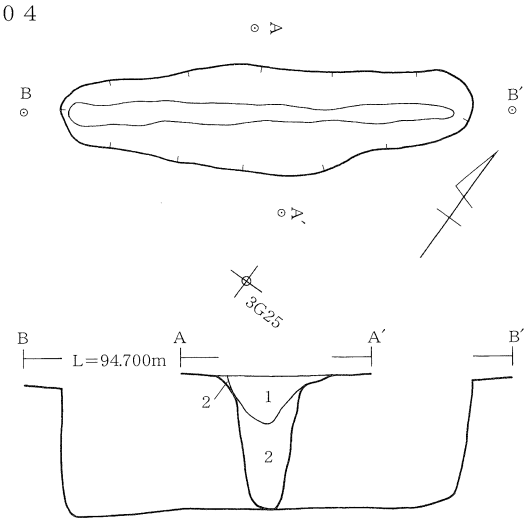
SKT02
1．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密
　含明黄褐色粘土質小ブロック(径1～2cm)2%

SKT03

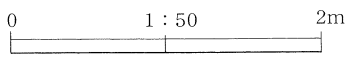


SKT03
1．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱～やや強　しまりやや疎～中

SKT04



SKT04
1．10YR3/3 暗褐色　粘性弱　　しまりやや密～密
2．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密



第19図　ＳＫＴ01～04 陥し穴状遺構

ＳＫＴ０７陥し穴状遺構（第 20 図、写真図版 17）

[位置・検出状況]調査区北東側の 4B15 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は 307×40.5 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 67.2 cmを測る。[長軸方位]N-93° -E [覆土]2 層で構成され、上部が褐色土、下部が黒褐色土である。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

ＳＫＴ０８陥し穴状遺構（第 20 図、写真図版 17）

[位置・検出状況]調査区北東側の 4B13 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる暗褐色プランを確認した。[重複関係]なし。[形状・規模]平面形は 265×25 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 33.1 cmを測る。[長軸方位]N-63° -E [覆土]2 層で構成され、黒褐色土主体である。下部には明黄褐色粘土質土の壁面崩落土が厚く堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

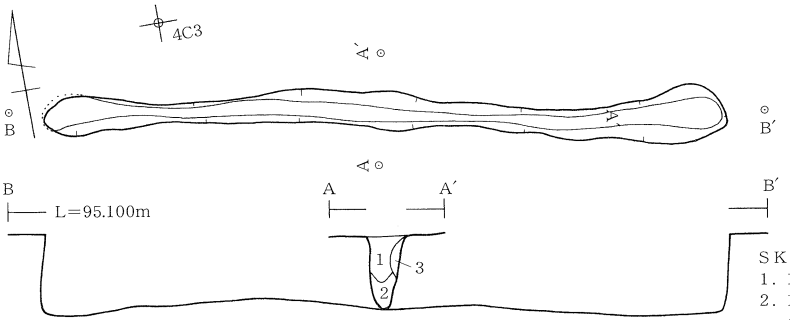
ＳＫＴ０９陥し穴状遺構（第 20 図、写真図版 18）

[位置・検出状況]調査区中央東側の 4D3 グリッド付近に位置する。Ⅰ層現耕作土層を除去した後、Ⅱ層上面（明黄褐色粘土質土）で遺構検出を実施し、溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。[重複関係]遺構南側で SD05 溝跡と重複関係にあるが、本遺構が旧期にあたる。[形状・規模]平面形は 310.5×45 cmの溝形である。断面形はＵ字形を呈し、深さ 69.4 cmを測る。[長軸方位]N-93° -E [覆土]2 層で構成され、黒褐色土主体である。下部には黄褐色粘土質土の壁面崩落土が厚く堆積している。[出土遺物]なし。[時期]出土遺物が皆無のため不明であるが、遺構形態から縄文時代に想定される。

８．ピット（Ｐ）（附図 1）

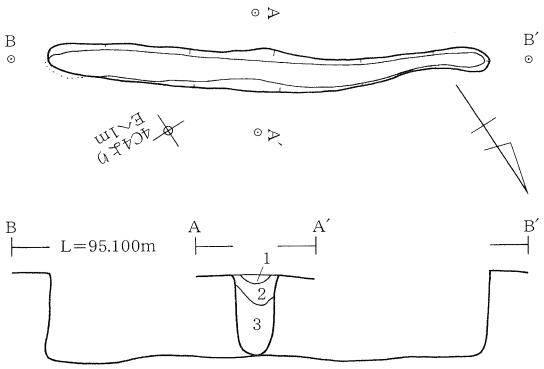
以上の項目の他に、ピットが計 156 基検出されている。建物跡を想定した検討を重ねたが、それを見出すには至らなかった。しかし、いずれも何らかの施設の柱穴として使用されたと見られる。平面形式はいずれも円形基調で規模には各々バラツキが見られるが、開口部径の平均値は 35.7×29.0 cm、底部径の平均値は 24.5×19.4 cm、深さの平均値は 22.1 cm、底部標高平均値 94.767ｍである。検出層位はいずれもⅡ層上面で、時期を確定する出土遺物などはほとんどない。したがって、確定的な時期は不明であるが、覆土の状態などから建物跡と同時期かあるいはそれよりも新しい時期に想定される。

SKT05



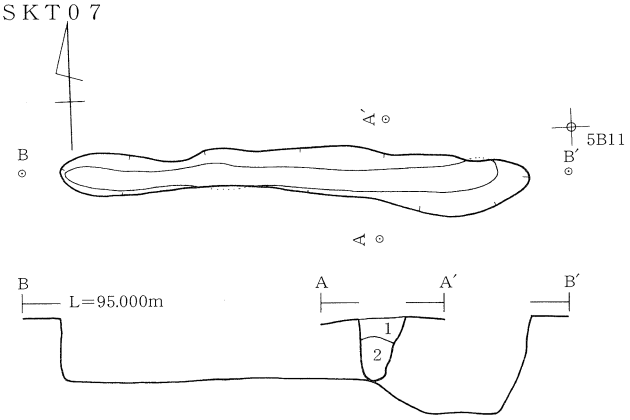
SKT05
1．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密
2．10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　しまりやや密
含黄褐色粘土質土の混合土
3．10YR7/6 明黄褐色　粘土質　粘性やや弱　しまり密

SKT06



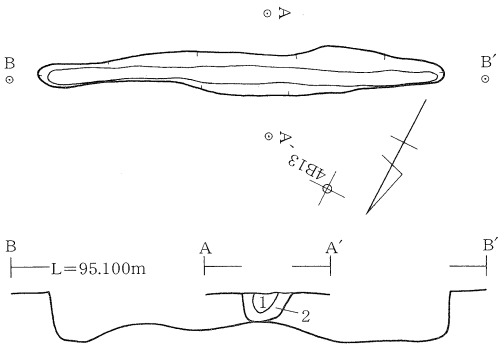
SKT06
1．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密
2．10YR3/3 暗褐色+10YR6/6 明黄褐色の混合土
粘性やや弱　しまりやや密
3．10YR5/6 黄褐色　粘土質　粘性やや弱　しまり密

SKT07



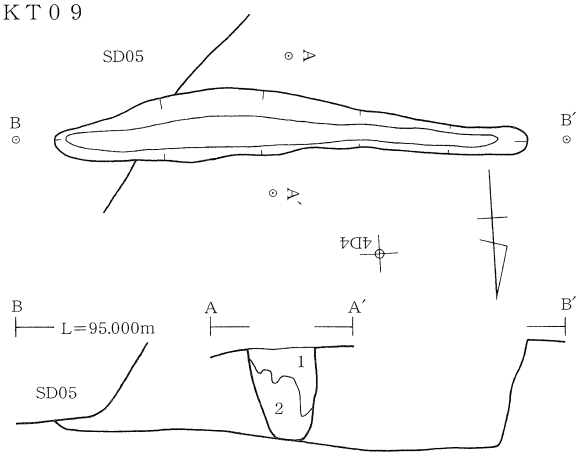
SKT07
1．10YR4/4 褐色　粘性やや弱　しまり密
2．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密

SKT08



SKT08
1．10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　しまりやや密
2．10YR6/8 明黄褐色　粘土質　粘性やや弱　しまり密

SKT09



SKT09
1．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　しまり密
2．10YR5/6 黄褐色　粘土質　粘性やや弱　しまりやや密
にぶい黄褐色粘土質土散在

0　1：50　2m

第20図　ＳＫＴ05～09 陥し穴状遺構

V　出土遺物

今回の調査で出土した遺物の総量は、総遺物点数 165 点・総重量 2,628g で中コンテナ（281）約 1 箱である。遺物の内訳は須恵器、土師器、陶器、磁器（以上、遺物点数 162 片・重量 2,607g）、石器（遺物点数 1 点・重量 14.04g）、銭貨（遺物点数 2 点・重量 6.92g）である。各遺物の器種を概観すると、須恵器は坏類・壺類・甕類・大甕類、土師器は坏類・高台付坏類・甕類、陶器は皿類・碗類・小碗類・壺類・甕類・鉢類・擂鉢類、磁器は皿類・碗類・小碗類・鉢類・湯飲類・香炉類・徳利類が出土している。

1．土器

土器は前述のようにまず A. 須恵器、B. 土師器に分類される。このうち、B. 土師器はさらに 1. 内面黒色処理、2. 内面非黒色処理に細分される。帰属時期はいずれも 9 世紀後半～１０世紀前半に位置付けられる。

A．須恵器（第 21～23 図、写真図版 19～21）

計 19 点を掲載、図示した。器種は坏類（1～5）・壺類（19?、20）・甕類（21?）・大甕類（30～39）・不明（40）である。

坏類はいずれもロクロにより製作されている。1 は底面回転糸切りで、口端は緩やかに外傾しながら立ち上がる。2 は口端が外反するが、底部は残存しない。3～5 は底面回転糸切りの底部のみの残存である。底径については 1 が 7.8 cmとやや大きめであり、3～5 については推定値で 5.1～5.6 cmに集中している。口径は 1 が 13.6 cm、2 が推定値で 14.8 cmであるがその他は残存しておらず傾向は掴めない。帰属時期はいずれも 9 世紀後半～10 世紀初頭と見られる。

壺類はいずれもロクロにより製作されている。20 は口唇部が残存しておらず細片である。19 は壺類もしくは瓶類と見られるが不明である。

甕類と見られるのは 1 点であるが、細片のため詳細は不明である。

大甕類は出土している全点を掲載、図示しているが、このうち 31・35 と 32・34 は各々同一個体と見られる。口縁部破片は 30 のみで、その他は体部破片である。31 と 35 は外面に網目状のタタキ目、内面には半円状の当て具痕が観察される。32・34、36 は外面に網目状のタタキ目、内面に平行当て具痕、33・38・39 は内外面に平行タタキ目・当て具痕が見られる。37 は外面にタタキ目、内面に半円状の当て具痕が見られ、また外面には偶発的に灰釉様の自然釉が観察される。

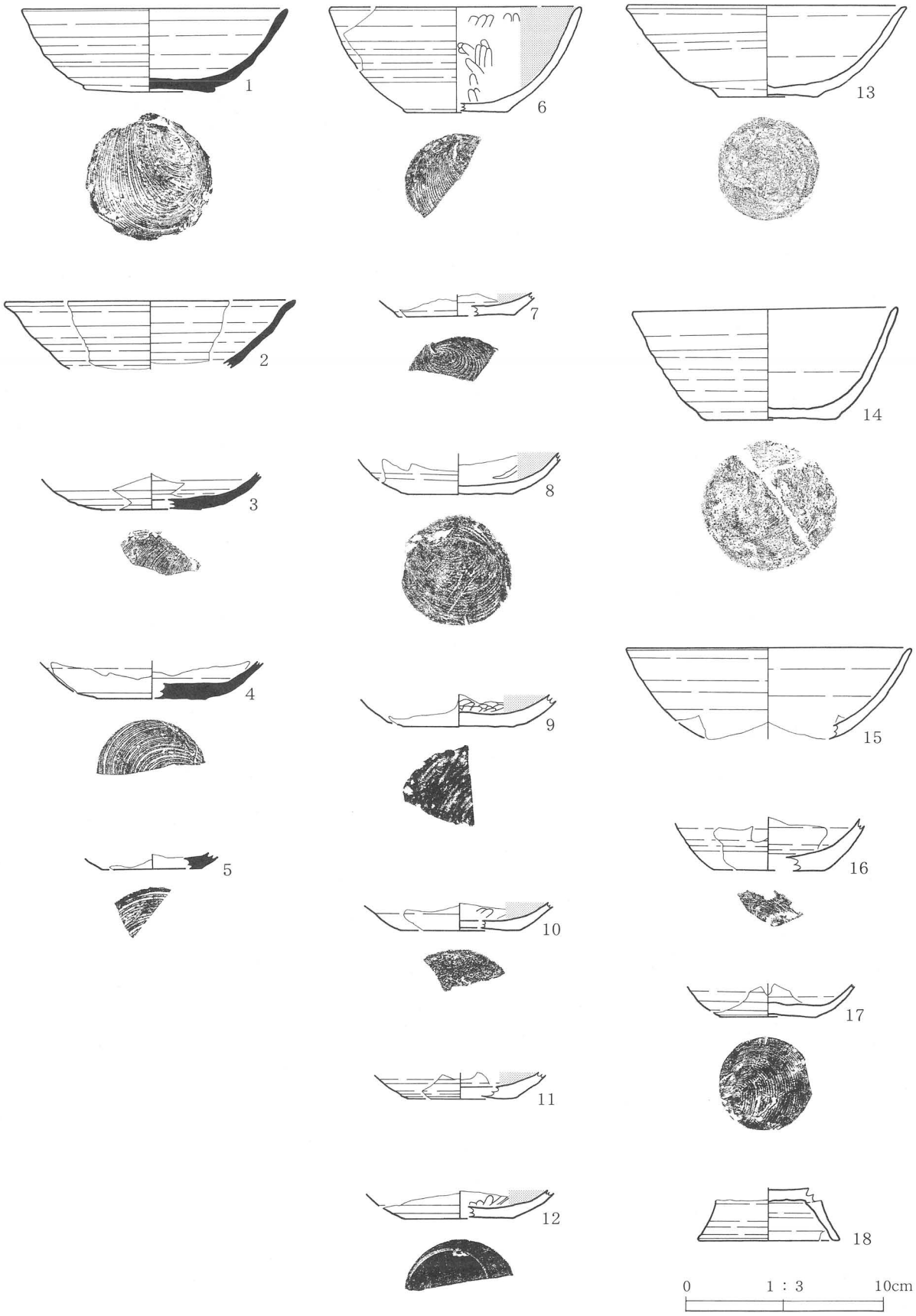
不明としている 1 点は底部破片であるが、細片であるため器種は特定できなかった。器外面及び底面にはヘラケズリがなされている。

B．土師器

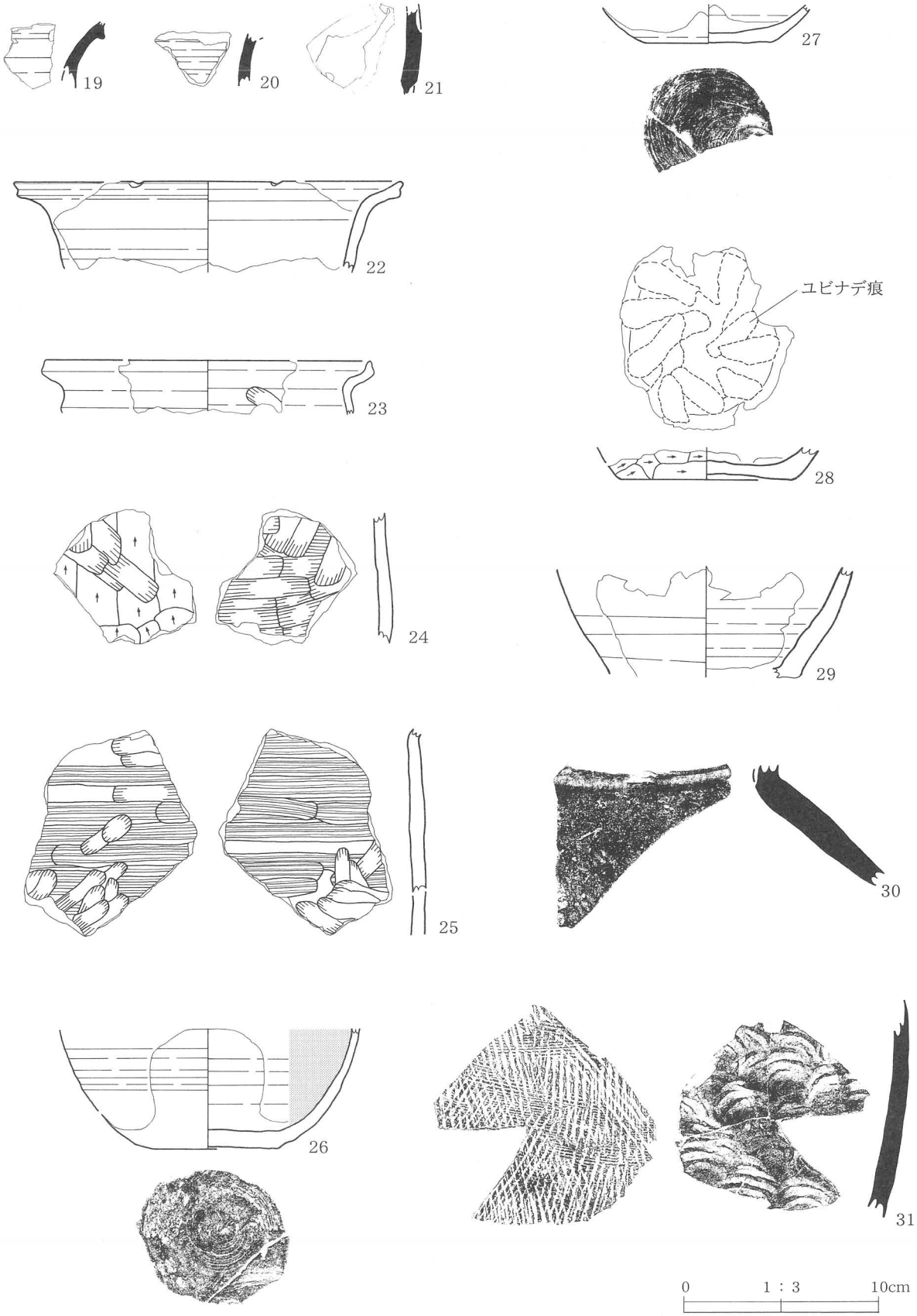
1．内面黒色処理（第 21・22 図、写真図版 19・20）

計 9 点を掲載、図示した。器種は 6～12 が坏類、18 が高台付坏類、26 が甕類である。

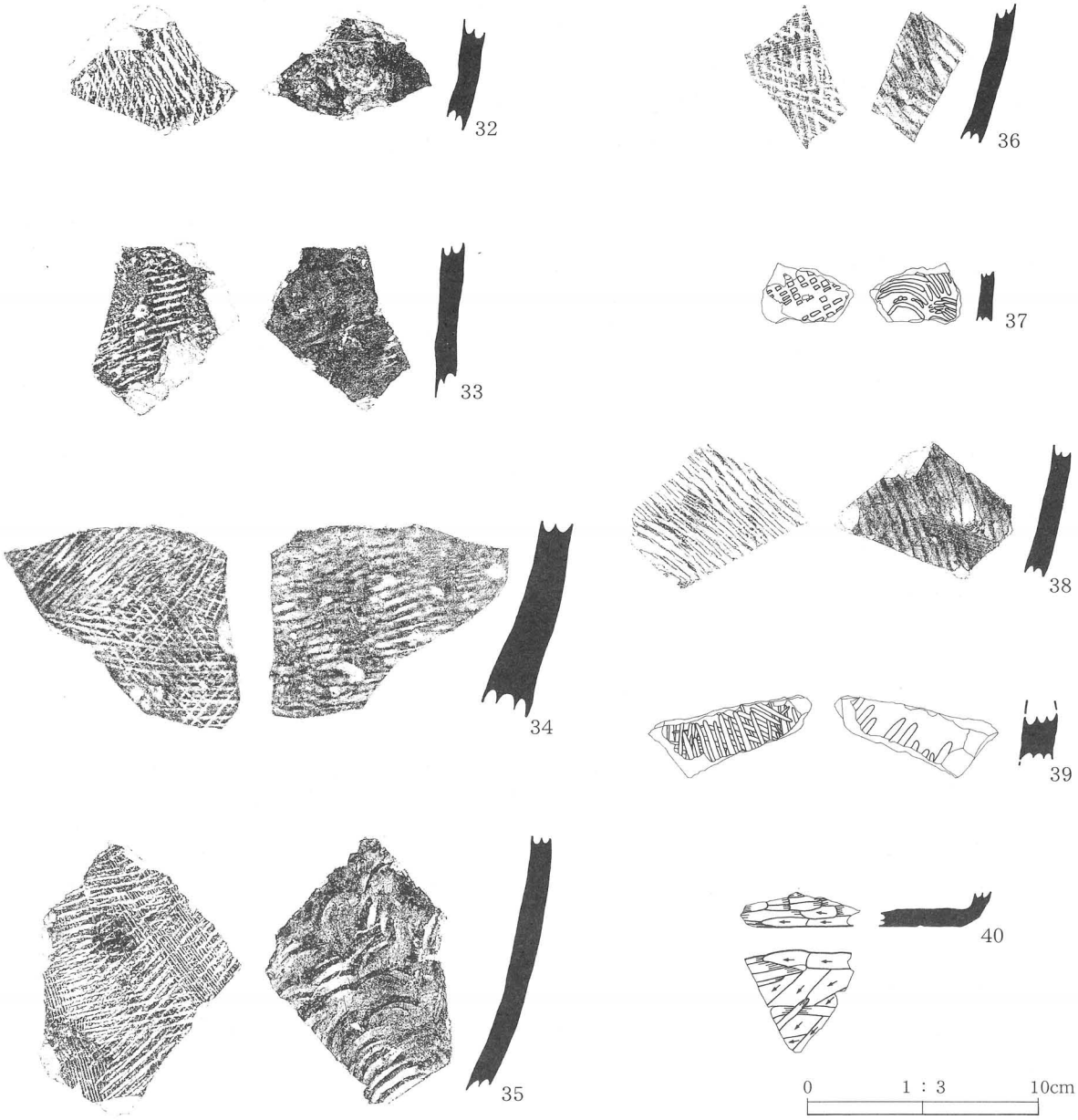
坏類はいずれもロクロにより製作されている。6 は唯一口縁から底部までの器形が観察できるもので、内面はヘラミガキの後に黒色処理が施される。ミガキは底面から口縁に向けて縦位に行われており、底面には回転糸切り痕がある。7～12 は回転糸切り痕が観察される底部のみが残存しているもので、11 の



第21図　土器(1)



第22図　土器(２)



第23図　土器(3)

内面ロクロナデ以外はヘラミガキ調整後に黒色処理が施されるものである。傾向は底径のみで推定値も含め5.4～7.0㎝の範囲に見られる。

高台付坏類もロクロによる製作である。底部のみ残存であるが、ロクロで坏部分を作り上げた後に高台部分を後付している。底径は7.2㎝と坏類のなかではやや大きめである。

甕類はロクロによる製作の長胴甕である。底面には停止糸切り痕が観察され、内外面はロクロナデであり内面黒色処理されている。また、底径は7.2㎝である。

2.　内面非黒色処理（第21・22図、写真図版19・20）

計12点を掲載、図示した。器種は13～17が坏類、22～25・27～29が甕類である。

坏類はいずれもロクロによる製作である。13は底面回転糸切りで、口端は緩やかに外傾しながら立ち上がる。15は13とほぼ同様の器形をしているが、底部を欠いている。14は前述の13・15より器高が

1 cm程度大きく、また口径は 1 cm程度小さい。底面は回転糸切りで、内外面ともにロクロナデ、口端はやや角度を持ちながら立ち上がる器形である。13～15 は SI01 住居跡 p3 からまとまって出土しており、同時期と見られ 10 世紀前半に位置付けられる。16・17 は底部のみが残存したものである。法量のうち底径を比較すると、14 以外は 4.9～5.4 cmに集中する。14 は 6.7 cmとその他と 1 cm程度の開きがあり、法量の面では他の 4 点と異なる。

甕類はいずれもロクロによる製作と見られるが、28 は底部のみであるため不明である。22・23 は長胴甕の口縁部破片である。両者とも口端が大きく外反する器形を呈しており、22 は口端から体部にかけて徐々に膨らみ、23 は口端直下から膨らむ器形と観察される。24・25・29 は長胴甕の体部破片である。24 は器外面に下から上方向の縦位ヘラケズリと斜位ヘラナデ、器内面に横位・斜位ヘラナデ調整がなされる。25 は器内外面に横位ハケメ調整後、横位・斜位ヘラナデ調整が施される。29 は底部破片ともロクロナデが見られる。27・28 は底部破片でいずれも回転糸切りと考えられるが、28 は摩耗が著しい。また 28 の底部内面には製作時のユビナデ痕が放射状に残っており、粘土を押し広げた作業工程が読み取れる。器外面には横位ヘラケズリ調整が見られる。

2．陶磁器

A．陶器（第 24・25 図、写真図版 21・22）

計 20 片出土しており、全点を掲載、図示した。器種は飲食器の皿類 (41)・碗類 (48～56)・小碗類 (64)・鉢類（72・73)、貯蔵具の壺類（66)・小形甕類（67)・甕類（68～70)・不明（71)、調理具の擂鉢類（75) である。

飲食器は、41 の大堀相馬皿片（19 世紀？)、48～50・54～56 の大堀相馬灰釉碗片（18 世紀)、51 の肥前呉器手碗片 (17 世紀？)、52 の東北系型紙刷絵碗片 (19～20 世紀)、53 の大堀相馬腰錆碗片 (19 世紀)、64 の肥前蛇目釉剥ぎ小碗片（18 世紀後半)、72 の在地系鉢片（19 世紀)、73 の大堀相馬呉器手碗片（18 世紀）である。

貯蔵具は、66 の陶器壺片（時期不明)、67 の在地系小甕片（時期不明)、68 の在地系？甕片（時期不明)、69 の大堀相馬甕片（18 世紀)、70 の製作地不明甕片（20 世紀？)、71 の東北系染付甕片（時期不明）である。

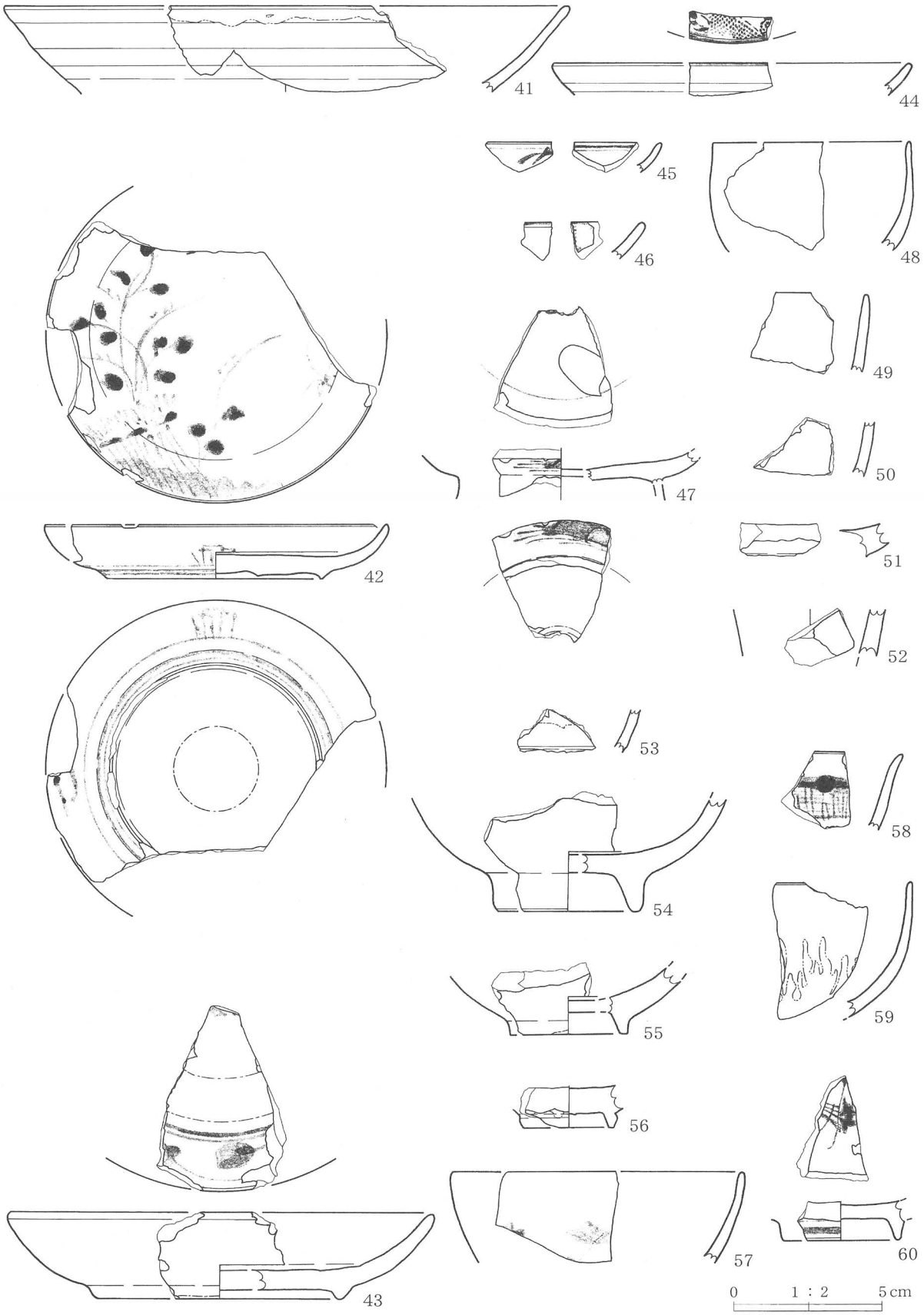
調理具は、75 の肥前または美濃系擂鉢片（時期不明）である。

B．磁器（第 24・25 図、写真図版 21・22）

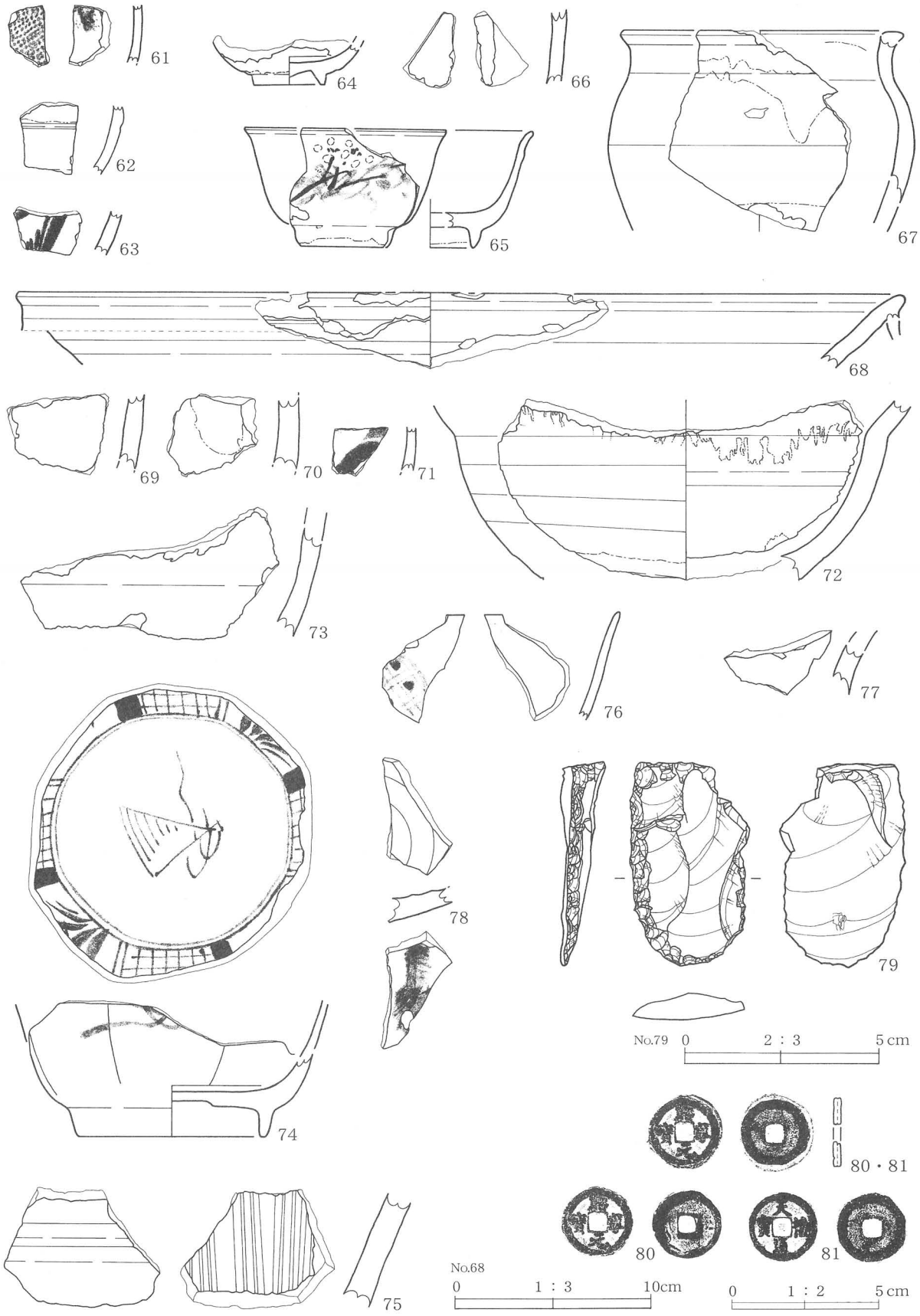
計 18 片出土しており、全点を掲載、図示した。器種は飲食器の皿類（42～47)・碗類（57～63)・小碗類（65)・鉢類（74)・湯飲類（76)、信仰具の香炉？（77)、酒器の徳利？（78）である。

飲食器は、42 の肥前染付皿片（18 世紀後半)、43 の在地系染付皿片（時期不明)、44 の在地系？染付皿片（18 世紀後半～19 世紀)、45 の東北産？染付皿片（時期不明)、46 の瀬戸もしくは肥前端反皿片（19 世紀半ば)、47 の瀬戸もしくは肥前皿片（19 世紀半ば)、57 の肥前透明釉碗片（18 世紀後半～19 世紀)、58 の染付碗片（20 世紀か？)、59 の肥前灰釉碗片（18 世紀後半)、60 の東北産染付碗片（19 世紀)、61 の肥前染付碗片（18 世紀)、62 の大堀相馬灰釉碗片（18 世紀)、63 の染付碗片（19～20 世紀？)、64 の肥前灰釉蛇目釉剥ぎ小碗片（18 世紀後半)、65 の大堀相馬腰錆小碗片（18 世紀)、74 の平清水染付鉢？片（19 世紀)、76 の在地系染付湯飲片（19 世紀）である。

信仰具は、77 の東北産青磁香炉？片（時期不明）である。



第24図　陶磁器(1)



第25図　陶磁器(２)、石器、銭貨

酒器は、78の染付徳利？片（時期不明）である。

3．石器（第25図、写真図版22）

計1点出土しており、これを掲載、図示した。剥片石器で、器種はスクレイパー類（79）である。土器を伴っていないため詳細な帰属時期は不明であるが、縄文時代に位置付けられるとみられる。

刃部は左側縁から縁端部、右側縁下半部まで見られ、刃角の平均値は49.0°である。二次加工は腹面から背面に押圧されており、片刃である。腹面には打瘤が発達している。

4．銭貨（第25図、写真図版22）

計2点出土しており、これを掲載、図示した。計2点は、熙寧元寳（真書）と天禧通寳（真書）である（80・81）。80は熙寧元寳（真書）初鋳年1068年・北宋銭、81は天禧通寳（真書）初鋳年1017年・北宋銭である。これらは固着した状態で一塊となって出土した。

第2表　住居跡(SI)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm) 上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	床面積(㎡)	平面形	柱穴 数	柱穴 配置	重複関係	時期	出土遺物	備考
SI	1	1F25 2F21,22 1G5 2G1,2 1G10 2G6,7	Ⅱ層上面	-	-	(450)	(450)	-	(20.7)	隅丸方形	(10)	不規則(やや壁際)	SK01・02より旧 SB04～06より旧	平安時代	No.13～15土師器坏 No.18土師器高台付坏 No.22・28土師器甕 No.36須恵器大甕	

第3表　竪穴遺構(SX)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm) 上端 長軸	上端 短軸	下端 長軸	下端 短軸	深さ	床面積(㎡)	平面形	柱穴 数	柱穴 配置	重複関係	時期	出土遺物	備考
SX	1	4F1,2,6,7,11	Ⅱ層上面	308	193	254	136	55.2	3.58	隅丸方形	-	-	なし	近世？	No.50陶器碗 No.66陶器壺？	SB01との関係

第4表　建物跡(SB)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	平面形式	想定遺構	規模(cm) 桁行	規模(cm) 梁行	柱間寸法	面積(㎡)	建物方位	柱穴 数	柱穴 使用ピットNo.	重複関係	時期	出土遺物	備考
SB	1	3E3,4,8～10,12～15,17～25 4E6,11,12,16 3F1～10,13～15	Ⅱ層上面	掘立柱建物	主屋	1151	727	6.0尺を多用	83.68	N20° E	45	45～54,56～59,61,69,88,90～100,103,199,200,202,204,277,278,296～298	なし	近世～近現代	No.2須恵器坏 No.7・8土師器坏 No.31～33須恵器大甕	
SB	2	3D6,11～13,16～19 3D22,23	Ⅱ層上面	掘立柱建物	付属屋	515	288	3.0尺、3.5尺、4.5尺など	14.83	N60° W	10	173,184～186,273,301,303～307	SB03より旧 SD04・06より旧	近世～近現代		
SB	3	3D6 2D15,20,24,25 3D11～13,16～19,21～23 2E4,5,8～10,14,15 3E1～3,6,7,11,12,16,17	Ⅱ層上面	掘立柱建物	主屋	1033	658	6.2尺を基準	67.97	N20° E	39	70,71,73,75,77,78,80～84,104～107,109～120,165,166,174,180～183,214,216,299,300,302	SB02より新 SD04・06より新	近世～近現代(他建物跡より幾分新しい)	No.37須恵器大甕	
SB	4	2F21 2G1～3,6～8,11～13,16,17 2G21,22 2H1 1G5,10,14,15,19,20,24,25	Ⅱ層上面	掘立柱建物	主屋	924	606	6.5尺、7.5尺など	55.99	N20° E	29	1,4,5,7～16,18,27,29,102,121～124,127,134,147,148,156,220,221,319	SB05・06不明 SI01、SK01・02より新	近世～近現代	No.9土師器坏 No.40須恵器？	
SB	5	2F18～20,22～25 2G2～4,9	Ⅱ層上面	掘立柱建物	付属屋	485	364	4.0尺を基準	17.65	N20° E	17	31,32,36～41,101,139,142,144,152,154,157,187,189	SB04不明 SD03より新	近世～近現代	No.29土師器甕	
SB	6	1F25 2F21,22 1G5,10,14,15,19,20,24 2G1,6	Ⅱ層上面	掘立柱建物	主屋	(1030)	(300)	6.0尺・6.5尺など	(30.9)	N28° E	10	19,20,21,22,23,26,28,30,43,128	SB04不明 SI01、SK01・02より新	近世～近現代	No.23土師器甕	
SB	7	2G4,9,10,13,14,15	Ⅱ層上面	掘立柱建物	付属屋	530	275	3.5尺、4.5尺など	14.58	N20° E	7	31,149,150,151,153,282,284	SB05不明 SD03より新	近世～近現代	なし	
SB	8	2F11,12.15～17,21	Ⅱ層上面	掘立柱建物	付属屋	(197)	258	6.5尺、8.5尺など	(5.08)	N66° W	4	42,135,138,192	なし	近世～近現代	なし	

第5表　井戸跡(SE)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						形状		覆土の状況	重複関係	出土遺物	時期	備考
				上端		下端		深さ	底部標高(m)	平面形	断面形					
				長軸	短軸	長軸	短軸									
SE	1	2E2,6,7	Ⅱ層上面	(224)	(102)	(50)	(12)	188.0	93.305	円形	漏斗形	5層構成＋崩落	なし	No.19須恵器壺？ No.26土師器甕	近世？	建物跡と関係
SE	2	4B11,12,16,17	Ⅱ層上面	198	193	(170)	-	204.0	92.860	円形	漏斗形	3層構成＋埋設部分	なし	なし	不明	

第6表　土坑(SK)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						形状		覆土の状況	重複関係	出土遺物	時期	備考
				上端		下端		深さ	底部標高(m)	平面形	断面形					
				長軸	短軸	長軸	短軸									
SK	1	1G5 2G1 1G10 2G6	Ⅱ層上面	156	(110)	126	84	31.8	94.800	楕円形	皿形	単一層構成	SI01より新　SK02より新 P25・30より旧	No.3須恵器坏	近世以前	
SK	2	2G1	Ⅱ層上面	170	(130)	140	105	20.5	94.945	楕円形	皿形	単一層構成	SI01より新　SK01より旧 P102より旧	No.24土師器甕　No.41陶器皿	近世以前	
SK	3	2E9,10,14,15	Ⅱ層上面	123	110	107	93	31.4	94.713	円形	皿形	2層構成	P104より新		近世以降	
SK	4	2E14	Ⅱ層上面	80	64	15	13	43.2	94.608	円形	擂鉢形	単一層構成	SK05より新	No.34須恵器大甕	不明	
SK	5	2E14	Ⅱ層上面	159	150	148	100	29.8	94.742	円形	皿形	単一層構成	SK04より旧		不明	
SK	6	3D25	Ⅱ層上面	121	119	86	80	37.5	94.460	方形	皿形	3層構成	なし		不明	
SK	7	3D11 3D16	Ⅱ層上面	102	96	62	56	99.0	93.888	円形	擂鉢形	単一層構成	なし		不明	SB03建物跡と関係？
SK	8	3D25 4D21 3E5 4E1	Ⅱ層上面	130	126	100	95	34.0	94.370	方形	皿形	2層構成	なし		不明	

第7表　溝跡(SD)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	種類	規模(cm)						形状		覆土の状況	重複関係	出土遺物	時期	備考
					上端		下端		最深部	底部標高(m)	平面形	断面形					
					最大長	最大幅	最大長	最大幅									
SD	1	3F20,25 3G4,5,9,10 3G14,15,19,23,24 3H3,4,7,8,12,13	Ⅱ層上面	溝	2030	158	2019	126	21.6	94.397	溝形	皿形	単一層構成	SD02と同時期		不明	
SD	2	2G19,20,25 3H2,3 3G16,21,22,23	Ⅱ層上面	溝	760	118	750	94	20.3	94.505	溝形	皿形	単一層構成	SD01と同時期		不明	
SD	3	2F23,24,25 3F21,22,23 2G4,5 3G1,2,3	Ⅱ層上面	溝	1020	23	1010	15	14.5	94.786	溝形	皿形	単一層構成	SB05・07p31より旧	No.4須恵器坏　No.6土師器坏	平安時代	SI01との関係
SD	4	2D15,20 3D11,16,17,18,22～25 3E3～5,10 4E1～3,6～9,14	Ⅱ層上面	溝	2090	330	2090	295	55.0	94.254	溝形	皿形	4層構成	SB02・03より旧 SK07より旧　SK08より新	No.10土師器坏　No.11土師器坏？　No.72陶器鉢　No.79石器	近世以降	
SD	5	3C21,22 3D2～5,8～10 3D15 4D1,6～10,11～14 4D17,18	Ⅱ層上面	溝	2350	328	2350	233	46.9	94.388	溝形	皿形	5層構成	なし	No.30須恵器大甕 No.35須恵器大甕 No.38須恵器大甕？ No.68陶器甕	近世以降	
SD	6	2D5,10 3D1,6～8,12～15 3D18～20 4D16,17 4D21～23	Ⅱ層上面	溝	1820	195	1820	88	25.6	94.292	溝形	皿形	2層構成	SB02・03より旧		不明	

第8表　陥し穴状遺構(SKT)一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						形状		覆土の状況	重複関係	出土遺物	時期	備考
				上端		下端		深さ	底部標高(m)	平面形	断面形					
				長軸	短軸	長軸	短軸									
SKT	1	2E14,19	Ⅱ層上面	360.0	43.5	336.0	12.5	39.0	94.665	溝形	U字形	2層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	2	2F20,25 3F12,16,17,21	Ⅱ層上面	410.0	45.0	402.0	8.5	63.0	94.360	溝形	U字形	単一層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	3	3G2,3,4,7,8,9	Ⅱ層上面	312.0	72.0	283.0	10.0	108.0	93.680	溝形	U字形	単一層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	4	3G19,20	Ⅱ層上面	266.0	60.0	248.0	13.0	83.0	93.740	溝形	U字形	2層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	5	4C2,3,4	Ⅱ層上面	448.0	35.5	445.0	20.0	55.5	94.365	溝形	U字形	3層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	6	4B23,24 4C4	Ⅱ層上面	288.0	24.0	288.0	20.5	53.0	94.370	溝形	U字形	3層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	7	4B14,15	Ⅱ層上面	307.0	40.5	284.0	19.5	37.0	94.525	溝形	U字形	2層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	8	4B8,12,13	Ⅱ層上面	265.0	25.0	258.0	11.0	19.5	94.695	溝形	U字形	2層構成	なし	なし	縄文時代	
SKT	9	4D3,4,5	Ⅱ層上面	(310.5)	45.0	(283.0)	20.0	62.0	94.240	溝形	U字形	2層構成	SD05より旧	なし	縄文時代	

第９表　ピット(P)一覧表

種別	番号	帰属遺構		位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						出土遺物	時期
						上端		下端		深さ	底部標高(m)		
		種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸				
P	1	SB	4	2H1	Ⅱ層上面	35.0	26.0	5.0	4.0	25.8	94.816		近世～近現代
P	2			2G21	Ⅱ層上面	29.5	27.0	4.0	3.0	14.3	94.925		近世～近現代
P	3			2G22	Ⅱ層上面	28.0	20.5	19.0	14.5	10.0	94.977		近世～近現代
P	4	SB	4	2G17	Ⅱ層上面	45.0	39.5	24.0	20.0	43.3	94.642		近世～近現代
P	5	SB	4	2G13	Ⅱ層上面	47.0	42.0	23.0	20.0	32.8	94.742		近世～近現代
P	6			2G13	Ⅱ層上面	52.0	50.0	44.0	42.0	39.6	94.686		近世～近現代
P	7	SB	4	2G8	Ⅱ層上面	38.0	35.0	26.0	25.0	31.6	94.768		近世～近現代
P	8	SB	4	2G8	Ⅱ層上面	35.0	34.0	26.0	25.0	20.5	94.877		近世～近現代
P	9	SB	4	2H1	Ⅱ層上面	33.0	28.0	28.0	25.0	35.8	94.710		近世～近現代
P	10	SB	4	2G22	Ⅱ層上面	41.0	36.0	28.5	23.0	42.6	94.642		近世～近現代
P	11	SB	4	2G17	Ⅱ層上面	34.0	32.0	32.0	18.0	44.5	94.632		近世～近現代
P	12	SB	4	2G12	Ⅱ層上面	40.0	37.5	28.0	25.5	31.7	94.771		近世～近現代
P	13	SB	4	2G8	Ⅱ層上面	44.0	40.0	29.0	28.0	38.8	94.696		近世～近現代
P	14	SB	4	2G3	Ⅱ層上面	33.0	28.5	27.0	24.0	26.8	94.822		近世～近現代
P	15	SB	4	1G25	Ⅱ層上面	28.0	23.0	4.0	3.0	24.0	94.850		近世～近現代
P	16	SB	4	2G16	Ⅱ層上面	31.0	27.0	24.0	20.0	25.8	94.824		近世～近現代
P	17			2G16	Ⅱ層上面	31.5	24.0	21.0	19.5	15.8	94.922		近世～近現代
P	18	SB	4	2G7	Ⅱ層上面	56.0	49.0	42.0	33.0	36.4	94.733		近世～近現代
P	19	SB	6	1G24	Ⅱ層上面	40.0	35.5	18.0	12.0	33.3	94.755		近世～近現代
P	20	SB	6	1G19	Ⅱ層上面	65.5	60.0	40.0	34.5	28.6	94.860		近世～近現代
P	21	SB	6	1G20	Ⅱ層上面	33.0	29.0	29.0	28.0	43.3	94.695		近世～近現代
P	22	SB	6	1G15	Ⅱ層上面	40.0	33.0	33.0	27.0	40.7	94.703		近世～近現代
P	23	SB	6	1G10	Ⅱ層上面	30.0	28.5	16.0	14.0	42.3	94.685		近世～近現代
P	24			2G6	Ⅱ層上面	45.0	27.0	34.0	22.0	24.2	94.862		近世～近現代
P	25			2G6	Ⅱ層上面	42.0	37.0	27.0	20.0	13.4	94.968		近世～近現代
P	26	SB	6	1G24	Ⅱ層上面	53.5	45.0	21.0	20.0	39.7	94.745		近世～近現代
P	27	SB	4	1G14	Ⅱ層上面	50.5	40.5	33.0	32.0	30.8	94.830		近世～近現代
P	28	SB	6	1G15	Ⅱ層上面	61.0	47.0	36.0	23.0	39.4	94.730		近世～近現代
P	29	SB	4	1G10	Ⅱ層上面	48.0	38.0	38.0	36.0	32.8	94.790		近世～近現代
P	30	SB	6	2G1	Ⅱ層上面	60.0	54.0	39.0	33.0	41.6	94.702		近世～近現代
P	31	SB	5	2G4	Ⅱ層上面	68.0	56.0	62.0	44.0	45.5	94.609		近世～近現代
P	32	SB	5	2F24	Ⅱ層上面	73.0	60.0	44.5	40.0	63.0	94.440		近世～近現代
P	33			2F23	Ⅱ層上面	49.5	48.0	41.0	38.0	13.0	94.953		近世～近現代
P	34			2F17	Ⅱ層上面	53.0	45.5	46.0	34.0	13.1	94.978		近世～近現代
P	35			2F17	Ⅱ層上面	52.5	42.5	39.5	30.0	40.5	94.705		近世～近現代
P	36	SB	5	2F18	Ⅱ層上面	50.5	48.0	34.0	32.0	43.0	94.667		近世～近現代
P	37	SB	5	2F24	Ⅱ層上面	67.0	57.0	38.0	26.0	37.3	94.722		近世～近現代
P	38	SB	5	2F25	Ⅱ層上面	58.5	45.5	27.0	23.5	43.0	94.658		近世～近現代
P	39	SB	5	2F20	Ⅱ層上面	44.0	43.0	17.5	16.5	63.0	94.470		近世～近現代
P	40	SB	5	2F19	Ⅱ層上面	47.0	40.0	32.0	25.0	42.8	94.670		近世～近現代
P	41	SB	5	2F18	Ⅱ層上面	45.0	37.0	28.0	27.0	50.4	94..590		近世～近現代
P	42	SB	8	2F21	Ⅱ層上面	47.0	44.0	39.5	35.0	16.9	94..945		近世～近現代
P	43	SB	6	2F21	Ⅱ層上面	67.0	62.0	52.0	45.0	44.1	94.704		近世～近現代
P	44			2F22	Ⅱ層上面	50.0	45.0	34.0	33.0	31.4	94.772		近世～近現代
P	45	SB	1	3F6	Ⅱ層上面	42.0	41.0	33.0	30.0	28.5	94.845		近世～近現代
P	46	SB	1	3F1	Ⅱ層上面	32.0	30.0	32.0	30.0	28.5	94.845		近世～近現代
P	47	SB	1	3F1	Ⅱ層上面	85.0	42.0	75.0	30.0	40.5	94.665		近世～近現代
P	48	SB	1	3E17	Ⅱ層上面	42.0	38.0	25.0	18.0	33.5	94.690		近世～近現代
P	49	SB	1	3E17	Ⅱ層上面	53.0	48.0	45.0	42.0	28.0	94.720		近世～近現代
P	50	SB	1	3E12	Ⅱ層上面	63.0	49.0	50.0	40.0	18.4	94.690		近世～近現代
P	51	SB	1	3F6	Ⅱ層上面	17.0	12.0	13.0	6.0	不明	不明		近世～近現代
P	52	SB	1	3F2	Ⅱ層上面	66.0	56.0	56.0	50.0	50.5	94.485		近世～近現代
P	53	SB	1	3F2	Ⅱ層上面	76.0	63.0	53.0	43.0	56.0	94.380		近世～近現代
P	54	SB	1	3E22	Ⅱ層上面	61.0	52.0	36.0	35.0	45.5	94.445		近世～近現代
P	55			3E17	Ⅱ層上面	35.0	27.0	16.0	13.0	23.0	94.675		近世～近現代
P	56	SB	1	3E18	Ⅱ層上面	84.0	70.0	55.0	45.0	42.5	94.440		近世～近現代
P	57	SB	1	3E13	Ⅱ層上面	86.0	83.0	60.0	53.0	44.5	94.415		近世～近現代
P	58	SB	1	3F7	Ⅱ層上面	47.0	38.0	27.0	15.0	不明	不明		近世～近現代
P	59	SB	1	3E23	Ⅱ層上面	42.0	41.0	43.0	37.0	27.0	94.570		近世～近現代
P	60			3E23	Ⅱ層上面	87.0	68.0	80.0	67.5	12.0	94.715		近世～近現代
P	61	SB	1	3F8	Ⅱ層上面	45.0	30.0	36.0	23.0	不明	不明		近世～近現代
P	62	SB	1	3E24	Ⅱ層上面	42.0	40.0	32.0	31.0	28.5	94.440		近世～近現代
P	63	SB	1	3E20	Ⅱ層上面	55.0	45.0	35.0	31.0	16.0	94.550		近世～近現代
P	64	SB	1	3F9	Ⅱ層上面	60.0	50.0	52.0	43.0	不明	不明		近世～近現代
P	65	SB	1	3F10	Ⅱ層上面	86.0	53.0	31.0	29.0	30.0	94.350		近世～近現代
P	66	SB	1	3F5	Ⅱ層上面	52.0	49.0	44.0	40.5	41.1	94.250	№48陶器碗	近世～近現代
P	67	SB	1	3E25	Ⅱ層上面	62.0	51.0	49.0	38.0	46.2	94.191		近世～近現代
P	68	SB	1	4E16	Ⅱ層上面	76.0	50.0	20.0	14.0	38.2	94.240		近世～近現代
P	69	SB	1	3E14	Ⅱ層上面	46.0	44.0	38.0	35.0	22.8	94.563		近世～近現代
P	70	SB	3	3E16	Ⅱ層上面	60.0	53.0	53.0	45.0	33.0	94.615		近世～近現代
P	71	SB	3	3E11	Ⅱ層上面	44.0	43.0	34.0	30.0	35.0	54.605		近世～近現代
P	72			3E11	Ⅱ層上面	43.0	30.0	32.0	24.0	33.5	94.950		近世～近現代
P	73	SB	3	3E11	Ⅱ層上面	62.0	55.0	30.0	20.0	32.5	94.640		近世～近現代
P	74			3E11	Ⅱ層上面	43.0	35.0	32.0	22.0	18.5	94.765		近世～近現代
P	75	SB	3	3E10	Ⅱ層上面	80.0	79.0	60.0	58.0	15.9	94.811		近世～近現代
P	76			3E12	Ⅱ層上面	56.0	45.0	43.0	36.0	4.0	94.845		近世～近現代
P	77	SB	3	3E12	Ⅱ層上面	78.0	66.0	73.0	60.0	7.0	94.825		近世～近現代
P	78	SB	3	2E5	Ⅱ層上面	80.0	56.0	63.0	47.0	34.8	94.737		近世～近現代
P	79			2E5	Ⅱ層上面	32.0	28.0	25.0	23.0	29.7	94.755		近世～近現代
P	80	SB	3	3E1	Ⅱ層上面	52.0	46.0	31.0	21.0	30.0	94.693		近世～近現代
P	81	SB	3	3E1	Ⅱ層上面	58.0	56.0	42.0	36.0	30.0	94.697		近世～近現代

種別	番号	帰属遺構		位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						出土遺物	時期
						上端		下端		深さ	底部標高(m)		
		種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸				
P	82	SB	3	3E1	Ⅱ層上面	57.0	53.0	40.0	28.0	33.2	94.665		近世～近現代
P	83	SB	3	3E7	Ⅱ層上面	60.0	53.0	50.0	46.0	22.0	94.757		近世～近現代
P	84	SB	3	3E7	Ⅱ層上面	63.0	60.0	36.0	35.0	60.3	94.320		近世～近現代
P	85			3E8	Ⅱ層上面	88.0	83.0	63.0	45.0	21.0	94.674		近世～近現代
P	86			3E8	Ⅱ層上面	75.0	64.0	47.0	41.0	19.3	94.657	№5須恵器坏	近世～近現代
P	87			3E14	Ⅱ層上面	80.0	70.0	70.0	52.0	26.2	94.520		近世～近現代
P	88	SB	1	3E3	Ⅱ層上面	64.0	43.0	42.0	41.0	40.5	94.525		近世～近現代
P	89			3E3	Ⅱ層上面	26.0	19.0	25.0	18.0	47.5	94.455		近世～近現代
P	90	SB	1	3E8	Ⅱ層上面	50.0	46.0	40.0	36.0	38.0	94.530		近世～近現代
P	91	SB	1	3E9	Ⅱ層上面	41.0	30.5	31.0	24.0	16.0	94.710		近世～近現代
P	92	SB	1	3E9	Ⅱ層上面	43.0	34.0	36.0	32.0	32.0	94.530		近世～近現代
P	93	SB	1	3E10	Ⅱ層上面	53.0	37.0	14.0	10.0	43.5	94.355		近世～近現代
P	94	SB	1	3E10	Ⅱ層上面	40.0	37.0	31.0	28.0	40.0	94.375		近世～近現代
P	95	SB	1	3F7	Ⅱ層上面	17.0	11.0	5.0	4.0	不明	不明		近世～近現代
P	96	SB	1	3F13	Ⅱ層上面	17.0	16.0	12.0	11.0	不明	不明		近世～近現代
P	97	SB	1	3F14	Ⅱ層上面	23.0	18.0	11.0	8.5	不明	不明		近世～近現代
P	98	SB	1	3F15	Ⅱ層上面	32.0	19.0	21.0	15.0	不明	不明		近世～近現代
P	99	SB	1	3F10	Ⅱ層上面	18.0	14.0	11.0	8.0	8.6	94.546		近世～近現代
P	100	SB	1	3F5	Ⅱ層上面	23.0	17.0	16.0	10.0	10.0	94.540		近世～近現代
P	101	SB	5	2F22	Ⅱ層上面	45.0	44.0	36.0	35.0	34.7	94.745		近世～近現代
P	102	SB	4	2G1	Ⅱ層上面	56.0	48.0	23.0	19.0	35.3	94.758		近世～近現代
P	103	SB	1	4E16	Ⅱ層上面	19.0	16.0	6.0	4.0	6.7	94.515		近世～近現代
P	104	SB	3	2E15	Ⅱ層上面	55	53.0	50.0	43.0	23.0	94.745		近世～近現代
P	105	SB	3	2E10	Ⅱ層上面	68.0	58.0	57.0	47.0	34.1	94.625		近世～近現代
P	106	SB	3	2E4	Ⅱ層上面	56.0	48.0	42.0	37.0	41.5	94.637		近世～近現代
P	107	SB	3	2E4	Ⅱ層上面	67.0	47.0	12.0	8.0	21.4	94.858		近世～近現代
P	108			2E4	Ⅱ層上面	67.0	44.0	36.0	25.0	9.5	94.982		近世～近現代
P	109	SB	3	2D24	Ⅱ層上面	50.0	42.0	40.0	30.0	14.0	94.945		近世～近現代
P	110	SB	3	2D25	Ⅱ層上面	53.0	50.0	45.0	38.5	20.0	94.885		近世～近現代
P	111	SB	3	2D20	Ⅱ層上面	58.5	52.0	50.0	48.0	35.3	94.702		近世～近現代
P	112	SB	3	3D11	Ⅱ層上面	57.0	55.0	45.0	44.0	35.1	94.685		近世～近現代
P	113	SB	3	3D6	Ⅱ層上面	58.0	52.0	50.0	45.0	31.8	94.802		近世～近現代
P	114	SB	3	3D11	Ⅱ層上面	66.0	53.0	35.0	21.0	58.4	94.516		近世～近現代
P	115	SB	3	3D12	Ⅱ層上面	64.0	56.0	40.0	31.0	39.7	94.635		近世～近現代
P	116	SB	3	3D12	Ⅱ層上面	33.0	32.0	27.0	23.0	33.4	94.616		近世～近現代
P	117	SB	3	3D12	Ⅱ層上面	67.0	54.0	40.0	33.0	51.2	94.518		近世～近現代
P	118	SB	3	3D18	Ⅱ層上面	70.0	63.0	44.0	34.0	34.8	94.658		近世～近現代
P	119	SB	3	3D19	Ⅱ層上面	47.0	46.0	35.0	31.0	35.5	94.605		近世～近現代
P	120	SB	3	3E3	Ⅱ層上面	52.0	47.0	38.0	33.0	44.0	94.525		近世～近現代
P	121	SB	4	1G19	Ⅱ層上面	32.0	28.5	22.0	19.0	14.3	95.011		近世～近現代
P	122	SB	4	1G19	Ⅱ層上面	28.0	23.0	20.0	16.5	23.0	94.920		近世～近現代
P	123	SB	4	1G14	Ⅱ層上面	38.0	29.0	27.0	20.0	6.5	95.080		近世～近現代
P	124	SB	4	1G24	Ⅱ層上面	40.5	33.5	26.0	22.0	26.5	94.795		近世～近現代
P	125			1G20	Ⅱ層上面	33.0	25.0	15.0	10.0	43.1	94.681		近世～近現代
P	126			1G20	Ⅱ層上面	40.0	38.0	29.0	26.0	22.6	94.884		近世～近現代
P	127	SB	4	1G20	Ⅱ層上面	50.0	40.0	38.0	33.0	20.6	94.885		近世～近現代
P	128	SB	6	2F22	Ⅱ層上面	33.0	30.0	27.5	23.0	13.1	94.964		近世～近現代
P	129	SI	1	2F21	Ⅱ層上面	23.0	13.0	10.0	7.5	6.0	95.050		平安時代
P	130	SI	1	2F21	Ⅱ層上面	24.0	18.0	17.0	14.0	14.0	94.942		平安時代
P	131	SI	1	2F21	Ⅱ層上面	23.0	20.0	14.0	10.0	11.3	94.995		平安時代
P	132	SI	1	2F21	Ⅱ層上面	30.0	14.0	19.0	8.5	7.6	95.042		平安時代
P	133	SI	1	1F25	Ⅱ層上面	25.0	20.0	15.0	13.0	6.0	95.080		平安時代
P	134	SB	4	2F21	Ⅱ層上面	38.0	32.0	27.0	23.0	9.3	95.025		近世～近現代
P	135	SB	8	2F16	Ⅱ層上面	43.0	37.0	32.0	27.0	20.9	94.930		近世～近現代
P	136			2F11	Ⅱ層上面	23.0	20.0	16.0	13.0	16.8	94.970		近世～近現代
P	137			2F12	Ⅱ層上面	24.0	23.0	16.0	15.0	20.9	94.928		近世～近現代
P	138	SB	8	2F12	Ⅱ層上面	46.0	37.5	34.0	26.0	30.1	94.817		近世～近現代
P	139	SB	5	2F23	Ⅱ層上面	47.0	42.0	30.0	25.0	60.4	94.476		近世～近現代
P	140			2F14	Ⅱ層上面	18.0	17.5	12.0	11.0	20.9	94.870		近世～近現代
P	141			2F19	Ⅱ層上面	22.0	14.0	25.0	15.0	22.5	94.865		近世～近現代
P	142	SB	5	2F19	Ⅱ層上面	19.0	17.0	12.5	12.0	8.3	95.018		近世～近現代
P	143			2F18	Ⅱ層上面	19.0	18.5	15.0	14.0	11.0	94.986		近世～近現代
P	144	SB	5	2F23	Ⅱ層上面	44.0	36.0	15.0	14.0	55.4	94.544		近世～近現代
P	145			2G3	Ⅱ層上面	28.0	23.0	19.0	14.0	13.0	94.960		近世～近現代
P	146			2G6	Ⅱ層上面	25.0	23.0	19.0	14.0	14.9	94.950		近世～近現代
P	147	SB	4	2G6	Ⅱ層上面	36.0	35.0	20.0	19.0	17.2	94.924		近世～近現代
P	148	SB	4	2G22	Ⅱ層上面	46.0	44.0	34.0	33.0	12.5	94.922		近世～近現代
P	149	SB	7	2G13	Ⅱ層上面	36.0	25.0	23.0	21.0	44.0	94.620		近世～近現代
P	150	SB	7	2G14	Ⅱ層上面	39.0	33.0	30.0	26.0	38.4	94.686		近世～近現代
P	151	SB	7	2G9	Ⅱ層上面	55.0	35.0	45.0	22.0	72.8	94.342		近世～近現代
P	152	SB	5	2G9	Ⅱ層上面	40.5	33.0	15.5	13.0	51.8	94.557		近世～近現代
P	153	SB	7	2G4	Ⅱ層上面	47.0	46.5	38.5	36.0	53.1	94.541		近世～近現代
P	154	SB	5	2G4	Ⅱ層上面	83.0	35.0	33.0	25.9	82.8	94.250		近世～近現代
P	155			2G8	Ⅱ層上面	27.5	25.5	15.0	12.5	44.1	94.537		近世～近現代
P	156	SB	4	2G2	Ⅱ層上面	33.0	28.0	27.0	23.0	21.4	94.864		近世～近現代
P	157	SB	5	2G2	Ⅱ層上面	40.0	36.0	33.0	30.0	29.5	94.790		近世～近現代
P	158			2E23	Ⅱ層上面	25.0	24.0	18.0	16.0	15.0	94.965		近世～近現代
P	159			2E24	Ⅱ層上面	30.0	23.0	23.0	19.0	20.0	94.860		近世～近現代
P	160			2E19	Ⅱ層上面	33.0	25.0	20.0	18.0	39.2	94.660		近世～近現代
P	161			2E19	Ⅱ層上面	38.0	30.0	28.0	22.0	21.6	94.832		近世～近現代
P	162			2E17	Ⅱ層上面	21.0	20.0	15.0	13.0	15.4	94.986		近世～近現代
P	163			2E8	Ⅱ層上面	26.0	25.0	17.0	16.0	35.8	94.753		近世～近現代

種別	番号	帰属遺構		位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						出土遺物	時期
						上端		下端		深さ	底部標高(m)		
		種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸				
P	164			2E8	Ⅱ層上面	20.0	18.0	14.0	13.0	5.4	95.036		近世～近現代
P	165	SB	3	2E8	Ⅱ層上面	40.0	36.0	5.0	4.0	16.8	95.010		近世～近現代
P	166	SB	3	2E9	Ⅱ層上面	60.0	56.0	43.0	40.0	17.0	94.893		近世～近現代
P	167			2E4	Ⅱ層上面	28.0	26.0	25.0	23.0	29.4	94.776		近世～近現代
P	168			2D24	Ⅱ層上面	32.0	23.0	22.0	17.0	22.7	94.828		近世～近現代
P	169			2D24	Ⅱ層上面	27.0	22.5	20.0	12.0	16.8	94.868		近世～近現代
P	170			2D24	Ⅱ層上面	33.0	28.0	24.0	19.0	36.0	94.725		近世～近現代
P	171			2D19	Ⅱ層上面	23.0	20.0	14.0	13.5	21.5	94.865		近世～近現代
P	172			2D25	Ⅱ層上面	38.0	27.0	30.0	20.5	14.0	94.945		近世～近現代
P	173			2D25	Ⅱ層上面	53.0	52.0	44.0	36.0	20.5	94.880		近世～近現代
P	174	SB	3	3E1	Ⅱ層上面	67.0	59.0	49.0	40.0	29.5	94.720		近世～近現代
P	175			3E2	Ⅱ層上面	24.0	17.0	18.0	15.0	18.0	94.825		近世～近現代
P	176			3E2	Ⅱ層上面	22.0	17.5	16.5	14.0	7.5	94.945		近世～近現代
P	177			3E2	Ⅱ層上面	30.0	28.0	16.5	16.0	11.0	94.885		近世～近現代
P	178			3E2	Ⅱ層上面	23.0	21.0	17.0	16.0	5.5	94.925		近世～近現代
P	179			3E1	Ⅱ層上面	33.0	24.0	12.0	10.0	15.5	94.855		近世～近現代
P	180	SB	3	3D22	Ⅱ層上面	55.0	43.0	45.0	37.0	24.5	94.740		近世～近現代
P	181	SB	3	3D22	Ⅱ層上面	50.0	49.0	38.0	37.0	32.5	94.670		近世～近現代
P	182	SB	3	3D22	Ⅱ層上面	56.0	54.0	38.0	35.0	54.7	94.358		近世～近現代
P	183	SB	3	3D16	Ⅱ層上面	66.0	51.0	58.0	45.0	25.3	94.717		近世～近現代
P	184	SB	2	3D23	Ⅱ層上面	33.0	32.0	28.0	26.0	21.6	94.520		近世～近現代
P	185	SB	2	3D17	Ⅱ層上面	29.0	28.0	14.0	13.0	17.0	94.555		近世～近現代
P	186	SB	2	3D16	Ⅱ層上面	43.0	36.0	10.0	8.0	44.9	94.450		近世～近現代
P	187	SB	5	2G3	Ⅱ層上面	45.0	37.0	33.0	31.5	45.4	94.628		近世～近現代
P	188			2G3	Ⅱ層上面	60.0	40.0	38.0	35.5	46.3	94.605		近世～近現代
P	189	SB	5	2G3	Ⅱ層上面	45.5	35.0	32.0	24.0	27.1	94.804		近世～近現代
P	190			2G8	Ⅱ層上面	40.0	35.6	29.0	27.0	48.1	94.613		近世～近現代
P	191			2F18	Ⅱ層上面	25.0	20.0	20.0	15.0	23.6	94.870		近世～近現代
P	192	SB	8	2F11	Ⅱ層上面	40.0	34.0	30.0	23.0	27.2	94.885		近世～近現代
P	193			2F10	Ⅱ層上面	23.0	20.5	18.0	13.0	12.0	94.974		近世～近現代
P	194			2F5	Ⅱ層上面	16.5	15.0	11.0	8.0	20.2	94.862		近世～近現代
P	195			2F5	Ⅱ層上面	34.0	31.0	25.0	23.0	36.3	94.706		近世～近現代
P	196			2F5	Ⅱ層上面	18.0	16.0	12.0	10.0	21.1	94.866		近世～近現代
P	197			2F9	Ⅱ層上面	21.0	20.5	18.0	11.0	13.1	94.985		近世～近現代
P	198			2F10	Ⅱ層上面	24.0	23.0	18.5	15.0	22.6	94.895		近世～近現代
P	199	SB	1	3E8	Ⅱ層上面	69.0	56.0	23.0	22.0	51.5	94.395		近世～近現代
P	200	SB	1	3E8	Ⅱ層上面	86.0	84.0	24.0	20.0	58.5	94.265		近世～近現代
P	201			3E15	Ⅱ層上面	45.0	38.0	33.0	28.0	17.0	94.520		近世～近現代
P	202	SB	1	4E11	Ⅱ層上面	99.0	70.0	40.0	31.0	29.5	94.345		近世～近現代
P	203			4E11	Ⅱ層上面	99.0	70.0	55.0	39.0	23.5	94.425		近世～近現代
P	204	SB	1	4E11	Ⅱ層上面	25.0	43.0	30.0	24.0	26.5	94.400		近世～近現代
P	205			3D8	Ⅱ層上面	99.0	83.0	73.0	53.0	31.0	94.615		近世～近現代
P	206			3D3	Ⅱ層上面	76.0	56.0	24.0	22.0	46.2	94.488	No.54・55陶器碗	近世～近現代
P	207				Ⅱ層上面	22.0	20.0	15.0	14.0	14.7	94.950		近世～近現代
P	208			2F20	Ⅱ層上面	34.0	27.0	23.0	18.0	38.5	94.700		近世～近現代
P	209			3F16	Ⅱ層上面	58.0	37.0	47.0	27.0	13.1	94.936		近世～近現代
P	210			3F16	Ⅱ層上面	17.0	15.0	9.0	6.0	6.9	94.976		近世～近現代
P	211			2E20	Ⅱ層上面	63.0	49.0	42.0	25.0	20.0	94.840		近世～近現代
P	212			2E20	Ⅱ層上面	33.0	32.0	23.0	20.0	33.0	94.670	No.12土師器坏	近世～近現代
P	213			2E20	Ⅱ層上面	23.0	20.0	15.0	13.0	27.5	94.725		近世～近現代
P	214	SB	3	3D19	Ⅱ層上面	55.0	51.0	48.0	47.0	44.0	94.485		近世～近現代
P	215			3D24	Ⅱ層上面	41.0	35.0	25.0	15.0	40.5	94.505		近世～近現代
P	216	SB	3	3E3	Ⅱ層上面	73.0	57.0	55.0	43.0	55.5	94.420		近世～近現代
P	217			3F11	Ⅱ層上面	72.0	45.0	57.0	40.0	29.0	94.720		近世～近現代
P	218			1G5	Ⅱ層上面	34.0	24.0	26.0	15.0	11.4	95.024		近世～近現代
P	219			1G5	Ⅱ層上面	35.0	25.0	26.0	19.5	7.8	95.034		近世～近現代
P	220	SB	4	1G5	Ⅱ層上面	30.0	26.0	22.0	20.0	13.3	95.008		近世～近現代
P	221	SB	4	1G15	Ⅱ層上面	54.0	39.0	43.0	30.0	31.0	94.805		近世～近現代
P	222			2G17	Ⅱ層上面	36.0	34.0	32.0	31.0	24.5	94.825		近世～近現代
P	223			2E13	Ⅱ層上面	18.0	15.5	8.5	5.0	19.0	94.895		近世～近現代
P	224			2E14	Ⅱ層上面	28.0	26.0	20.0	19.0	13.0	94.936		近世～近現代
P	225			2E14	Ⅱ層上面	25.0	21.0	10.0	8.0	11.5	94.910		近世～近現代
P	226			2E25	Ⅱ層上面	26.0	24.0	23.0	21.0	20.0	94.845		近世～近現代
P	227			3E21	Ⅱ層上面	27.0	24.0	15.0	13.0	36.5	94.670		近世～近現代
P	228			2E25	Ⅱ層上面	25.0	24.0	18.0	17.0	30.5	94.740		近世～近現代
P	229			3E6	Ⅱ層上面	25.0	20.0	15.0	13.0	19.8	94.744		近世～近現代
P	230			3E6	Ⅱ層上面	34.0	32.0	19.0	18.0	35.9	94.570		近世～近現代
P	231			3E7	Ⅱ層上面	22.0	21.0	14.0	13.0	21.8	94.700		近世～近現代
P	232			2E5	Ⅱ層上面	21.0	20.0	13.0	11.0	13.9	94.820		近世～近現代
P	233			2E5	Ⅱ層上面	23.0	19.0	15.0	12.0	14.6	94.827		近世～近現代
P	234			3E1	Ⅱ層上面	20.0	17.0	12.0	11.5	10.8	94.865		近世～近現代
P	235			2E5	Ⅱ層上面	18.5	16.0	13.0	10.0	18.6	94.821		近世～近現代
P	236			2E10	Ⅱ層上面	23.0	22.5	12.0	11.5	40.0	94.582		近世～近現代
P	237			2E10	Ⅱ層上面	50.0	23.0	20.0	16.0	37.2	94.642		近世～近現代
P	238			2E9	Ⅱ層上面	50.0	30.0	20.0	16.0	44.9	94.623		近世～近現代
P	239			2E9	Ⅱ層上面	43.0	35.0	22.0	19.0	41.8	94.623		近世～近現代
P	240			2E9	Ⅱ層上面	18.0	17.0	10.0	8.0	18.8	94.844		近世～近現代
P	241			2E9	Ⅱ層上面	14.0	13.0	6.0	5.0	9.8	94.972		近世～近現代
P	242			2E4	Ⅱ層上面	55.0	30.0	45.0	22.0	13.5	94.935		近世～近現代
P	243			2E4	Ⅱ層上面	55.0	23.0	45.0	19.0	17.5	94.896		近世～近現代
P	244			2E4	Ⅱ層上面	18.0	15.0	11.0	7.0	14.1	94.924		近世～近現代
P	245			2D25	Ⅱ層上面	48.0	29.0	18.0	15.0	24.0	94.840		近世～近現代

種別	番号	帰属遺構		位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)						出土遺物	時期
						上端		下端		深さ	底部標高(m)		
		種別	番号			長軸	短軸	長軸	短軸				
P	246			2D20	Ⅱ層上面	16.0	13.0	9.0	7.0	10.0	94.990		近世～近現代
P	247			2D20	Ⅱ層上面	18.0	13.0	11.0	9.0	16.5	94.915		近世～近現代
P	248			2D20	Ⅱ層上面	17.0	16.5	10.0	9.0	10.5	94.975		近世～近現代
P	249			3D21	Ⅱ層上面	20.0	18.0	13.0	10.0	9.7	94.965		近世～近現代
P	250			3D21	Ⅱ層上面	24.0	19.0	13.0	10.0	12.8	94.852		近世～近現代
P	251			3D21	Ⅱ層上面	25.0	24.0	10.0	9.0	21.4	94.785		近世～近現代
P	252			3D21	Ⅱ層上面	14.0	12.5	8.0	7.5	12.5	94.890		近世～近現代
P	253			3E22	Ⅱ層上面	15.0	10.0	6.0	3.0	10.8	94.802		近世～近現代
P	254			3D17	Ⅱ層上面	63.0	54.0	55.0	45.0	22.7	94.505		近世～近現代
P	255			3D3	Ⅱ層上面	45.0	41.0	38.0	32.0	20.4	94.736		近世～近現代
P	256			3C22	Ⅱ層上面	48.0	46.0	42.0	40.0	21.4	94.764		近世～近現代
P	257			3D3	Ⅱ層上面	64.0	49.0	55.0	41.0	18.7	94.708		近世～近現代
P	258			4E11	Ⅱ層上面	35.0	30.0	24.0	20.0	10.5	94.565		近世～近現代
P	259			4E11	Ⅱ層上面	50.0	35.0	40.0	30.0	8.5	94.565		近世～近現代
P	260			2F11	Ⅱ層上面	19.0	18.5	12.0	10.0	7.6	95.082		近世～近現代
P	261			2F7	Ⅱ層上面	36.0	30.0	30.0	23.0	11.3	95.027		近世～近現代
P	262			2F13	Ⅱ層上面	18.0	17.0	13.0	12.0	12.6	94.976		近世～近現代
P	263			2F9	Ⅱ層上面	21.0	17.0	8.0	7.0	27.1	94.863		近世～近現代
P	264			2F4	Ⅱ層上面	23.0	19.0	9.0	7.0	9.2	94.987		近世～近現代
P	265			2E20	Ⅱ層上面	24.0	23.0	13.0	12.0	22.5	94.820		近世～近現代
P	266			2E19	Ⅱ層上面	32.0	30.0	20.0	17.0	32.0	94.720		近世～近現代
P	267			2E20	Ⅱ層上面	30.0	20.0	17.0	10.5	19.0	94.810		近世～近現代
P	268			2E15	Ⅱ層上面	86.0	72.0	76.0	66.0	14.5	94.835		近世～近現代
P	269			3E11	Ⅱ層上面	25.0	20.0	11.0	8.0	26.3	94.687	№25土師器甕	近世～近現代
P	270			3E7	Ⅱ層上面	37.0	36.0	27.0	24.0	11.9	94.788		近世～近現代
P	271			3E6	Ⅱ層上面	27.0	23.0	20.0	19.0	20.2	94.748		近世～近現代
P	272			2E9	Ⅱ層上面	37.0	36.0	33.0	23.0	6.1	95.010		近世～近現代
P	273	SB	2	3D16	Ⅱ層上面	44.0	35.0	30.0	23.0	16.2	94.568		近世～近現代
P	274			4E12	Ⅱ層上面	30.0	22.0	20.0	16.0	16.0	94.450		近世～近現代
P	275			4E11	Ⅱ層上面	23.0	19.0	9.0	4.0	5.5	94.590		近世～近現代
P	276			4E11	Ⅱ層上面	20.0	15.0	6.5	5.0	8.5	94.585		近世～近現代
P	277	SB	1	4E6	Ⅱ層上面	13.0	12.5	4.0	3.0	10.0	94.580		近世～近現代
P	278	SB	1	3E10	Ⅱ層上面	39.0	36.0	28.0	27.0	19.2	94.568		近世～近現代
P	279			4E6	Ⅱ層上面	56.0	40.0	45.0	35.0	30.0	94.380		近世～近現代
P	280			2G9	Ⅱ層上面	43.0	42.0	26.5	22.0	54.6	94.526		近世～近現代
P	281			2G18	Ⅱ層上面	52.0	39.0	28.0	20.0	21.6	94.792		近世～近現代
P	282	SB	7	2G15	Ⅱ層上面	43.0	42.0	24.0	22.0	30.5	94.673		近世～近現代
P	283			2G20	Ⅱ層上面	34.0	33.0	26.0	25.0	41.1	94.540		近世～近現代
P	284	SB	7	2G15	Ⅱ層上面	46.0	40.0	32.0	30.0	46.7	94.473		近世～近現代
P	285			2G10	Ⅱ層上面	40.0	38.5	24.0	23.5	44.8	94.467		近世～近現代
P	286			3G7	Ⅱ層上面	56.0	50.0	35.5	25.0	29.1	94.563		近世～近現代
P	287			3G11	Ⅱ層上面	44.5	37.0	20.0	16.5	43.5	94.433		近世～近現代
P	288			3F1	Ⅱ層上面	22.0	14.0	12.0	6.0	25.0	94.765		近世～近現代
P	289			3E21	Ⅱ層上面	20.0	15.0	12.0	8.0	37.5	94.565		近世～近現代
P	290			3E22	Ⅱ層上面	20.0	19.0	15.0	13.0	20.1	94.710		近世～近現代
P	291			3E24	Ⅱ層上面	22.0	16.0	13.0	10.0	25.0	94.460		近世～近現代
P	292			3E25	Ⅱ層上面	22.0	14.0	15.0	11.0	11.7	94.550		近世～近現代
P	293			3E2	Ⅱ層上面	29.0	28.0	18.0	11.0	36.0	94.635		近世～近現代
P	294			3E2	Ⅱ層上面	34.0	28.0	25.0	23.0	36.5	94.640		近世～近現代
P	295			3E2	Ⅱ層上面	27.0	25.0	16.0	15.5	38.0	94.625		近世～近現代
P	296	SB	1	3E3	Ⅱ層上面	26.0	24.0	17.0	16.0	37.5	94.550		近世～近現代
P	297	SB	1	3E4	Ⅱ層上面	18.0	17.0	12.0	9.0	44.0	94.470		近世～近現代
P	298	SB	1	3E10	Ⅱ層上面	15.5	14.5	11.0	10.5	42.5	94.315		近世～近現代
P	299	SB	3	3D16	Ⅱ層上面	64.0	63.0	52.0	51.0	43.0	94.574		近世～近現代
P	300	SB	3	3D23	Ⅱ層上面	48.0	46.0	39.0	36.0	9.5	94.645		近世～近現代
P	301	SB	2	3D23	Ⅱ層上面	36.0	30.0	30.0	23.0	8.0	94.605		近世～近現代
P	302	SB	3	3D17	Ⅱ層上面	67.0	62.0	48.0	46.0	53.2	94.376		近世～近現代
P	303	SB	2	3D12	Ⅱ層上面	40.0	36.0	35.0	31.0	40.5	94.535		近世～近現代
P	304	SB	2	3D12	Ⅱ層上面	42.0	38.0	34.0	33.0	39.0	94.580		近世～近現代
P	305	SB	2	3D13	Ⅱ層上面	53.0	47.0	43.0	38.0	49.0	94.436		近世～近現代
P	306	SB	2	3D13	Ⅱ層上面	20.0	18.0	11.0	10.0	42.5	94.470		近世～近現代
P	307	SB	2	3D19	Ⅱ層上面	52.0	43.0	45.0	39.0	30.5	94.630		近世～近現代
P	308			3D24	Ⅱ層上面	40.0	38.0	30.0	27.0	60.0	94.805		近世～近現代
P	309			3D25	Ⅱ層上面	37.0	25.0	28.0	16.0	8.5	94.660		近世～近現代
P	310			4D21	Ⅱ層上面	71.0	45.0	51.0	32.0	13.5	94.505		近世～近現代
P	311			4E13	Ⅱ層上面	35.0	21.0	25.0	16.0	14.5	94.335		近世～近現代
P	312			4E13	Ⅱ層上面	49.0	34.0	43.0	24.0	16.5	94.320		近世～近現代
P	313			4E13	Ⅱ層上面	45.0	37.0	35.0	34.0	23.3	94.217		近世～近現代
P	314			4E12	Ⅱ層上面	24.0	23.0	15.0	14.0	21.5	94.375		近世～近現代
P	315			4E11	Ⅱ層上面	51.0	47.0	43.0	35.0	11.5	94.510		近世～近現代
P	316			4E16	Ⅱ層上面	15.0	11.0	10.0	9.0	14.9	94.456		近世～近現代
P	317			1G5	Ⅱ層上面	21.0	20.0	13.5	13.0	10.6	95.034		近世～近現代
P	318			1F25	Ⅱ層上面	23.0	15.0	10.0	6.5	11.5	95.028		近世～近現代
P	319	SB	4	2G2	Ⅱ層上面	52.0	43.5	30.5	28.0	38.5	94.712		近世～近現代
P	320			2G2	Ⅱ層上面	42.5	27.0	36.0	28.0	61.3	94.485		近世～近現代
P	321			2E4	Ⅱ層上面	33.0	15.0	22.0	15.0	11.5	94.955		近世～近現代

第10表　土器観察表

(1) 法量については、( )が残存値、〔 〕が推定値で表示している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	種類	器種	残存位置	法量(cm)				外面調整	内面調整	底面調整	胎土	外面色調	内面色調	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	器厚								
1	21	19			3E8	Ⅱ層直上	須恵器	坏	略完形	13.6	7.8	4.4	0.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む・緻密	10YR 7/1 灰白	10YR 7/1 灰白		0033
2	21	19	SB	1	P50	覆土	須恵器	坏	口縁部	〔14.8〕	—	(3.55)	0.3	ロクロナデ	ロクロナデ		砂粒目立つが緻密	10YR 7/2 にぶい黄橙	10YR 8/2 灰白		0020
3	21	19	SK	1		覆土	須恵器	坏	底部	—	〔5.1〕	(1.9)	0.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む・緻密	10YR 7/1 灰白	10YR 7/1 灰白		0009
4	21	19	SD	3		覆土	須恵器	坏	底部	—	〔5.6〕	(2.0)	0.35	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	軟質で粉っぽい	2.5Y 8/2 灰白	2.5Y 8/2 灰白		0014
5	21	19	P	86		覆土	須恵器	坏	底部	—	〔5.2〕	(0.8)	0.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む・緻密	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 8/2 灰白		0026
6	21	19	SD	3		覆土	土師器	坏	1/4	12.9	5.4	5.5	0.4	ロクロナデ	ヘラミガキ	回転糸切り	白色粒子含む	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 2/1 黒	内面黒色処理	0013
7	21	19	SB	1	P57	覆土	土師器	坏？	底部	—	〔5.8〕	(1.15)	0.45	ロクロナデ	ロクロナデ？	回転糸切り	砂粒目立たず緻密	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 3/1 黒褐	内面黒色処理	0022
8	21	19	SB	1	P57	覆土	土師器	坏	底部	—	5.7	(2.2)	0.4	ロクロナデ	ヘラミガキ？	回転糸切り	砂粒目立たず緻密	10YR 8/4 浅黄橙	10YR 3/1 黒褐	内面黒色処理	0023
9	21	19	SB	4	P127	覆土	土師器	坏？	底部	—	〔7.0〕	(1.7)	0.6	ロクロナデ	ヘラミガキ	回転糸切り	白色・透明粒子含む	5YR 6/6 橙	10YR 3/1 黒褐	内面黒色処理	0028
10	21	19	SD	4		覆土	土師器	坏	底部	—	〔6.2〕	(1.5)	0.4	ロクロナデ	ヘラミガキ	回転糸切り？	砂粒目立たず緻密	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 3/1 黒褐	内面黒色処理	0015
11	21	19	SD	4		覆土	土師器	坏？	底部	—	〔6.0〕	(1.4)	0.5	ロクロナデ	ロクロナデ？	回転糸切り？	砂粒目立たず緻密	7.5YR 6/4 にぶい橙	2.5YR 2/1赤黒	内面黒色処理	0016
12	21	19	P	212	2E20	覆土	土師器	坏	底部	—	〔5.4〕	(1.45)	0.4	ロクロナデ	ヘラミガキ	回転糸切り・ミガキ？	砂粒目立たず緻密	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 3/1 黒褐	内面黒色処理	0030
13	21	19	SI	1	p3	底面	土師器	坏	略完形	14.3	5.1	4.9	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む	10YR 8/4 浅黄橙	10YR 8/4 浅黄橙		0001
14	21	19	SI	1	p3	底面	土師器	坏	略完形	13.5	6.7	5.9	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	砂粒目立ちザラつく	10YR 8/6 黄橙	10YR 8/6 黄橙		0002
15	21	19	SI	1	p3	底面	土師器	坏	口縁部	14.5	—	4.7	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	砂粒目立ちザラつく	7.5YR 7/4 にぶい橙	5YR 7/6 橙		0003
16	21	19	SX	1	中央東	覆土	土師器	坏	底部	—	〔5.4〕	(2.8)	0.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む	7.5YR 5/1 褐灰	10YR 5/1 褐灰		0008
17	21	19			表採	Ⅰ層	土師器	坏	底部	—	4.9	(1.75)	0.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む	7.5YR 8/8 黄橙	10YR 6/6 明黄褐		0034
18	21	19	SI	1	p3	底面	土師器	高台坏	高台	—	7.2	(2.7)	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ		緻密だが粉っぽい	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 7/3 にぶい橙	内面黒色処理	0004
19	22	20	SE	1		覆土上位	須恵器	壺or瓶?	口縁部	—	—	(3.6)	0.5				白色粒子含む・硬質	2.5YR 4/1 赤灰	10YR 3/1 黒褐		0037
20	22	20	T	4		Ⅰ層	須恵器	壺	口縁部	—	—	(2.9)	0.5				砂粒目立ちザラつく	7.5Y 3/2 オリーブ黒	7.5Y 3/2 オリーブ黒		0056
21	22	20	T	3		Ⅰ層	須恵器	甕？	体部	—	—	(4.7)	0.7				白色粒子含む・硬質	10YR 2/1 黒	2.5YR 4/1 赤灰		0052
22	22	20	SI	1	p3	底面	土師器	甕	口縁部	〔20.0〕	—	(4.7)	0.6	ロクロナデ	ロクロナデ		白色粒子含む・軟質	5YR 4/8赤褐	5YR 5/8 明赤褐		0005
23	22	20	SB	6	P43	覆土	土師器	甕	口縁部	〔16.4〕	—	(2.8)	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ		砂粒目立ちザラつく	7.5YR 7/6 橙	7.5YR 7/4 にぶい橙		0019
24	22	20	SK	2		覆土	土師器	甕	体部	—	—	(7.0)	0.7	ヘラケズリ・ヘラナデ	ヘラナデ		砂粒目立ちザラつく	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/2 灰褐		0010
25	22	20	P	269	3E11	覆土	土師器	甕	体部	—	—	(10.65)	0.7	ハケメ・ヘラナデ	ハケメ・ヘラナデ		砂粒目立ちザラつく	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 6/4 にぶい黄橙		0031
26	22	20	SE	1		覆土上位	土師器	甕	底部	—	7.2	(6.2)	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ	停止糸切り	軟質で粉っぽい	7.5YR 7/8 黄橙	10YR 7/4 にぶい黄橙	内面黒色処理	0012
27	22	20			2E5	Ⅰ層下位	土師器	甕	底部	—	6.5	2.05	0.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	白色粒子含む	10YR 7/4 にぶい黄橙	10YR 7/6 明黄褐		0032
28	22	20	SI	1	カマド②	覆土	土師器	甕	底部	—	8.9	(1.7)	0.8	ヘラケズリ	ユビナデ	回転糸切り	砂粒目立ちザラつく	7.5YR 8/4 浅黄橙	10YR 8/4 浅黄橙		0006
29	22	20	SB	5	P157	覆土	土師器	甕	底部	—	—	(5.8)	0.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り？	白色粒子含む・軟質	10YR 8/4 浅黄橙	10YR 8/4 浅黄橙		0029
30	22	20	SD	5		覆土	須恵器	大甕	口縁部	—	—	(6.3)	1.4	タタキメ			軟質で粉っぽい	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/1 褐灰		0018
31	22	20	SB	1	P50	覆土	須恵器	大甕	体部	—	—	(11.2)	0.9	タタキメ	当て具痕		白色粒子含む	2.5YR 7/2 明赤灰	10YR 8/1 灰白		0021
32	23	20	SB	1	P57	覆土	須恵器	大甕	体部	—	—	(4.8)	0.9	タタキメ	当て具痕		白色粒子含む	10YR 8/2 灰白	10YR 8/2 灰白		0024
33	23	20	SB	1	P57	覆土	須恵器	大甕	体部	—	—	(6.8)	0.85	タタキメ	当て具痕		軟質で粉っぽい	10YR 8/1 灰白	10YR 8/1 灰白		0025
34	23	21	SK	4		覆土	須恵器	大甕	体部	—	—	(8.3)	1.6	タタキメ	当て具痕		焼成不良・軟質	10YR 8/4 浅黄橙	10YR 8/2 灰白		0011
35	23	21	SD	4		覆土	須恵器	大甕	体部	—	—	(11.2)	1.0	タタキメ	当て具痕		白色粒子含む	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙		0017
36	23	21	SI	1	p3	底面	須恵器	大甕	体部	—	—	(6.1)	0.8	タタキメ	当て具痕		白色粒子含む	5B 6/1 青灰	5B 6/1 青灰		0007
37	23	21	SB	3	P83	覆土	須恵器	大甕	体部	—	—	(2.7)	0.6	タタキメ・灰釉	当て具痕		白色粒子含む	2.5GY 5/1 オリーブ灰	5Y 6/1 灰		0043
38	23	21	SD	4	4D9	覆土	須恵器	大甕?	体部	—	—	(5.8)	0.9	タタキメ	当て具痕		白色粒子含む	10YR 3/1 黒褐	10YR 3/1 黒褐		0040
39	23	21			3D21	Ⅱ層直上	須恵器	大甕	体部	—	—	(3.6)	1.3	タタキメ	タタキメ		白色粒子含む	10YR 5/1 褐灰	10YR 8/1 灰白		0078
40	23	21	SB	4	P124	覆土	須恵器	？	底部	—	—	(1.5)	0.6	ヘラナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ？		白色粒子含む	10YR 6/1 褐灰	10YR 6/1 褐灰		0027

第11表　陶磁器観察表

(1) 出土位置については、遺構を4分割している場合、北東をQNE、北西をQNW、南東をQSE、南西をQSWで示している。

(2) 法量については、( )が残存値、〔 〕が推定値で表示している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	種類	器種	残存位置	法量(cm)				釉薬・絵付	胎土色調	外面色調	内面色調	製作地	製作年代	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	器厚								
41	24	21	SK	2		覆土	陶器	皿	口縁部	〔19.4〕	—	(3.0)	0.3		2.5Y8/2灰白	2.5Y 6/2灰黄	5G 5/1緑灰	大堀相馬	19c？		0038
42	24	21	T	4		Ⅰ層	磁器	皿	1/2完形	〔11.8〕	7.4	1.9	0.4	染付(天然)	5GY8/1灰白	10BG 7/1 明青灰	10BG 7/1 明青灰	肥前	18c後半		0054
43	24	21	T	4		Ⅰ層	磁器	皿	1/8残存	〔14.8〕	〔8.4〕	3.0	0.6	染付(天然)	5GY8/1灰白	7.5GY 8/1 明緑灰	10GY 8/1 明緑灰	在地系	？		0060
44	24	21			2D24	Ⅱ層直上	磁器	皿	口縁部	〔12.4〕	—	(1.1)	0.3	染付	2.5GY8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	在地系？	18後半～19c		0075
45	24	21	T	9		Ⅰ層	磁器	皿?	口縁部	—	—	(1.0)	0.2	染付(コバルト)	2.5GY8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	東北産？			0067
46	24	21	T	9		Ⅰ層	磁器	皿?	口縁部	—	—	(1.3)	0.3	染付(コバルト)	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	瀬戸？(肥前も)	19c半ば	端反碗(釉盛り上がる)	0068
47	24	21			MB	Ⅰ層下位	磁器	皿	底部	—	—	(1.8)	0.5	染付	2.5GY8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	瀬戸？(肥前も)	19c半ば	№69と同じ器形	0073
48	24	21	P	66	SB01建物跡	覆土	陶器	碗	口縁部	〔6.8〕	—	(3.8)	0.3	灰釉	2.5GY7/1明オリーブ灰	10Y 6/1 灰	10Y 6/2 オリーブ灰	大堀相馬	18c	№35と似る	0042
49	24	21	T	4		Ⅰ層	陶器	碗	口縁部	—	—	(2.8)	0.35	灰釉	2.5GY8/1灰白	2.5GY 6/1オリーブ灰	2.5GY 6/1 オリーブ灰	大堀相馬	18c		0055
50	24	21	SX	1	中央東	覆土上位	陶器	碗	体部	—	—	(1.9)	0.4	灰釉	N7/0灰白	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	大堀相馬	18c		0035
51	24	21	T	1		Ⅰ層	陶器	碗？	体部	—	—	(1.1)	0.9		10YR8/3浅黄橙	7.5YR 6/2 灰褐	10YR 6/4 にぶい黄橙	肥前	17c？(18c も)	呉器手碗	0048
52	24	21	T	6		Ⅰ層	陶器	碗？	体部	—	—	(2.0)	0.5	赤色顔料＋透明釉？	10YR7/4にぶい黄橙	5YR 6/4 にぶい橙	2.5YR 4/8 赤褐	東北産	19～20c	型紙すり絵	0063
53	24	21	T	4		Ⅰ層	陶器	碗	体部下位	—	—	(1.5)	0.3	灰釉＋鉄釉(茶)	10YR8/1灰白	2.5YR 3/3 暗赤褐	7.5Y 6/1 灰	大堀相馬	19c	腰錆碗	0058

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	種類	器種	残存位置	法量(cm)				釉薬・絵付	胎土色調	外面色調	内面色調	製作地	製作年代	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	器厚								
54	24	21	P	206	3D3	覆土	陶器	碗	底部	—	〔5.0〕	(4.2)	0.6	灰釉	10YR7/3にぶい黄橙	5Y 6/2 灰オリーブ	5Y 6/2 灰オリーブ	大堀相馬	18c		0045
55	24	21	P	206	3D3	覆土	陶器	碗	底部	—	〔4.1〕	(2.5)	0.8	灰釉	10YR8/1灰白	10Y 7/2 灰白	10Y 6/2 オリーブ灰	大堀相馬	18c		0046
56	24	22	T	3		Ⅰ層	陶器	碗	底部	—	〔3.2〕	(1.5)	0.9	灰釉	7.5YR8/2灰白	10Y 7/2 灰白	10Y 7/2 灰白	大堀相馬	18c		0051
57	24	22	T	2		Ⅰ層	磁器	碗	口縁部	〔10.2〕	—	(3.1)	0.4	透明釉	10Y8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	肥前	18後半～19c		0049
58	24	22	T	9		Ⅰ層	磁器	碗	口縁部	—	—	(2.2)	0.3	染付	2.5GY8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	?	20c?		0069
59	24	22			MB中間	Ⅰ層下位	磁器	碗	口縁部	—	—	(4.8)	0.3	灰釉	2.5Y8/2灰白	7.5Y 7/1灰白	7.5Y 7/1 灰白	肥前	18c後半	蛇の目凹高台	0072
60	24	22	T	1		Ⅰ層	磁器	碗	底部	—	〔4.1〕	(1.4)	0.5	染付(コバルト)	10Y8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	東北産(平清水?)	19c		0047
61	25	22	T	6		Ⅰ層	磁器	碗	体部	—	—	(2.1)	0.3	染付(コバルト)	10Y8/1灰白	?	N 8/0 灰白	中国産or肥前	13cor18c	龍泉窯?	0064
62	25	22			MB東端	Ⅰ層下位	磁器	碗	体部	—	—	(2.5)	0.3	灰釉	7.5Y8/1灰白	2.5YR 3/2 暗赤褐	7.5Y 6/2 灰オリーブ	大堀相馬	18c	No.46と同じ器形	0071
63	25	22			2D24	Ⅱ層直上	磁器	碗	体部	—	—	(1.7)	0.4	染付	7.5Y8/2灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	?	19～20c?	型紙すり絵	0074
64	25	22	T	4		Ⅰ層	陶器	小碗	底部	—	2.5	(1.7)	0.4	灰釉(藁灰釉)	7.5Y5/1灰	10Y 7/1 灰白	10Y 7/1 灰白	肥前	18c後半	蛇の目釉剥ぎ	0059
65	25	22	T	9		Ⅰ層	磁器	小碗	1/3残存	〔7.0〕	3.0	4.1	0.3	緑色顔料＋透明釉?	7.5Y8/2灰白	10Y 7/2 灰白	10Y 8/1 灰白	大堀相馬	18c	腰錆碗	0070
66	25	22	SX	1	QSW	覆土	陶器	壺?	体部	—	—	(2.7)	0.5	釉なし	7.5Y8/2灰白	5P 1.7/1 紫黒	N 6/0 灰				0036
67	25	22	T	4		Ⅰ層	陶器	小形甕?	体部	〔9.8〕	—	(9.0)	0.6	発色不良(灰釉?)	7.5Y6/1灰	2.5Y 6/4 にぶい黄	7.5YR 3/2 黒褐	在地系	?		0061
68	25	22	SD	5	4D11	覆土	陶器	甕	口縁部	〔48.6〕	—	(3.8)	0.8		7.5Y5/2灰オリーブ	5RP 1.7/1紫黒	N 5/1 灰	不明(在地?)			0041
69	25	22	T	4		Ⅰ層	陶器	甕	体部	—	—	(2.8)	0.6	灰釉?	7.5Y7/3浅黄	10Y 2/1 黒	N 6/0 灰	大堀相馬	18c		0057
70	25	22	T	6		Ⅰ層	陶器	甕	体部	—	—	(2.9)	0.7	鉄釉＋鉄釉?	7.5Y6/3オリーブ黄	10YR 1.7/1黒	7.5YR 2/3 極暗褐	?	20c?		0062
71	25	22	T	9		Ⅰ層	陶器	?	体部	—	—	(1.7)	0.3	染付	7.5Y6/3オリーブ黄	N 8/0 灰白	7.5YR 6/3 にぶい褐	東北産	?		0066
72	25	22	SD	4	4E1	覆土	陶器	鉢	体部	—	—	(5.3)	0.75	海鼠釉＋鉄釉?	10Y7/1灰白	10BG 7/1 明青灰	5BG 7/1 明青灰	在地系	19c		0039
73	25	22	P	119	SB03建物跡	覆土	陶器	鉢?	体部	—	—	(3.9)	0.7	灰釉	10Y8/2灰白	2.5Y 6/1 黄灰	2.5Y 6/1 黄灰	大堀相馬	18c	呉器手碗	0044
74	25	22	T	4		Ⅰ層	磁器	鉢?	底部	—	6.5	(4.7)	0.4	染付(コバルト)	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	平清水	19c		0053
75	25	22			3D11	Ⅱ層直上	陶器	擂り鉢	体部	—	—	(4.2)	0.9		7.5Y6/1灰	5YR 4/1褐灰	10YR 5/3 にぶい黄褐	肥前or美濃?	?		0076
76	25	22	T	3		Ⅰ層	磁器	湯飲	口縁部	—	—	(3.7)	0.3	染付	7.5Y8/1灰白	N 8/0 灰白	N 8/0 灰白	在地系	19c		0050
77	25	22	T	7		Ⅰ層	磁器	香炉?	体部	—	—	(2.2)	0.6	青磁	7.5Y8/1灰白	10GY 6/1 緑灰	2.5Y 8/1 灰白	東北産	?		0065
78	25	22			3D11	Ⅱ層直上	磁器	鉢・徳利?	体部	—	—	(1.2)	0.7	染付	7.5Y7/2灰白	5Y 7/2 灰白	2.5Y 7/2 灰黄				0077

第12表　石器観察表

(1)法量の記載について、( )は欠損部分であり残存値を表示している。

(2)刃部の記載について、形状は片・両刃の形状を記載し、刃部角度を3ヵ所以上計測した平均値を表示している。

(3)そのほかの特記事項については、特徴欄に記載している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)					
79	25	22	SD	4	3E4	覆土	スクレイパー	—	頁岩	奥羽山脈	5.33	3.16	0.95	14.04	片	49.0	無	有	無		0079

第13表　銭貨観察表

(1)法量の記載について、直径・穿径・厚さ・重量を表示している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	法量				特徴	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)			直径(cm)	穿径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
80	25	22	T	4		Ⅰ層	熙寧元寶	2.4	0.6	1.1	3.83	真書	80と固着	0080
81	25	22	T	4		Ⅰ層	天禧通寶	2.4	0.6	1.0	3.09	真書	81と固着	0081

Ⅵ　まとめ

今回の調査で見つかった遺構と遺物は、住居跡1棟、竪穴遺構1棟、建物跡8棟、井戸跡2基、土坑8基、陥し穴状遺構9基、溝跡6条、ピット156基、総遺物点数165点・総重量2,628gで中コンテナ（281）約1箱である。遺物の内訳は須恵器、土師器、陶器、磁器（以上、遺物点数162点・重量2,607g）、石器（遺物点数1点・重量14.04g）、銭貨（遺物点数2点・重量6.92g）である。

ここでは、遺構と遺物のそれぞれのまとめと関係性を考察する。

1．縄文時代

今回の調査で縄文時代に所属すると考えられる遺構は陥し穴状遺構9基である。この9基はいずれも近年の水田造成などにより遺構上部についてはかなり削平されているものと考えられる。よって、検出した遺構の形成時期には深さがもっとあったと考えられるが推定は出来ない。詳細な所属時期は縄文土器などの二次的流入物がないこと、火山灰などの鍵層を持たないことから時期細分は出来ない。

陥し穴状遺構は縄文時代の生業の一つである狩猟に係わる遺構で、陥し穴を用いた罠猟の存在を示す証拠である。陥し穴研究は1960～70年代にかけて活発となり、神奈川県霧ヶ丘遺跡の調査による体系的な分析により資料的価値が位置付けられた（今村　1973）。

陥し穴の呼称については各地で様々に呼ばれており、溝状の平面形で北海道を中心に東北に主分布域を持つ「Tピット（溝状ピット）」や楕円・円形の平面形で中部・関東、東北などに主分布域をもつ「陥し穴土坑」があるが、本稿では「陥し穴状遺構」を用いている。

今回の調査で検出した陥し穴状遺構はいずれも平面形が溝形、断面形はU字形を呈している。長軸の最大はSKT05陥し穴状遺構で448㎝、最小はSKT08陥し穴状遺構で265㎝である。長幅比は短軸が崩落していることが考えられることから一概には言えないが、長軸：短軸比で7～12：1、小型となると4：1である。底部施設はいずれも存在しない。覆土の状況はいずれも黒褐色を主体とし、ほぼ同時期に埋没したと考えられる。

配置性については大きく3つの列配置が見られ、ほぼ等間隔に構築されている。3列配置の内訳は①SKT01～04陥し穴状遺構の4基で構成され、北西から南東（N-33°-W）にかけて列配置されるもの、②SKT05・08・09陥し穴状遺構の3基で構成され、北から南（N-7°-W）にかけて列配置されるもの、③SKT06・07陥し穴状遺構の2基で構成され、北北東から南南西（N-22°-E）にかけて列配置されるものである。これらはいずれも調査区外から配置されたものとみられる。しかし、調査区が全面に渡って（特に西側）ほぼ平坦に削平されているため等高線との関係は見出しにくい。3列のうち、①列と②及び③列のいずれかは同時存在していた可能性があるが、②列と③列は配置的にかなり近接しているため前後した時期に構築されていたと考えられる。

縄文時代と見られる遺物は剥片石器のスクレイパー類を1点出土しているのみであり、時期の特定は出来ない。

以上のことから、縄文時代の本調査区を含む南日詰遺跡東側は罠猟を含む狩猟活動を主体とした生業がなされていたとみられる。

2．平安時代

今回の調査で平安時代に所属すると考えられる遺構は住居跡 1 棟である。調査区南西側に位置するが、近年の水田造成などにより遺構上部については著しく削平されている。住居壁面は残存せず床面も削平の影響を受けているが、僅かに壁溝が残存することからプランを確認した。

遺構プランはおそらく隅丸方形を呈しており、一辺が約 460 cm前後をなしている。カマドの一部と見られるピット 3 基を検出しているが、3 基ともに掘り込まれた坑に廃棄焼土を埋めたように堆積している。実際のカマド燃焼面は遺構推定範囲の別箇所にあったと考えられるが残存していない。

出土遺物は遺構北東端に 120×(100)cmのピットから№13～15 土師器坏、№18 土師器高台付坏、№22・28 土師器甕、№36 須恵器大甕を出土している。

以上、出土遺物からみる年代観は 10 世紀前半と考えられ、遺構の形成時期もこの期間に符合するものと思われる。

また今回の調査においては、この他の遺構及び遺構外出土の土器類が見つかっていることから、集落の存在が考えられる。しかし、近年の造成工事による影響からその多くは削平されたと見られる。

遺構の状況からみて、遺跡が本調査区西側に広がっている可能性が高い。

3．近世～近現代

今回の調査で近世～近現代に所属すると考えられる遺構は竪穴遺構 1 棟、建物跡 8 棟、井戸跡 2 基、土坑 8 基、溝跡 6 条、ピット 156 基である。

このうち、竪穴遺構と建物跡については建物配置及び重複関係から以下の組み合わせが試案される。

① SB01 建物跡（主屋）　＋　SB02 建物跡（付属屋）　＋　SX01 竪穴遺構（付属屋）
② SB03 建物跡（主屋）
③ SB04 建物跡（主屋）　＋　SB07 建物跡（付属屋）　＋　SB08 建物跡（付属屋）
④ SB06 建物跡（主屋）　＋　SB05 建物跡（付属屋）

パターン①及びパターン③または④は建物配置・建物の間仕切などに見られる構造から同時存在していた可能性がある。パターン②は SB03 建物跡のみであるが、建物の構造上他の建物跡と比較して時期的にやや下る可能性がある。

また上記のパターン①～④には井戸跡 2 基、土坑 8 基、溝跡 6 条などの遺構が付属する可能性があるが出土遺物などからみても確証はない。

建物跡の存続時期は関連するとみられる出土遺物がないことから不明であるが、近世～近現代の大まかな範疇には収まるであろう。

これらの遺構の形成時期に伴うであろうと考えられる陶器・磁器が遺構外遺物だが出土している。

陶器は大堀相馬産・肥前産・美濃産・在地産の皿類・碗類・小碗類・壺類・甕類・鉢類・擂鉢類（17～20 世紀で主体となる時期は 18 世紀）、磁器は大堀相馬産・肥前産・平清水産・在地産の皿類・碗類・小碗類・鉢類・湯飲類・香炉類・徳利類（18～20 世紀で主体となる時期は 18 世紀後半）が出土している。

4．まとめ

今回の南日詰遺跡の調査では、縄文時代、平安時代、近世～近現代の遺構・遺物が検出された。

縄文時代には陥し穴状遺構を列配置し罠猟を行った狩猟場、平安時代には住居を中心とした集落、近世～近現代には屋敷を中心とする集落と大きく3つの時代に生活が営まれていたことが分かった。

南日詰遺跡の南端には伝善知鳥館跡が本遺跡と同じ二枚橋段丘上に位置している。伝善知鳥館跡は1963年に紫波町教育委員会によって調査が行われており、住居跡、柵列跡、堀跡などの遺構が検出されている。

伝善知鳥館跡は従来から善知鳥館（うとうだて）として知られ、安倍貞任の臣善知鳥文治安方の居館跡と伝えられてきた。しかし、善知鳥文治安方は架空の人物であったと説かれている。調査の結果、11世紀と考えられる遺物が出土しており、伝善知鳥館跡は安倍氏の柵か、もしくは安倍氏につながりのある有力者の居館的柵であったろうと推定している（板橋ほか　1964）。

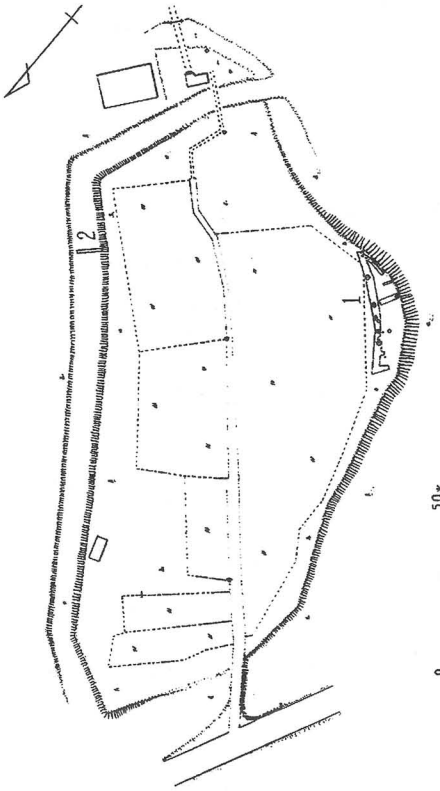
今回の調査ではこの時期に関連する遺構・遺物は検出されていないが、調査区の西側には旧地形が残存していると見られるため、遺跡範囲は広いと見られる。

参考文献

1. 板橋源ほか　1964　『岩手県紫波町善知鳥館調査報告書』　紫波町教育委員会
2. 落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会　1999　『落川・一の宮遺跡　Ⅰ　近世編・中世編』
3. 霧ヶ丘遺跡調査団　1973　『霧ヶ丘』　武蔵野美術大学考古学研究会
4. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1989　『南日詰遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第136集
5. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1991　『比爪館跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第151集
6. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995　『西田東遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第221集
7. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1997　『泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第247集
8. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2002　『細谷地遺跡発掘調査報告書　－第4・5次調査』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集
9. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004　『下構遺跡第2次発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第446集
10. 紫波町　1972　『紫波町史』　第1巻
11. 紫波町　1988　『紫波町史』　第3巻
12. 紫波町教育委員会　1992　『紫波町の遺跡　町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』　岩手県紫波町文化財調査報告書第26集
13. 平凡社　2000　『増補　やきもの事典』

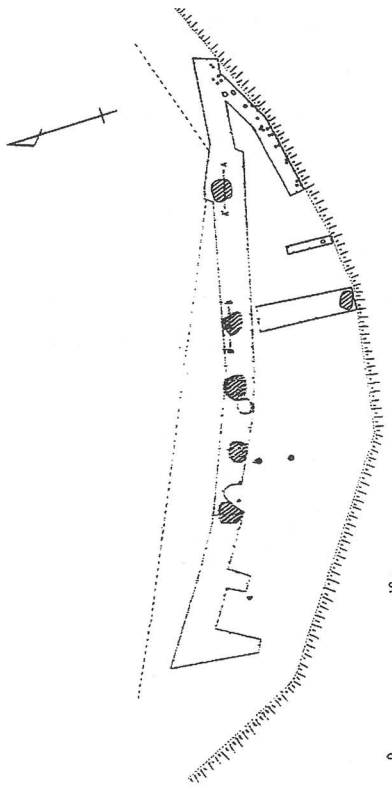
弘化３年(1846年)打直検地名寄帳に載る17枚小絵図の内の１枚。紫波町日詰の幾久屋家の所蔵品であり、今回は参考文献11・p612-613から転載した。本調査区に当たると考えられる範囲は図示した通り。

第26－１図　志和郡南日詰村小絵図(抜粋)



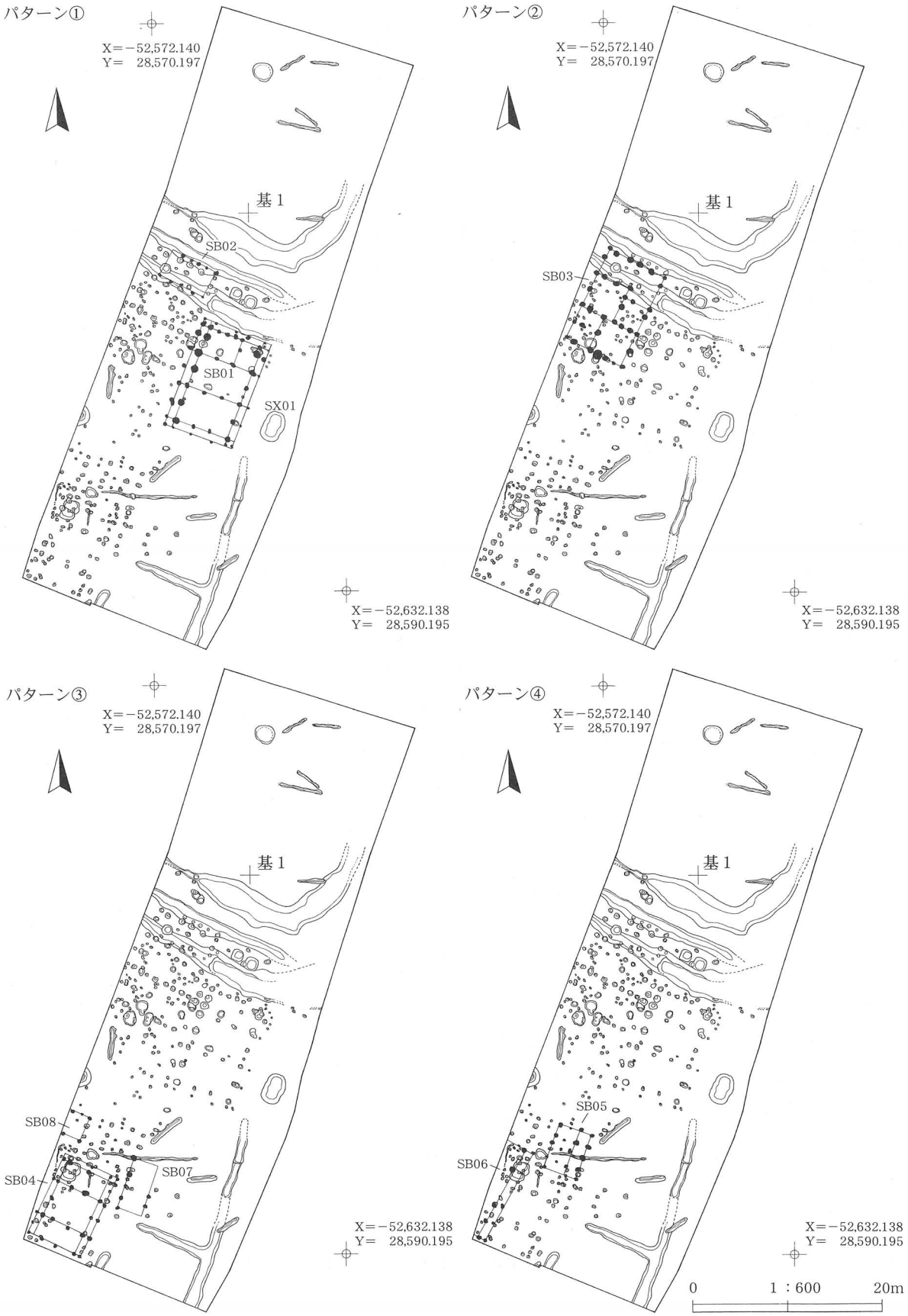
第26－２図　善知鳥館地域実測図

第26－２図及び第26－３図は参考文献１・p21-22から転載した。１は外棚に一部を探索したトレンチ設定の地域を、２は北辺陵の調査トレンチの位置を示すと記載されている。



第26－３図　外棚柱脚土壌列実測図

第26図　南日詰村小絵図・善知鳥館跡配置図


パターン①
X=−52,572.140
Y= 28,570.197
基1
SB02
SB01
SX01
X=−52,632.138
Y= 28,590.195
パターン②
X=−52,572.140
Y= 28,570.197
基1
SB03
X=−52,632.138
Y= 28,590.195
パターン③
X=−52,572.140
Y= 28,570.197
基1
SB08
SB04
SB07
X=−52,632.138
Y= 28,590.195
パターン④
X=−52,572.140
Y= 28,570.197
基1
SB05
SB06
X=−52,632.138
Y= 28,590.195
0
1：600
20m

第27図　建物跡想定図

Ⅶ　自然科学分析

1．樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

南日詰遺跡は岩手県紫波郡紫波町に所在し、北上川西岸の段丘縁辺に位置している。発掘調査の結果、縄文時代の陥し穴状遺構や平安時代の住居跡、近世の建物跡、土坑、井戸跡等の遺構が確認されている。

本報告では、近世の建物跡（SB03）柱穴内より出土した柱材を対象に樹種同定を行い、木材利用に関する調査を行う。

1. 試料

試料は、近世の建物跡（以下、SB03）の柱穴内から出土した柱材５点（試料番号 1-5）である。これらの柱材は、いずれも径約 20-30cm を呈し、遺存状況も良好であった。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表１に示す。

2. 分析方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

結果を表１に示す。柱材は、すべて落葉広葉樹のクリに同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・　クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

表1. 南日詰遺跡の樹種同定結果

番号	種別	番号	層位	種類	遺構	樹種
1	P	84	覆土	柱	SB03掘立柱建物跡	クリ
2	P	114	覆土	柱	SB03掘立柱建物跡	クリ
3	P	182	覆土	柱	SB03掘立柱建物跡	クリ
4	P	216	覆土	柱	SB03掘立柱建物跡	クリ
5	P	299	覆土	柱	SB03掘立柱建物跡	クリ

4. 考察

柱材は、全て広葉樹のクリであった。クリは、重硬で強度が高く、耐水性・耐朽性にも優れた材質を有する種類である（平井, 1980）。岩手県内では、南部民家の建築部材についての調査事例があり、柱材にスギやクリが多く認められることから、周辺植生の中から強度等を考慮して木材を選択したことが指摘されている（布谷・中尾, 1986）。SB03 の柱材の樹種構成は、この調査事例と一致しており、掘立柱建物跡では柱材を柱穴に埋める方式であることを考慮すると、耐水性や耐朽性が高く、また建物を支えるに十分な強度を有する木材としてクリを選択・利用したことが考えられる。

平井　信二, 1980, 木の事典　第４巻. かなえ書房.

布谷　知夫・中尾　七重, 1986, 民家の構造材の樹種. 大阪市立自然史博物館研究報告, 40, 21-30.

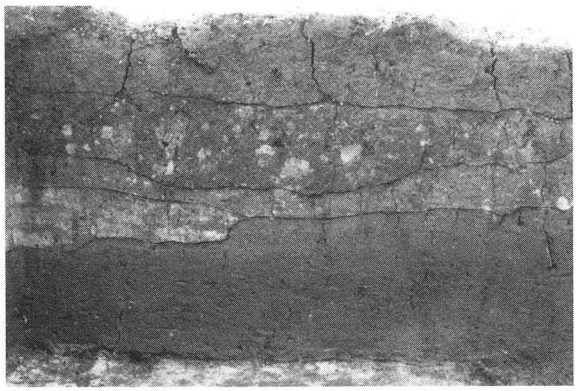
写　真　図　版

調査区全景航空写真(遠景俯瞰—南から)

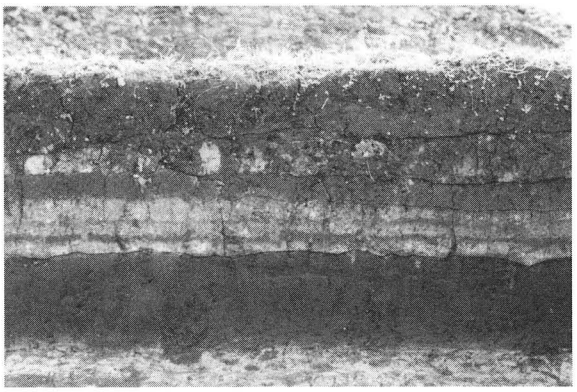
調査区全景航空写真(近景直上)

写真図版 1　調査区全景航空写真

1970年当時の南日詰遺跡航空写真（上が北）



調査区南壁　基本層序断面①

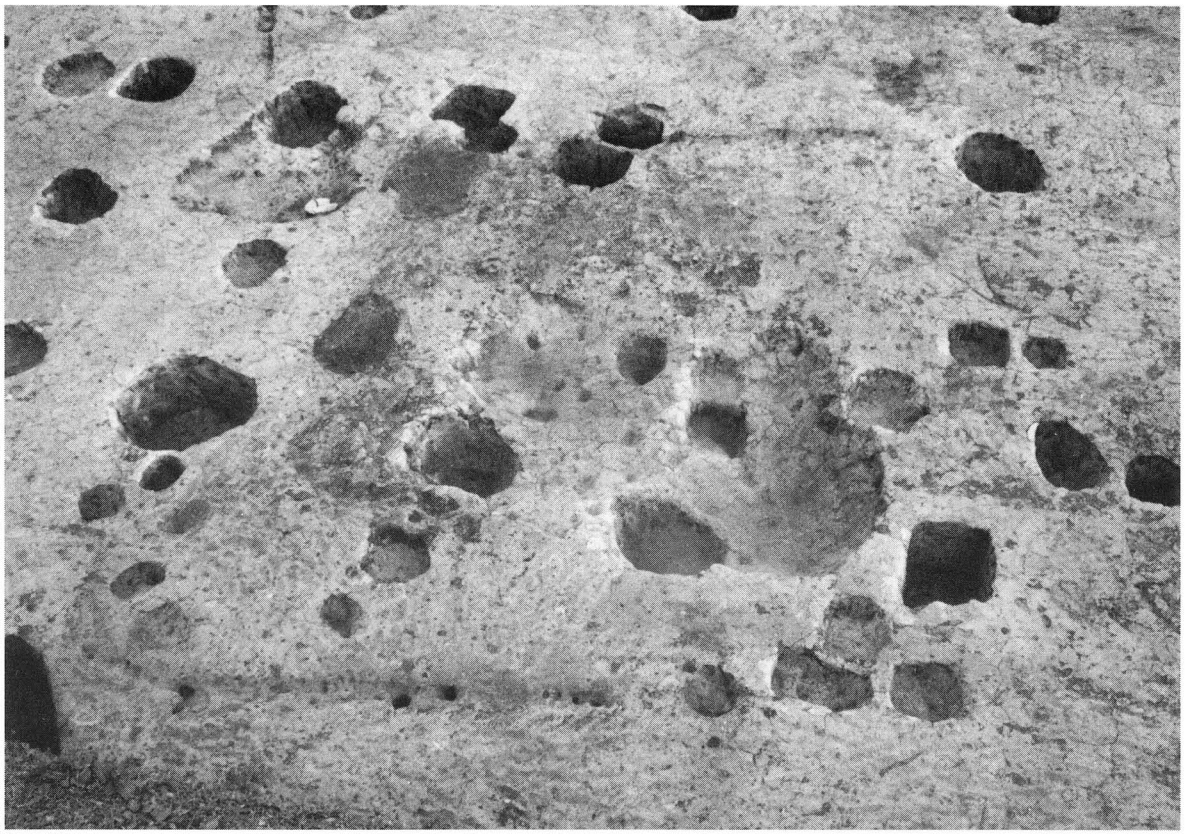


調査区南壁　基本層序断面②

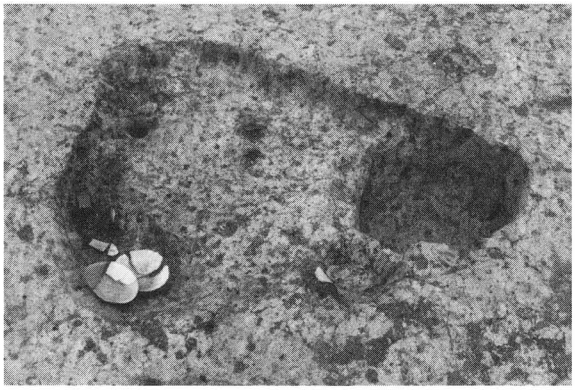
現況

試掘風景

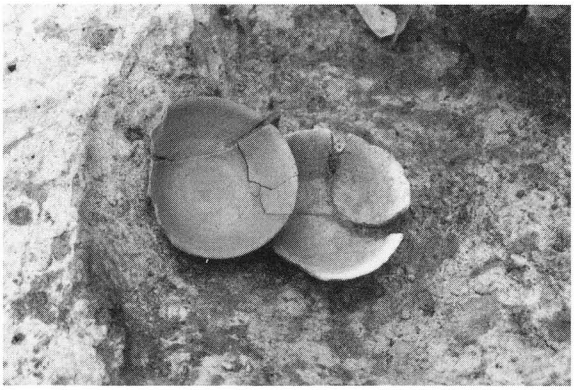
写真図版２　航空写真（1970年当時の南日詰地区）・現況・基本層序



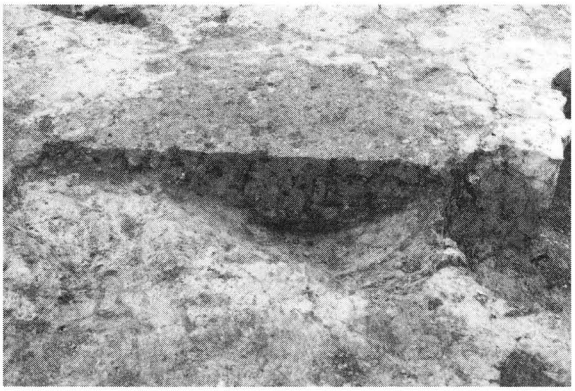
平面



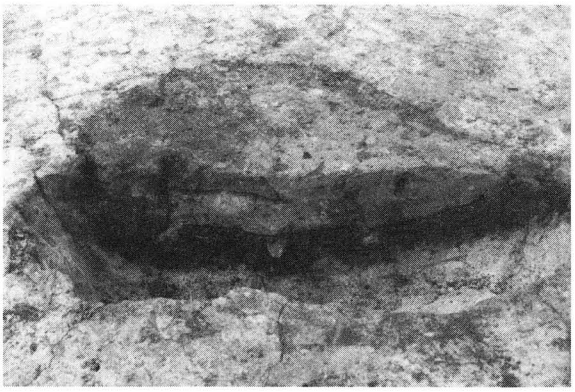
p3 平面



p3内 土器出土状況

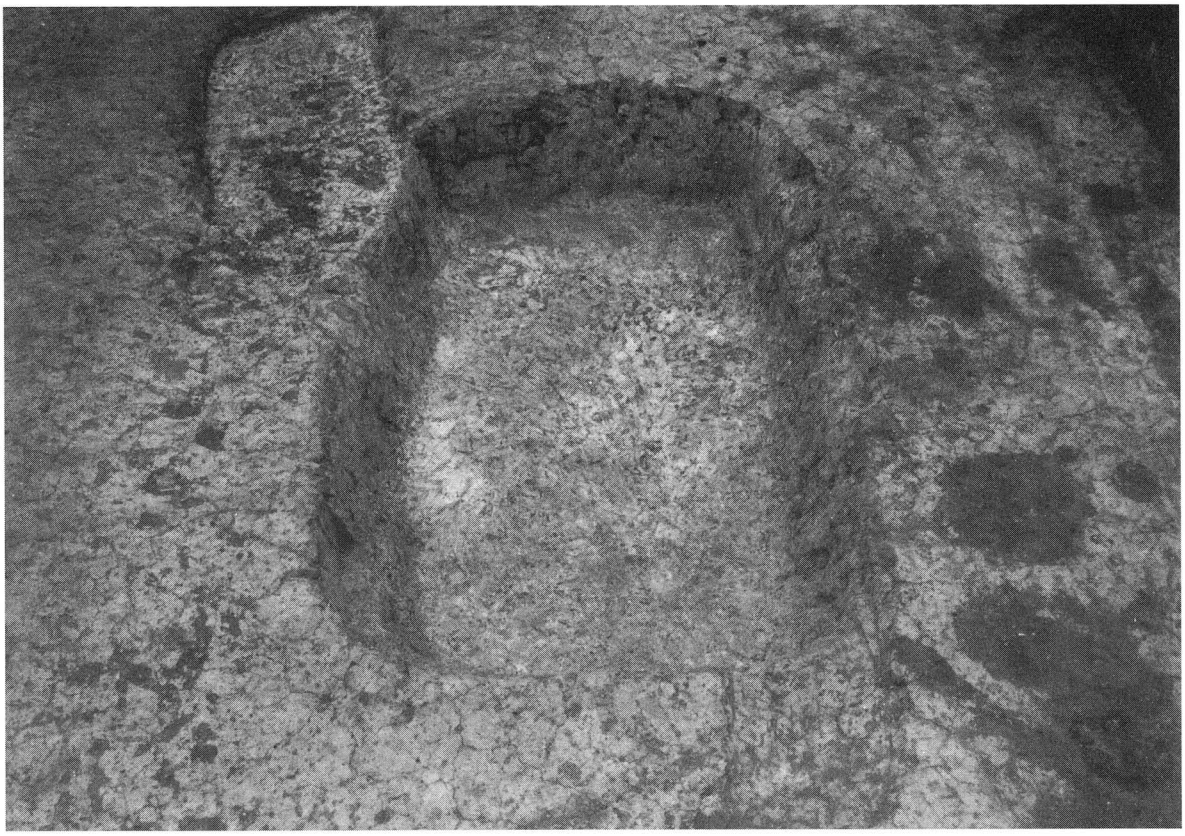


p4 断面

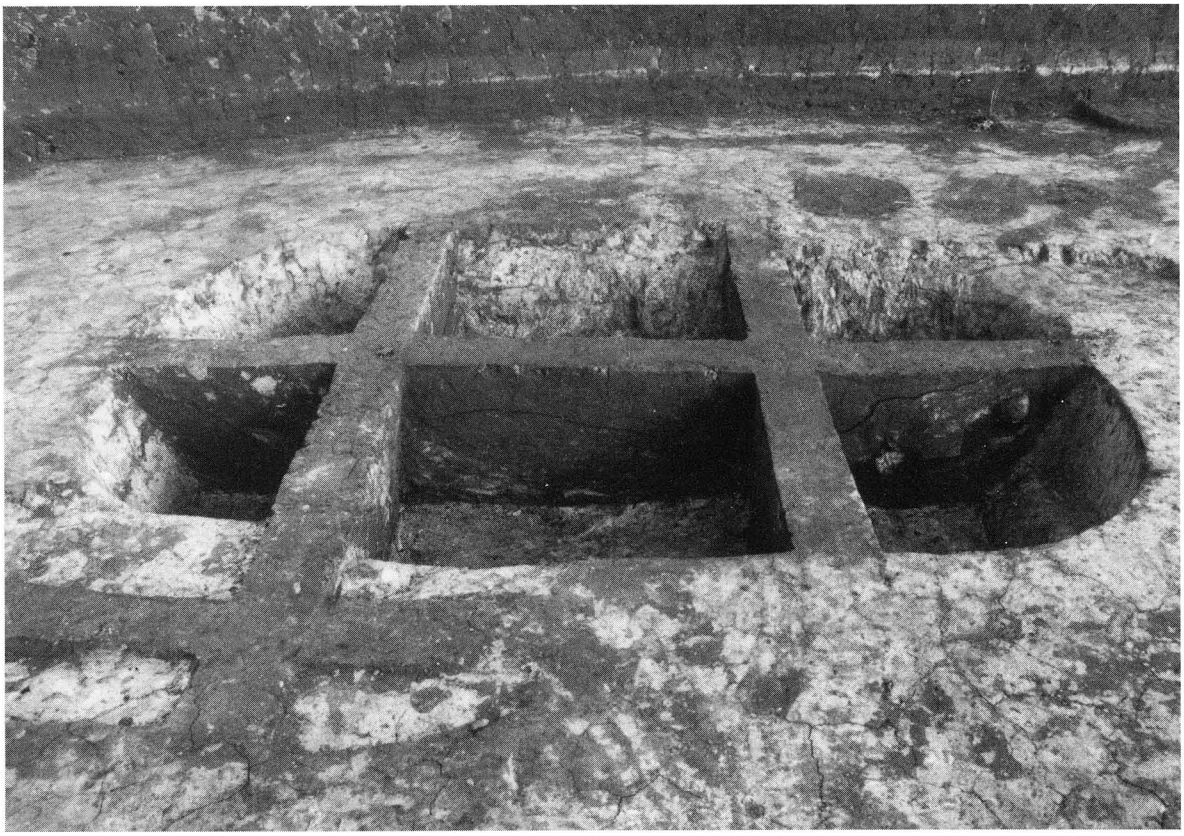


p2 断面

写真図版3　S I 01 住居跡

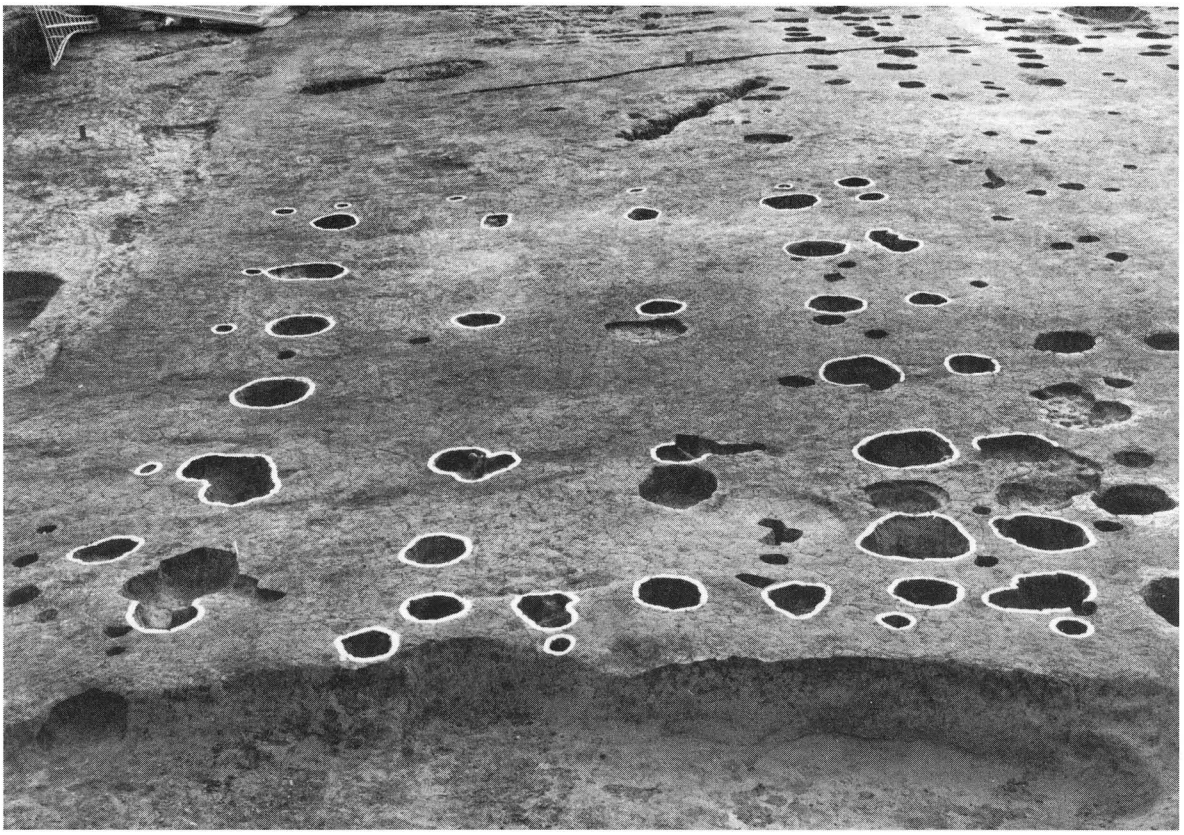


平面

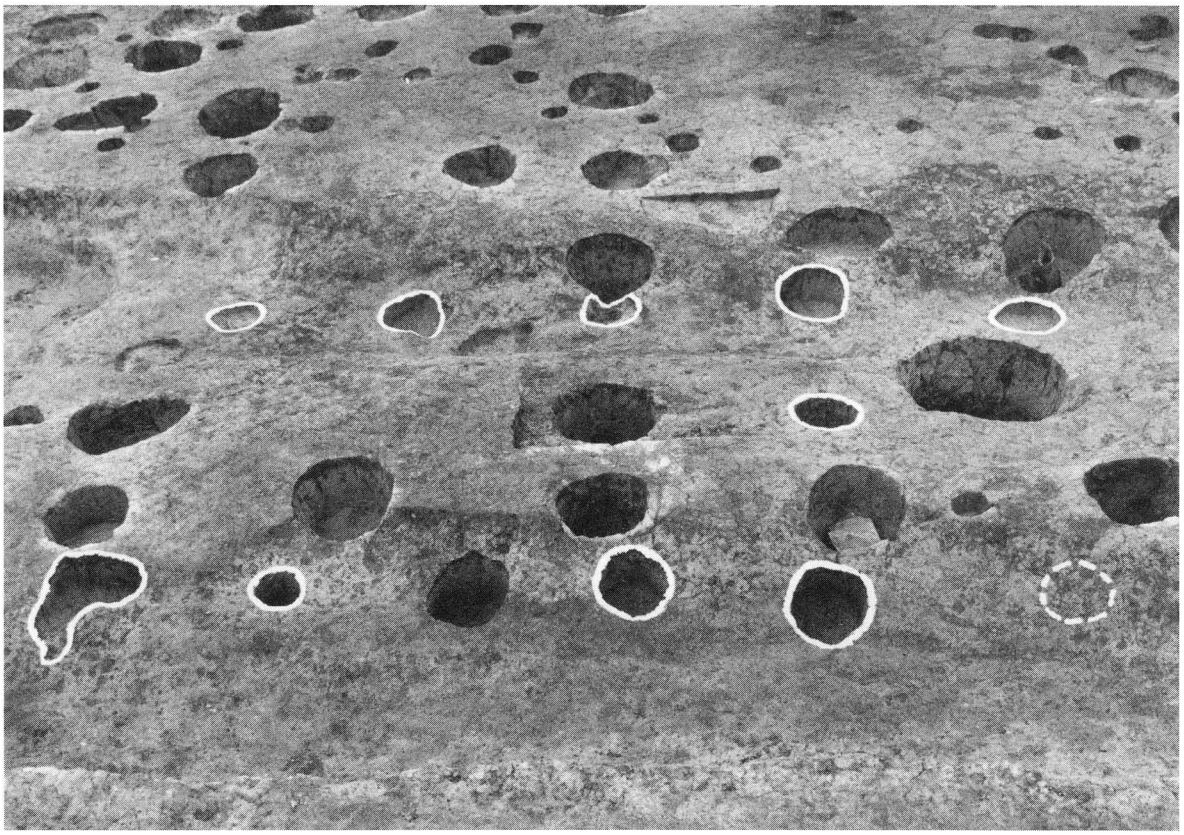


断面

写真図版４　ＳＸ01 竪穴遺構

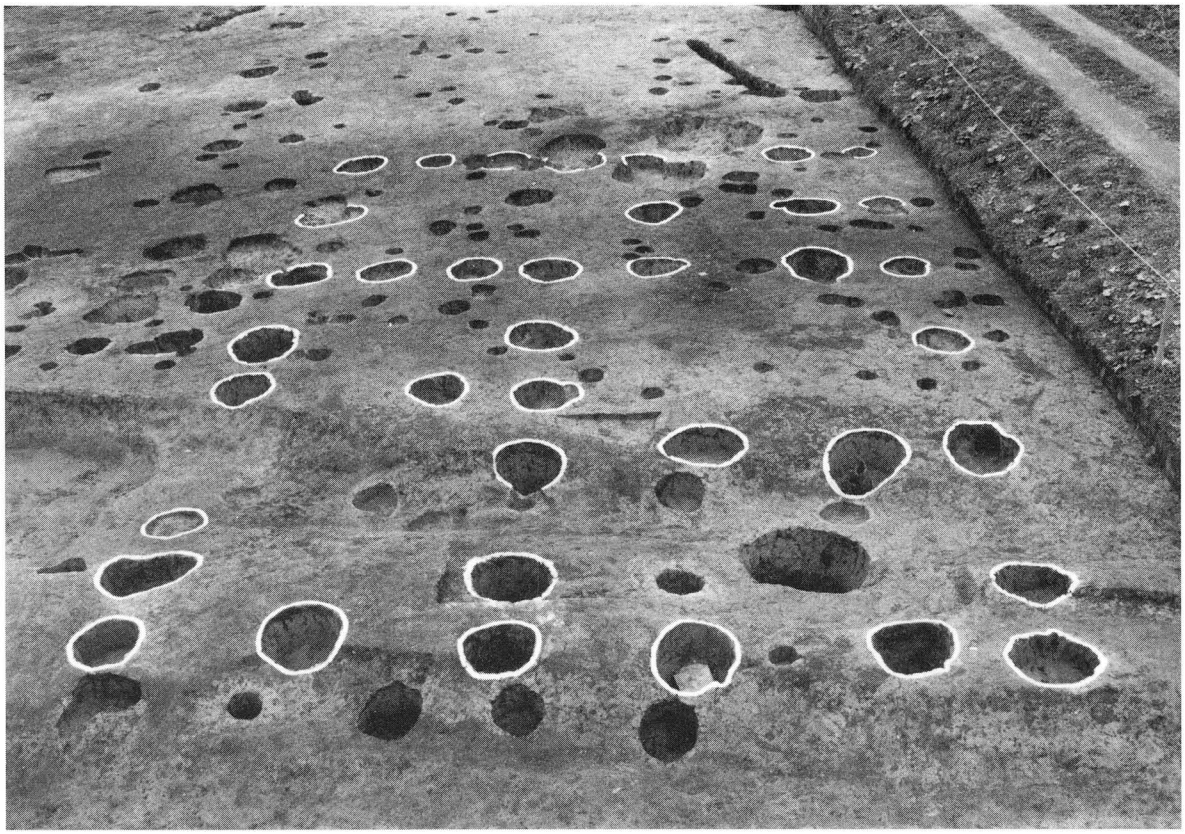


ＳＢ01 平面



ＳＢ02 平面

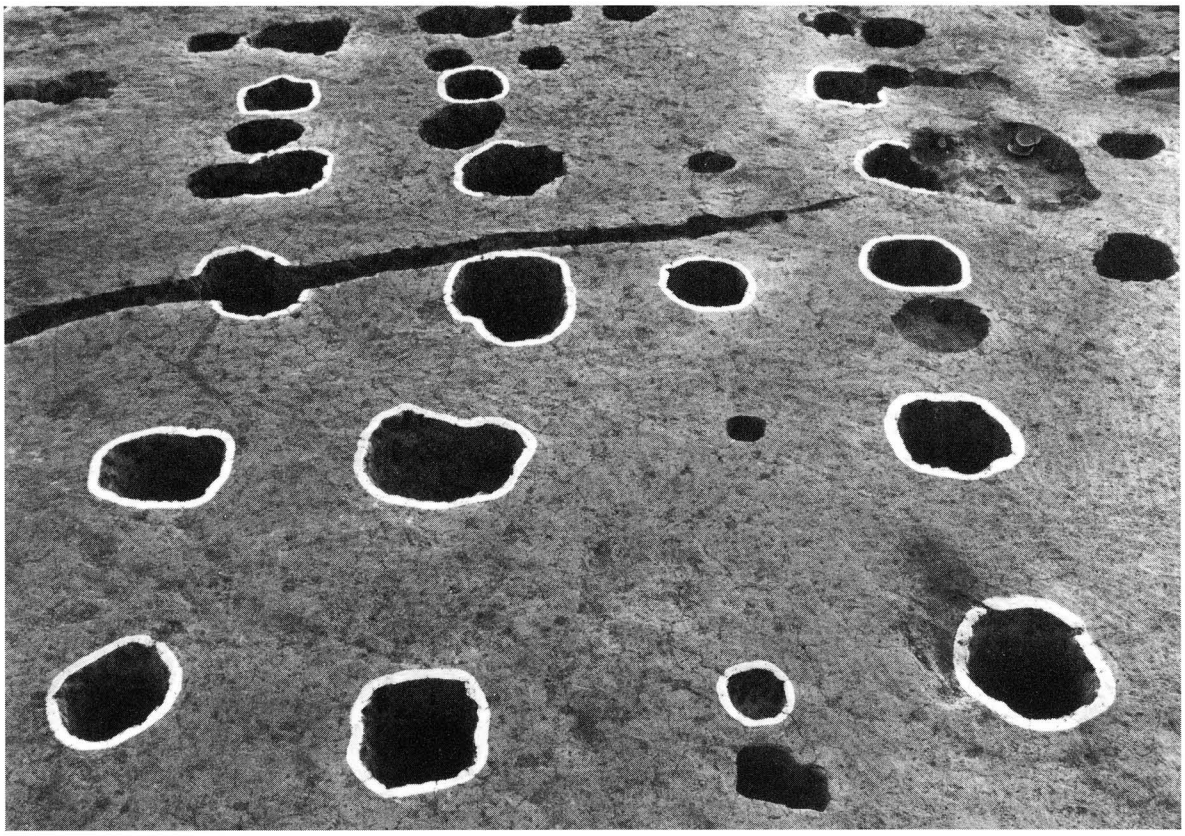
写真図版５　ＳＢ01・02 建物跡



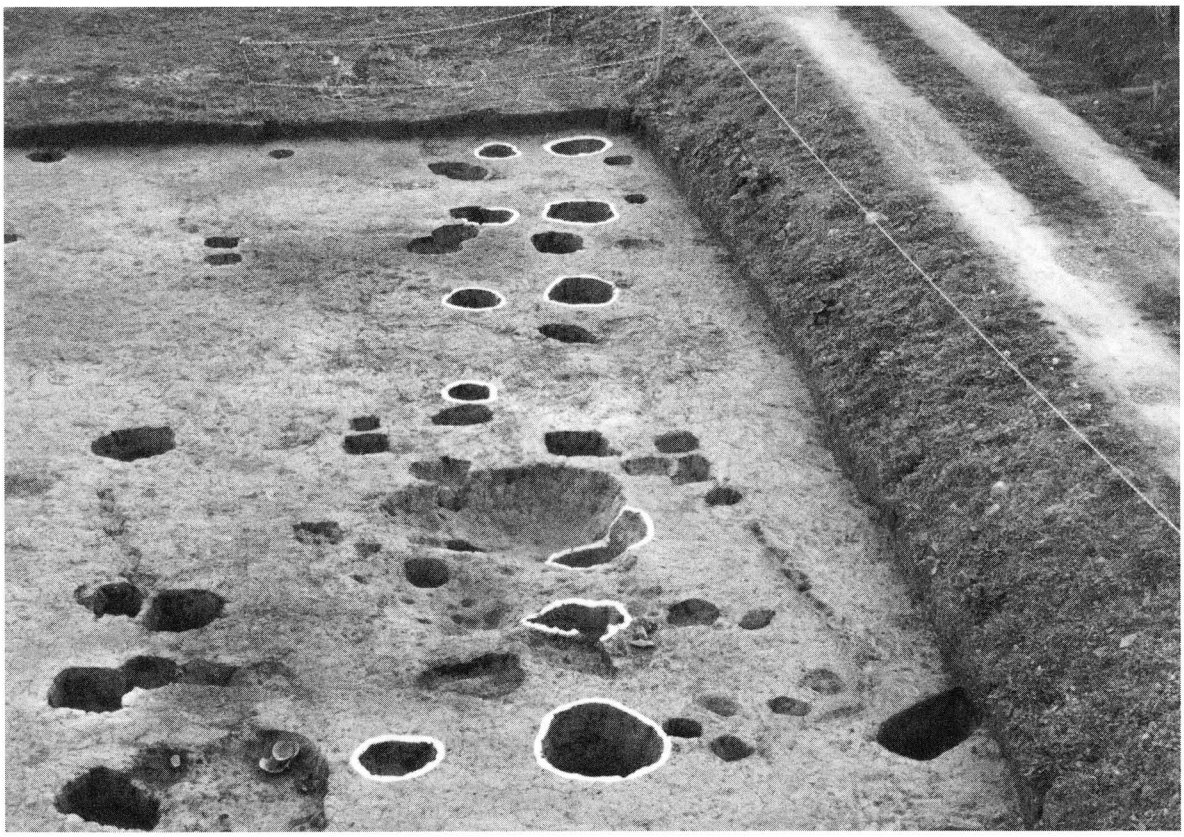
ＳＢ03 平面

ＳＢ04 平面

写真図版６　ＳＢ03・04 建物跡

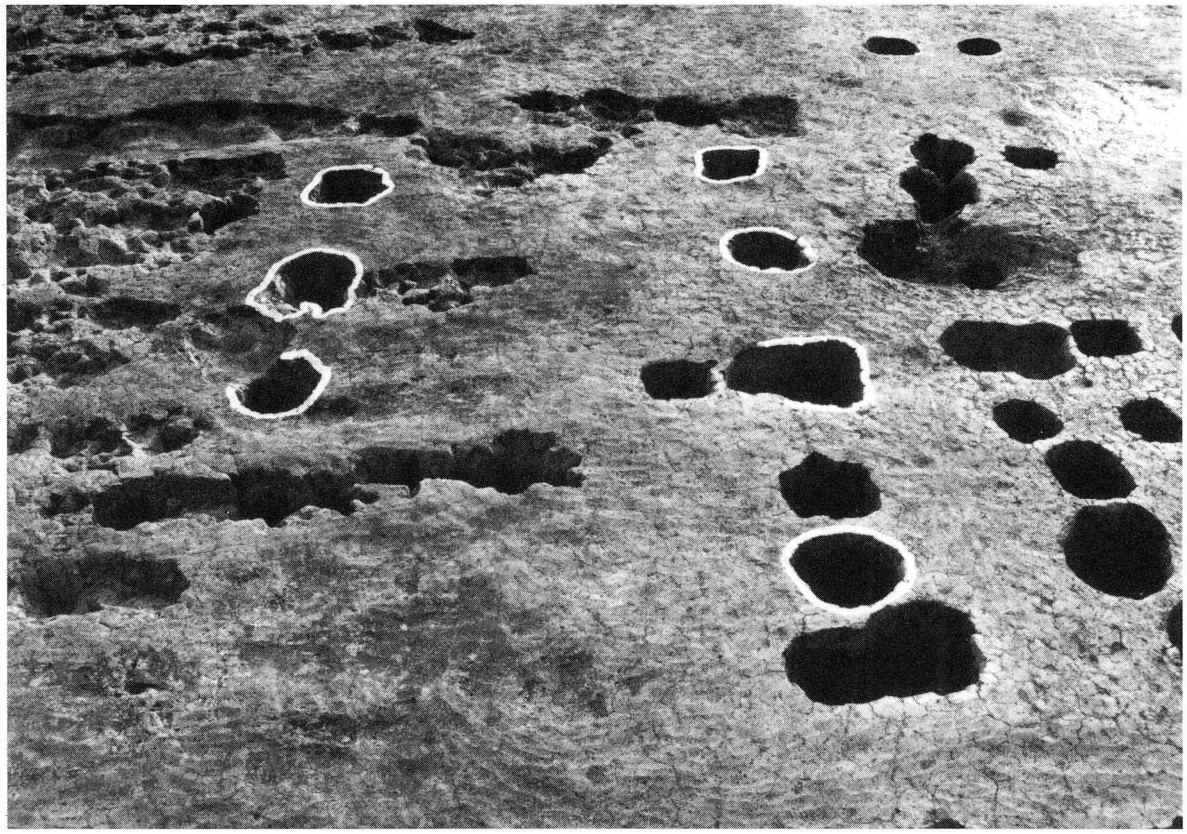


ＳＢ05 平面

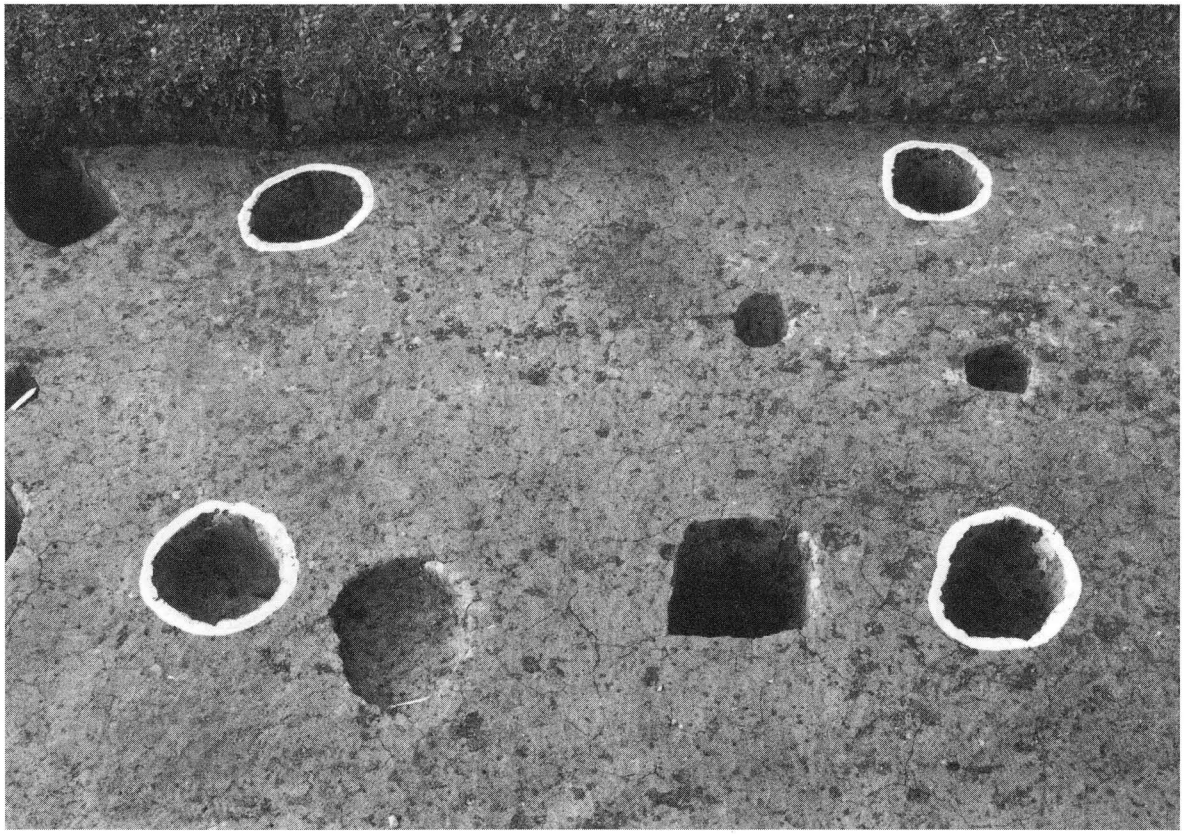


ＳＢ06 平面

写真図版７　ＳＢ05・06 建物跡

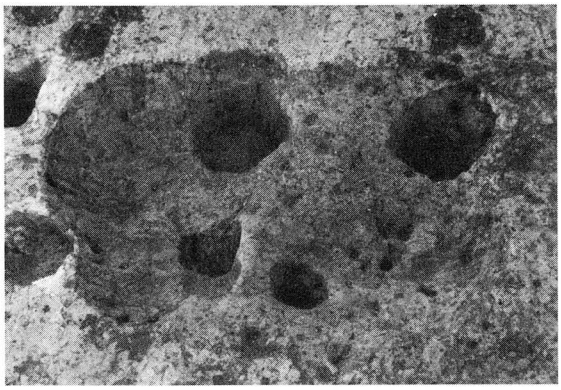


ＳＢ07 平面

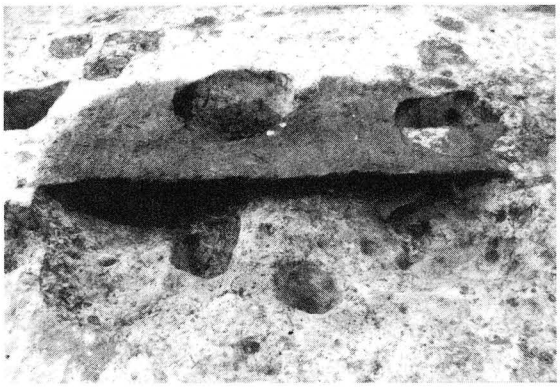


ＳＢ08 平面

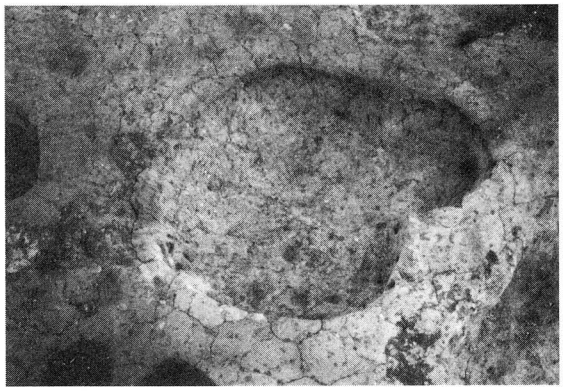
写真図版８　ＳＢ07・08 建物跡



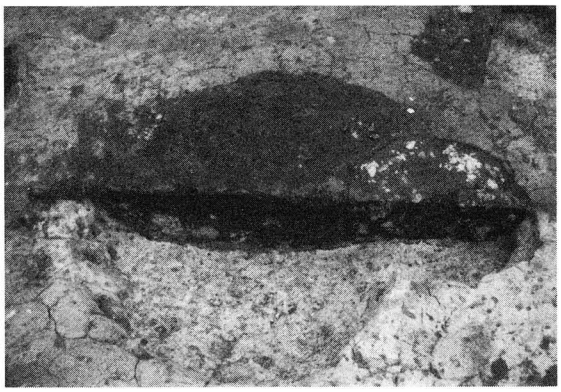
ＳＫ01・02 平面



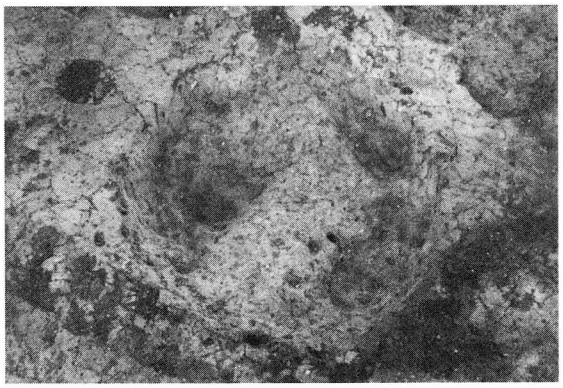
ＳＫ01・02 断面



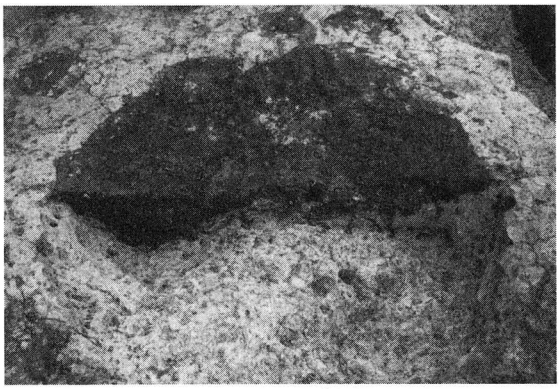
ＳＫ03 平面



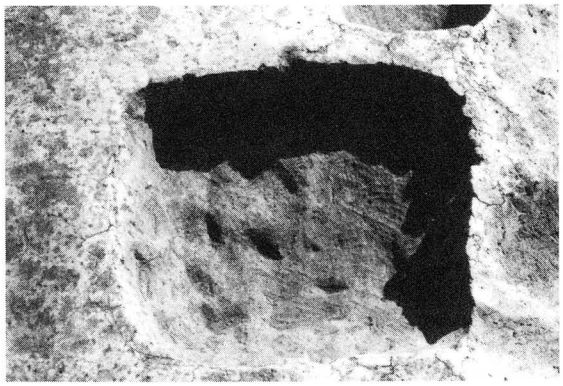
ＳＫ03 断面



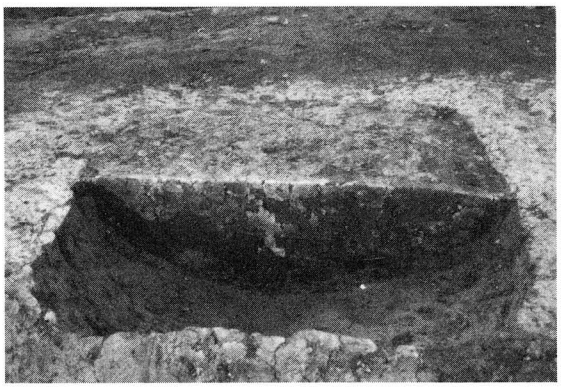
ＳＫ04・05 平面



ＳＫ04・05 断面



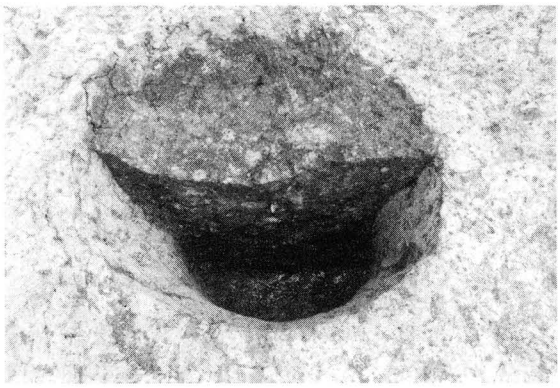
ＳＫ06 平面



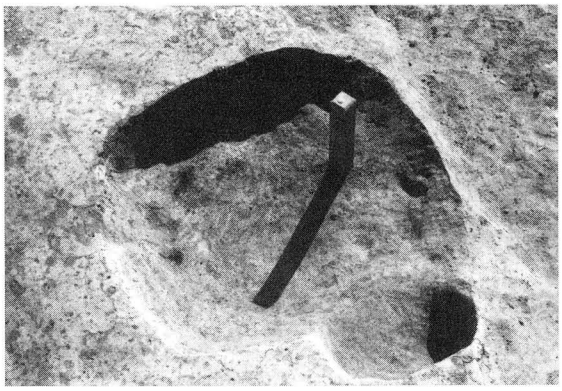
ＳＫ06 断面

写真図版９　ＳＫ01～06 土坑

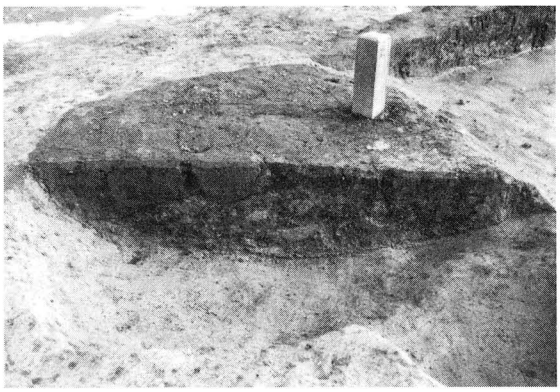
ＳＫ07 平面



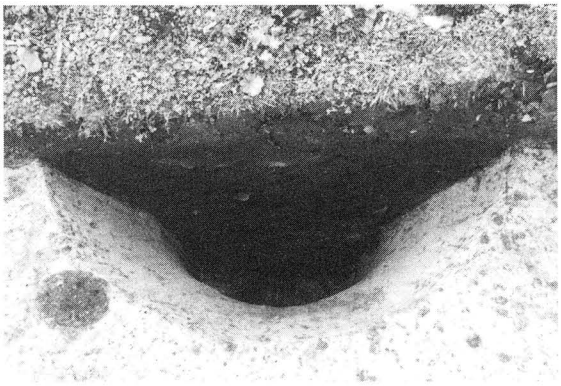
ＳＫ07 断面



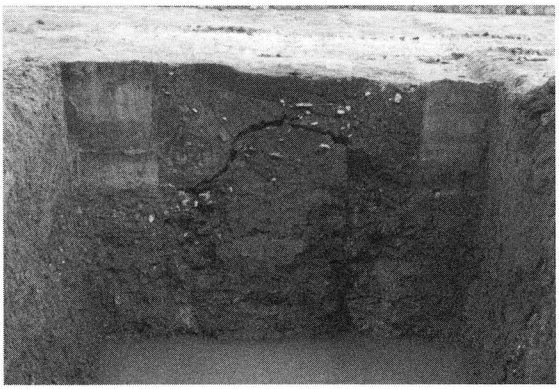
ＳＫ08 平面



ＳＫ08 断面

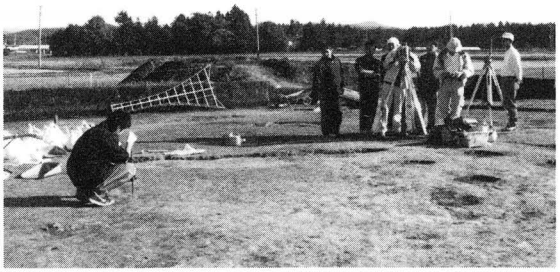


ＳＥ01 平・断面



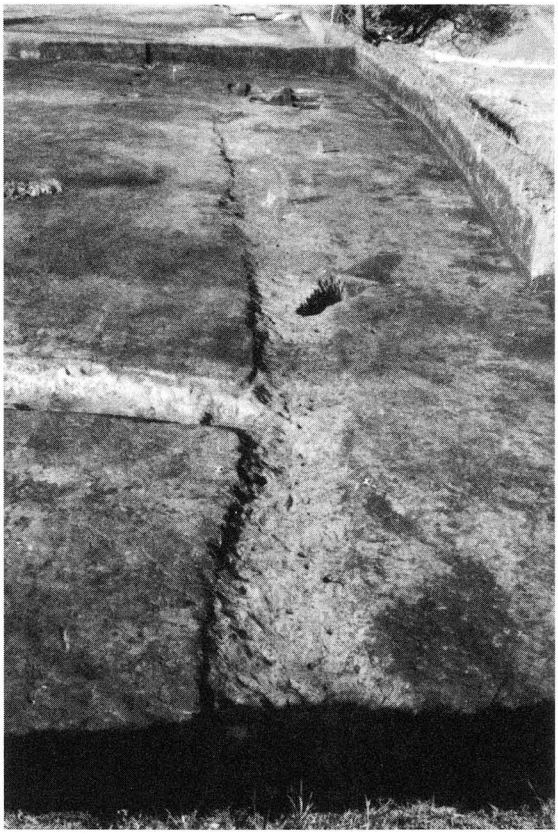
ＳＥ02 断面

花北青雲高　体験発掘風景(１)

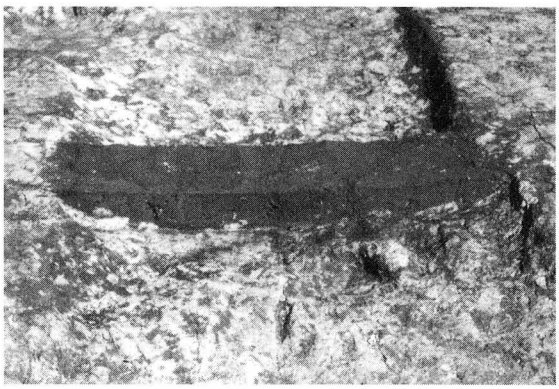


花北青雲高　体験発掘風景(２)

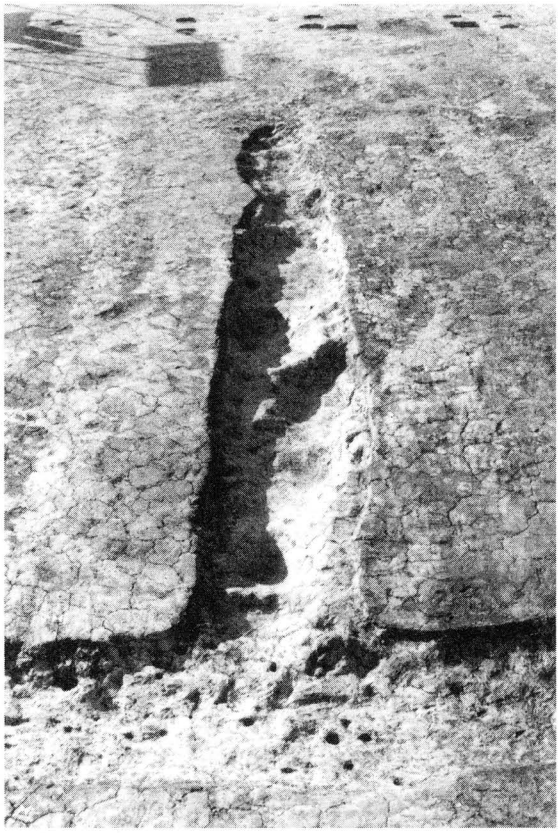
写真図版10　ＳＫ07・08 土坑、ＳＥ01・02 井戸跡



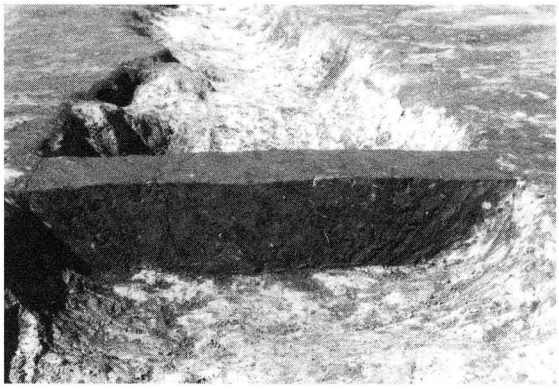
ＳＤ01 平面



ＳＤ01 断面



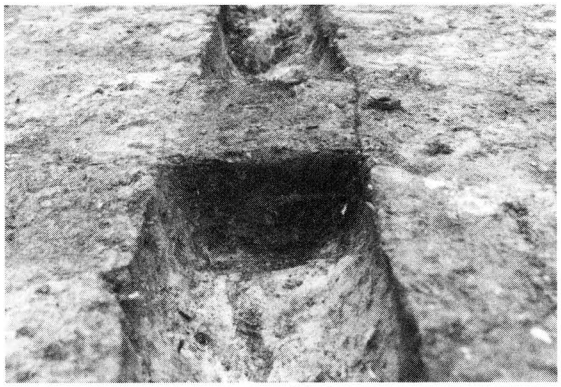
ＳＤ02 平面



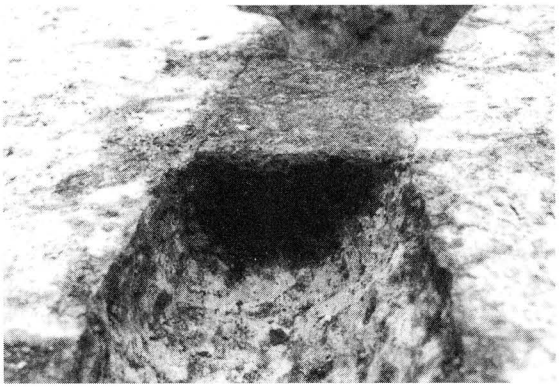
ＳＤ02 断面

写真図版11　ＳＤ01・02 溝跡

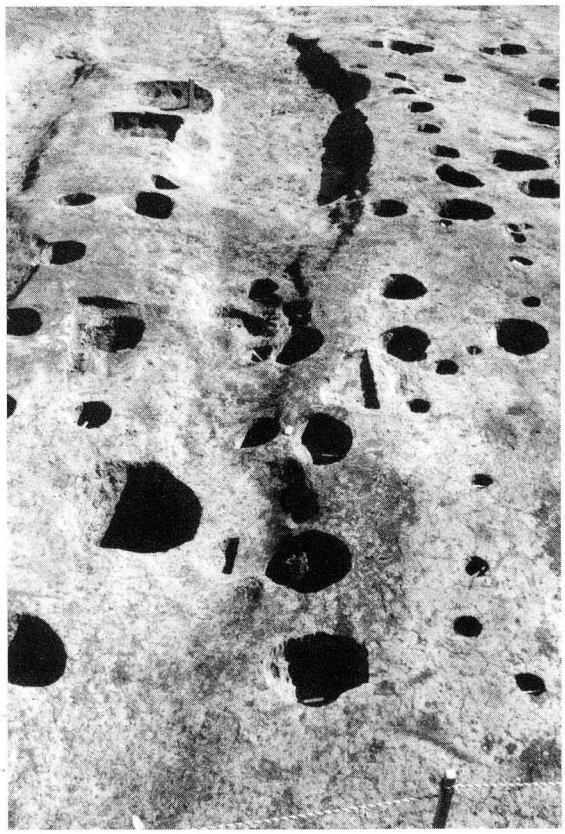
ＳＤ03 平面



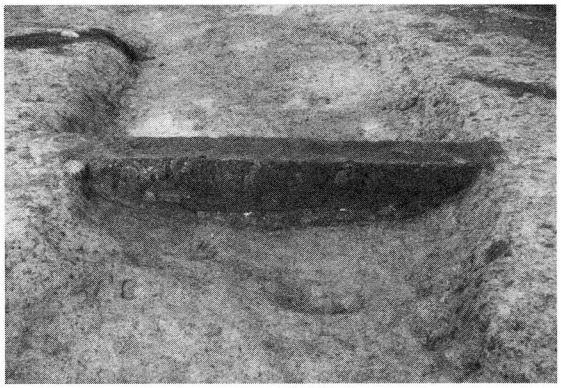
ＳＤ03 断面A



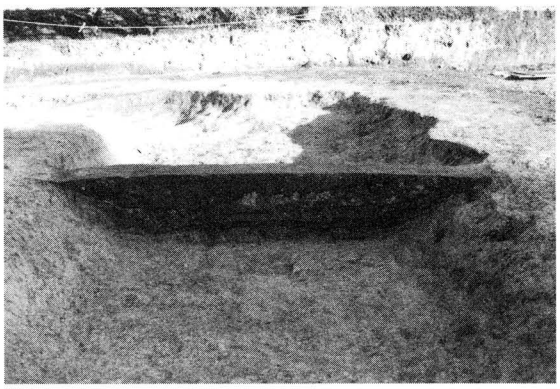
ＳＤ03 断面B



ＳＤ04 平面

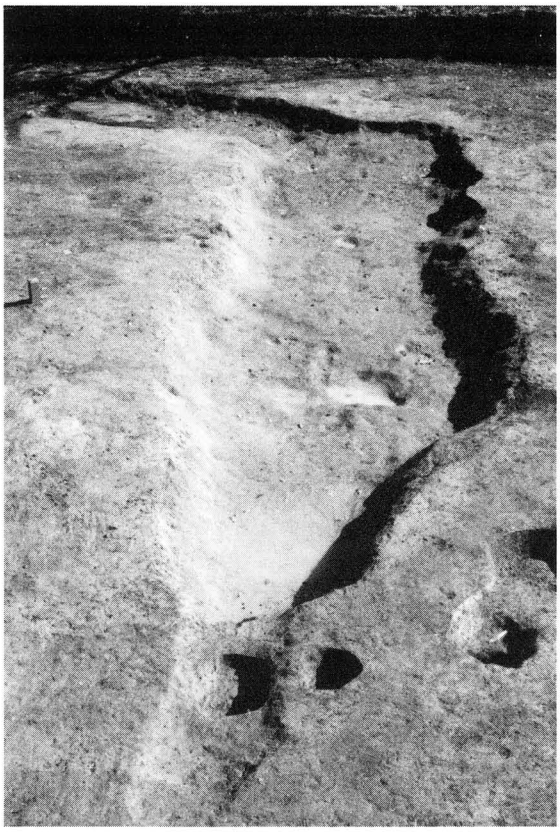


ＳＤ04 断面A

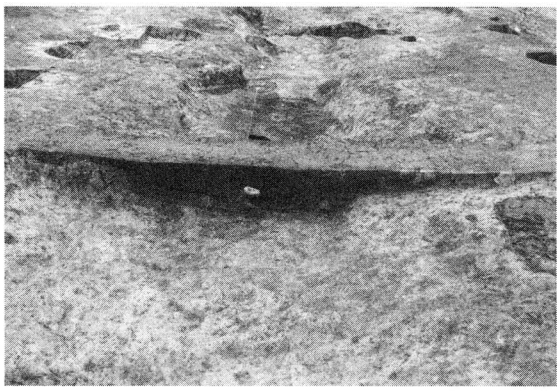


ＳＤ04 断面B

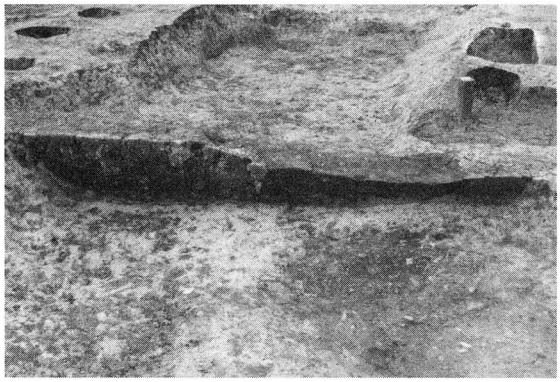
写真図版12　ＳＤ03・04 溝跡



ＳＤ05 平面



ＳＤ05 断面A



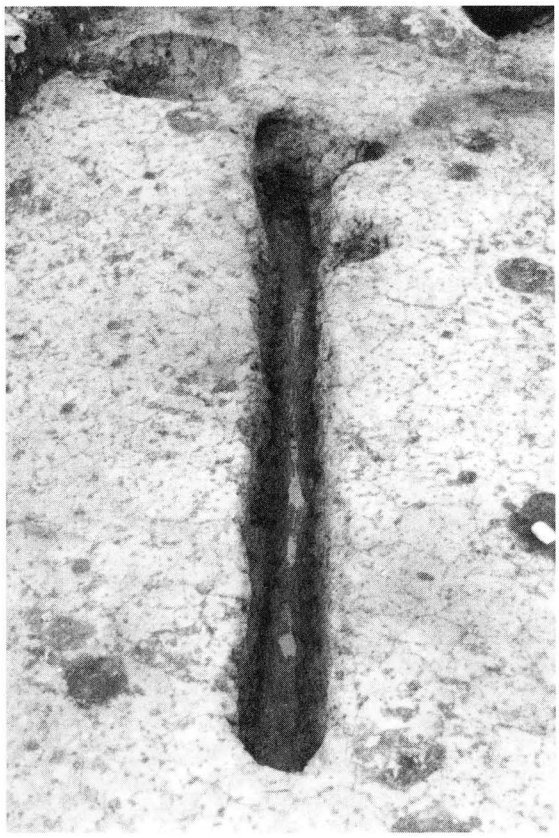
ＳＤ05 断面B

ＳＤ06 平面

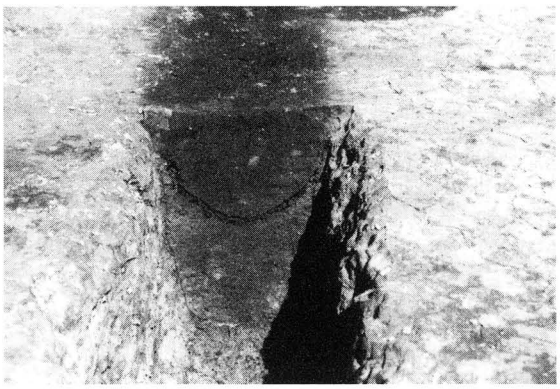
ＳＤ06 断面

調査区南側検出風景

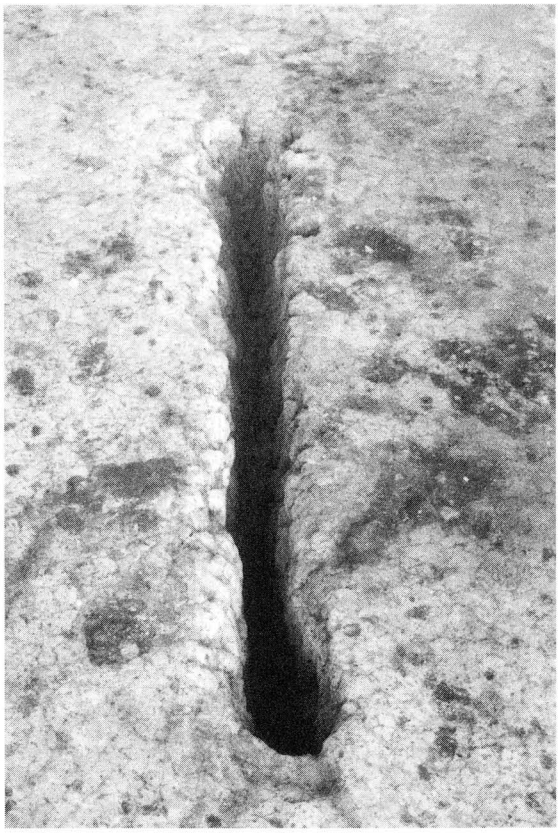
写真図版13　ＳＤ05・06 溝跡



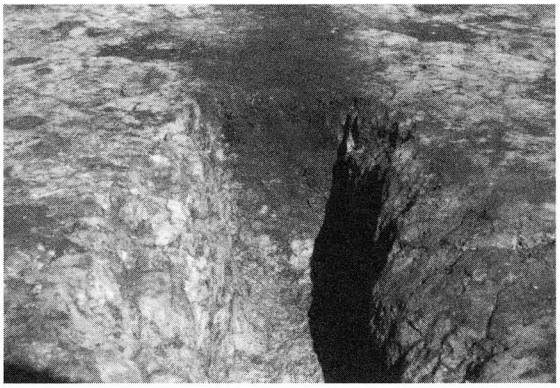
ＳＫＴ01 平面



ＳＫＴ01 断面

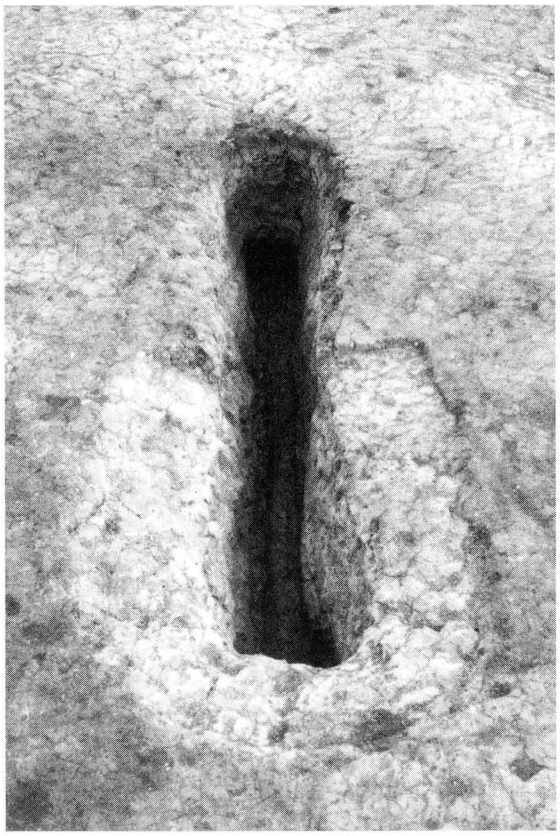


ＳＫＴ02 平面

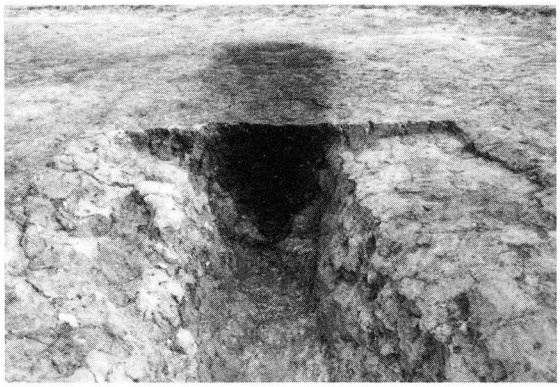


ＳＫＴ02 断面

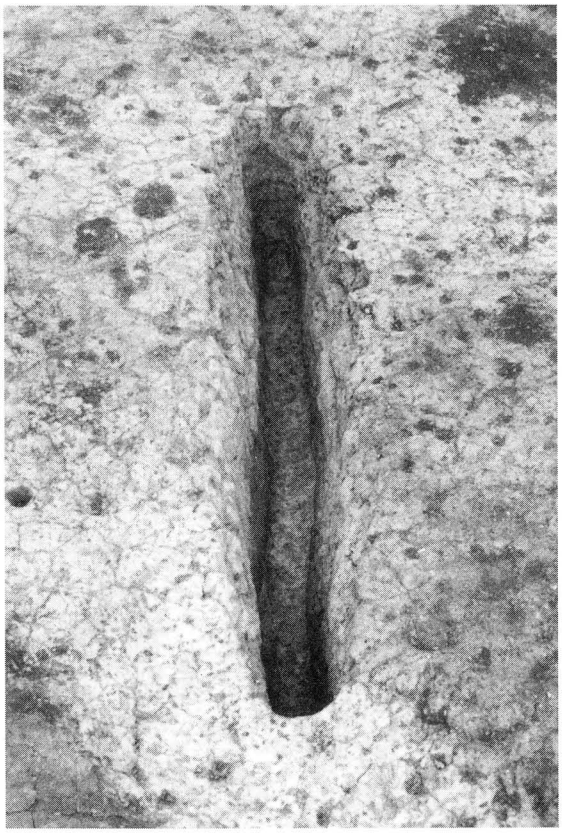
写真図版14　ＳＫＴ01・02 陥し穴状遺構



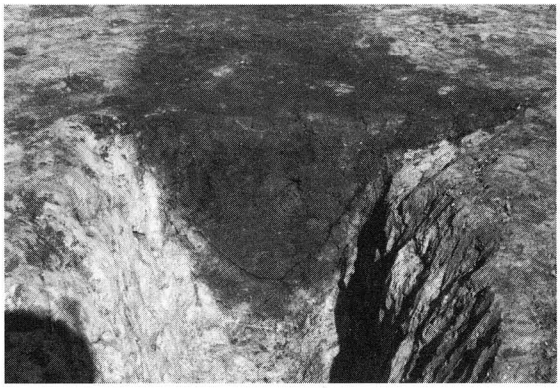
ＳＫＴ03 平面



ＳＫＴ03 断面



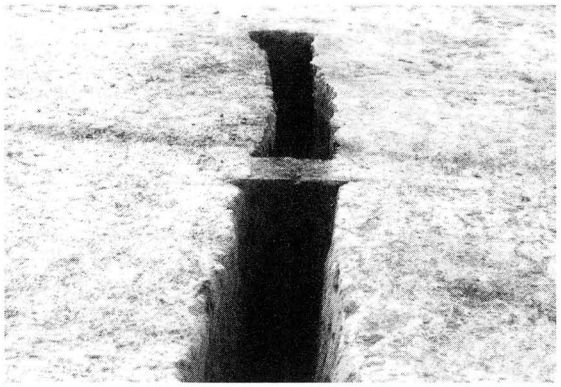
ＳＫＴ04 平面



ＳＫＴ04 断面

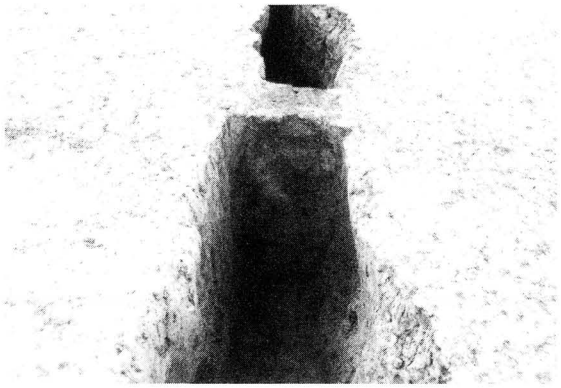
写真図版15　ＳＫＴ03・04 陥し穴状遺構

ＳＫＴ05 平面



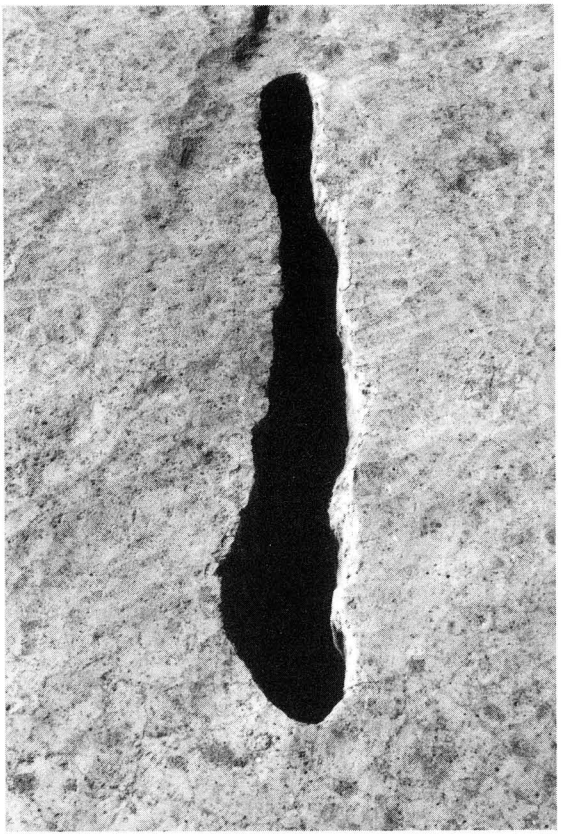
ＳＫＴ05 断面

ＳＫＴ06 平面

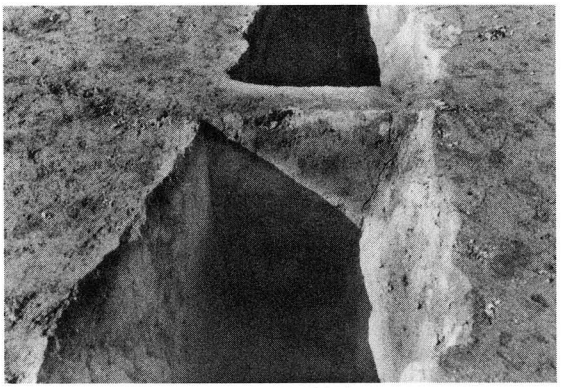


ＳＫＴ06 断面

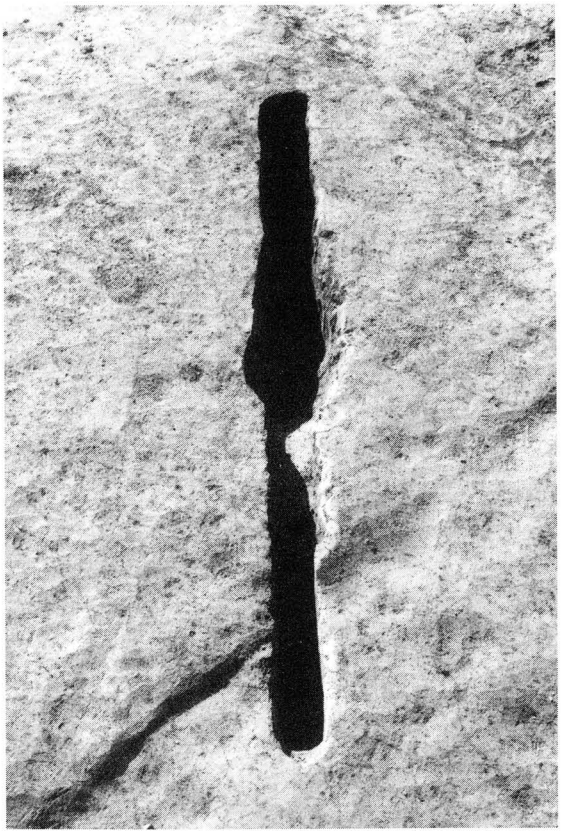
写真図版16　ＳＫＴ05・06 陥し穴状遺構



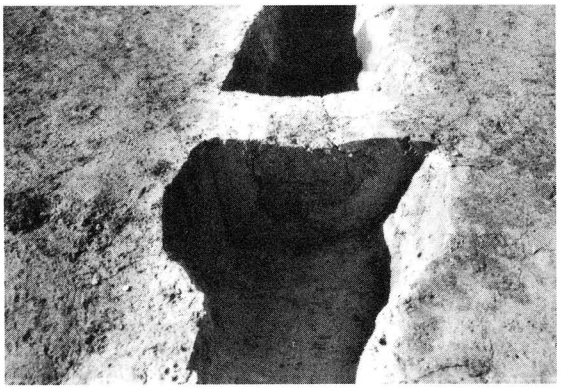
ＳＫＴ07 平面



ＳＫＴ07 断面

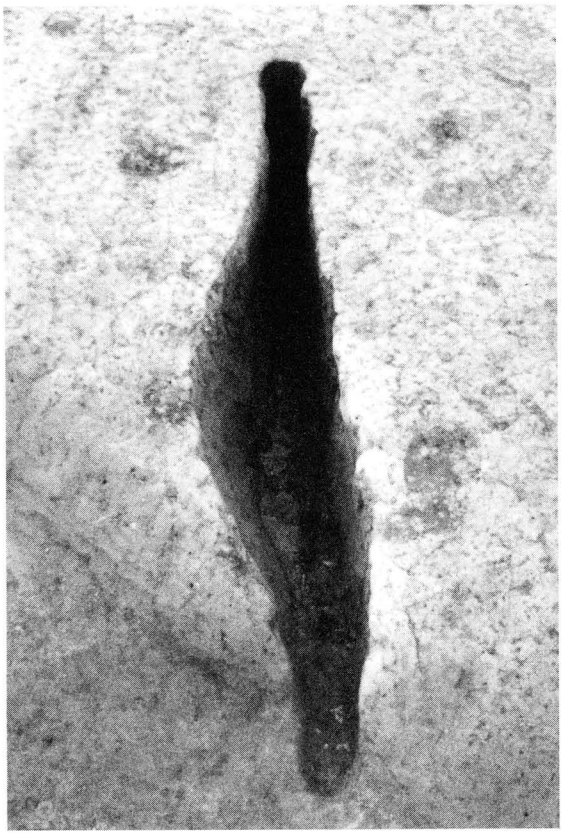


ＳＫＴ08 平面

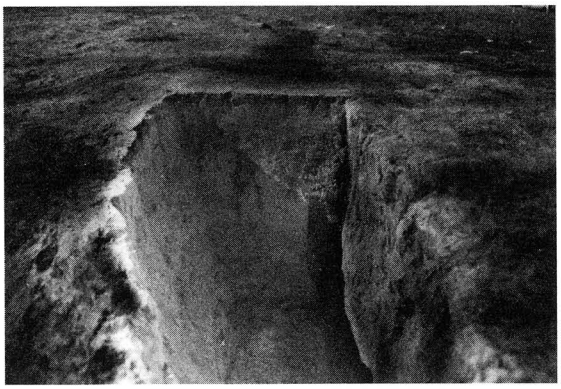


ＳＫＴ08 断面

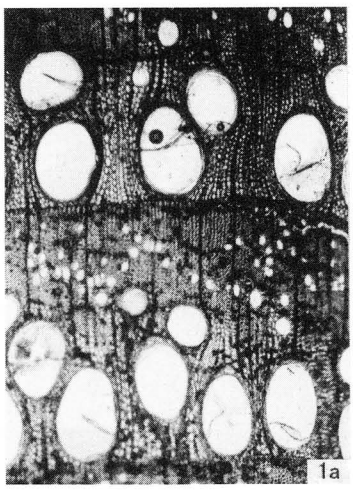
写真図版17　ＳＫＴ07・08 陥し穴状遺構

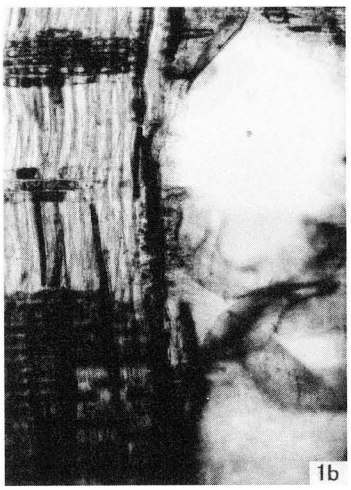


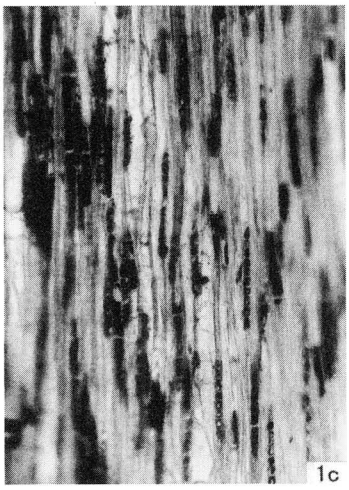
ＳＫＴ09 平面



ＳＫＴ09 断面





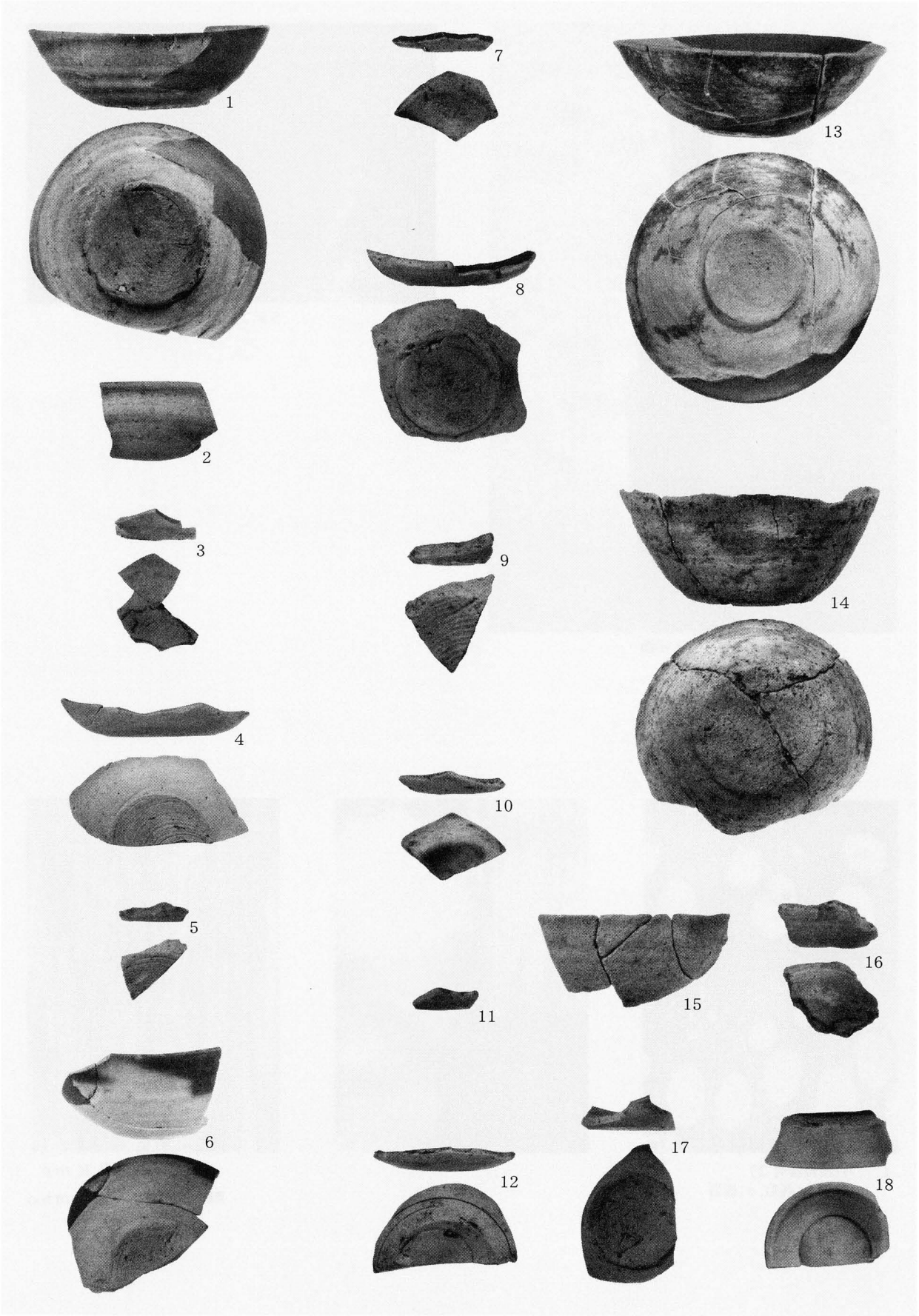


1．クリ(試料番号３)
　a:木口, b:柾目, c:板目

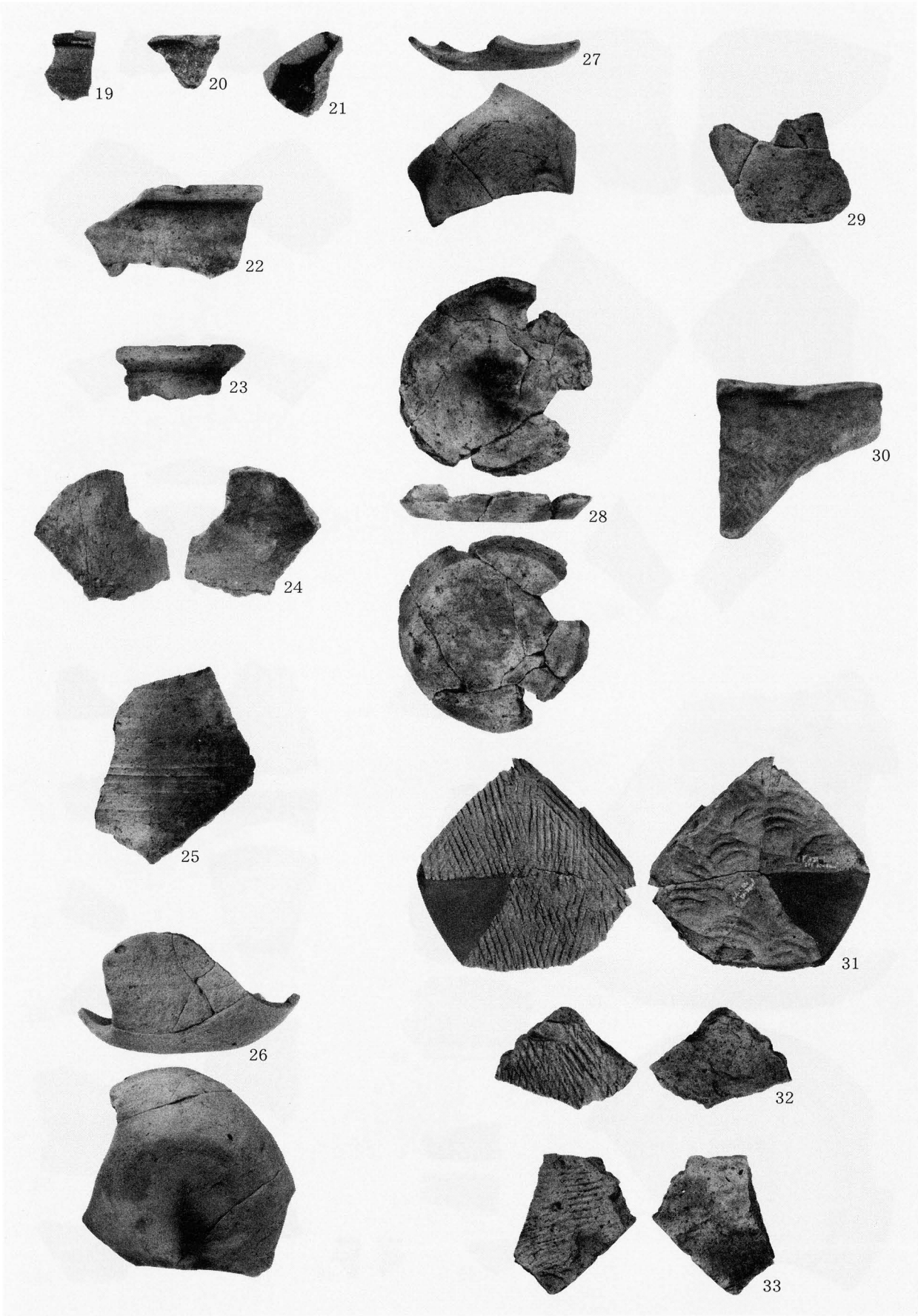
200 μ m:a

200 μ m:b,c

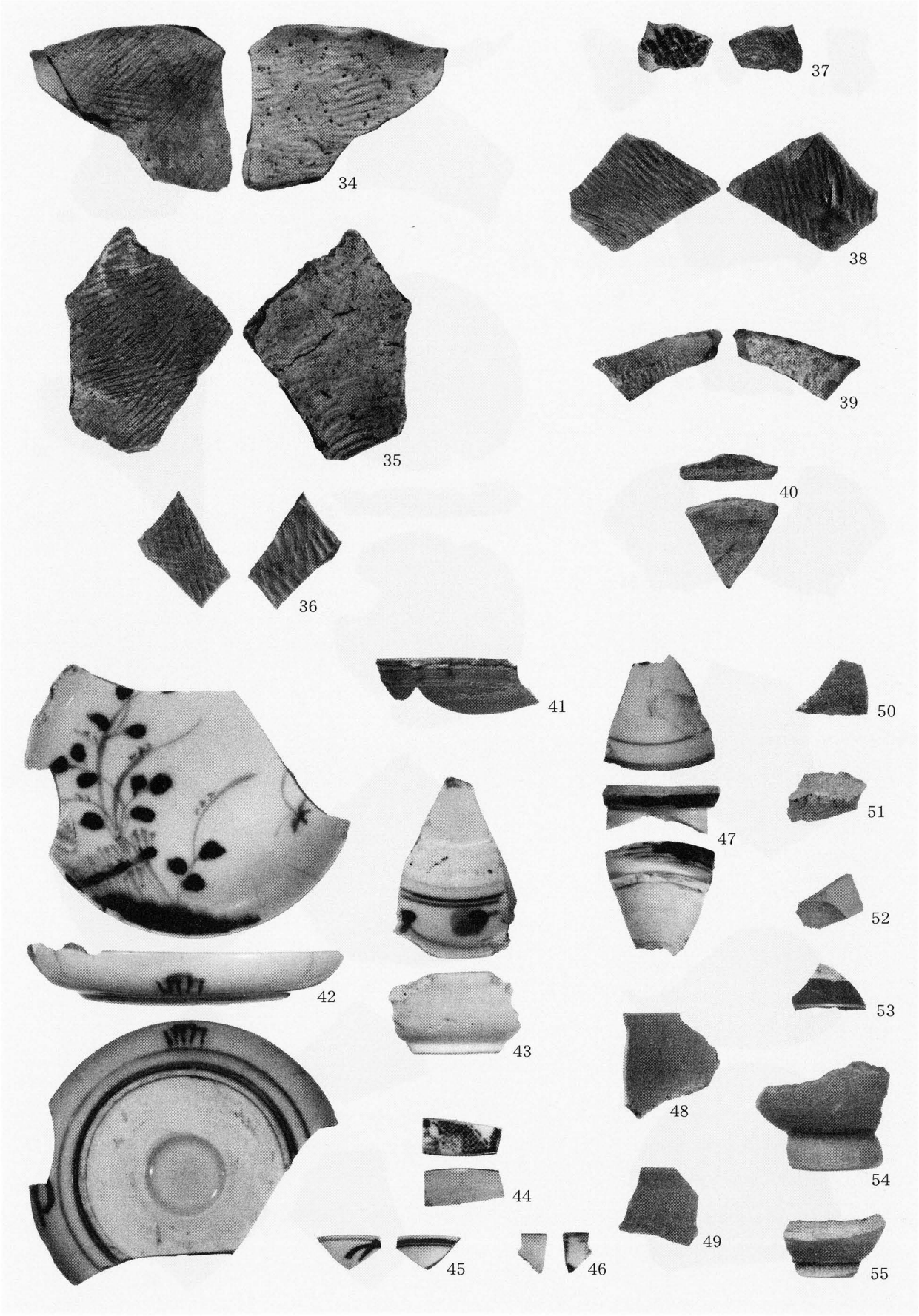
写真図版18　ＳＫＴ09 陥し穴状遺構、南日詰遺跡木材



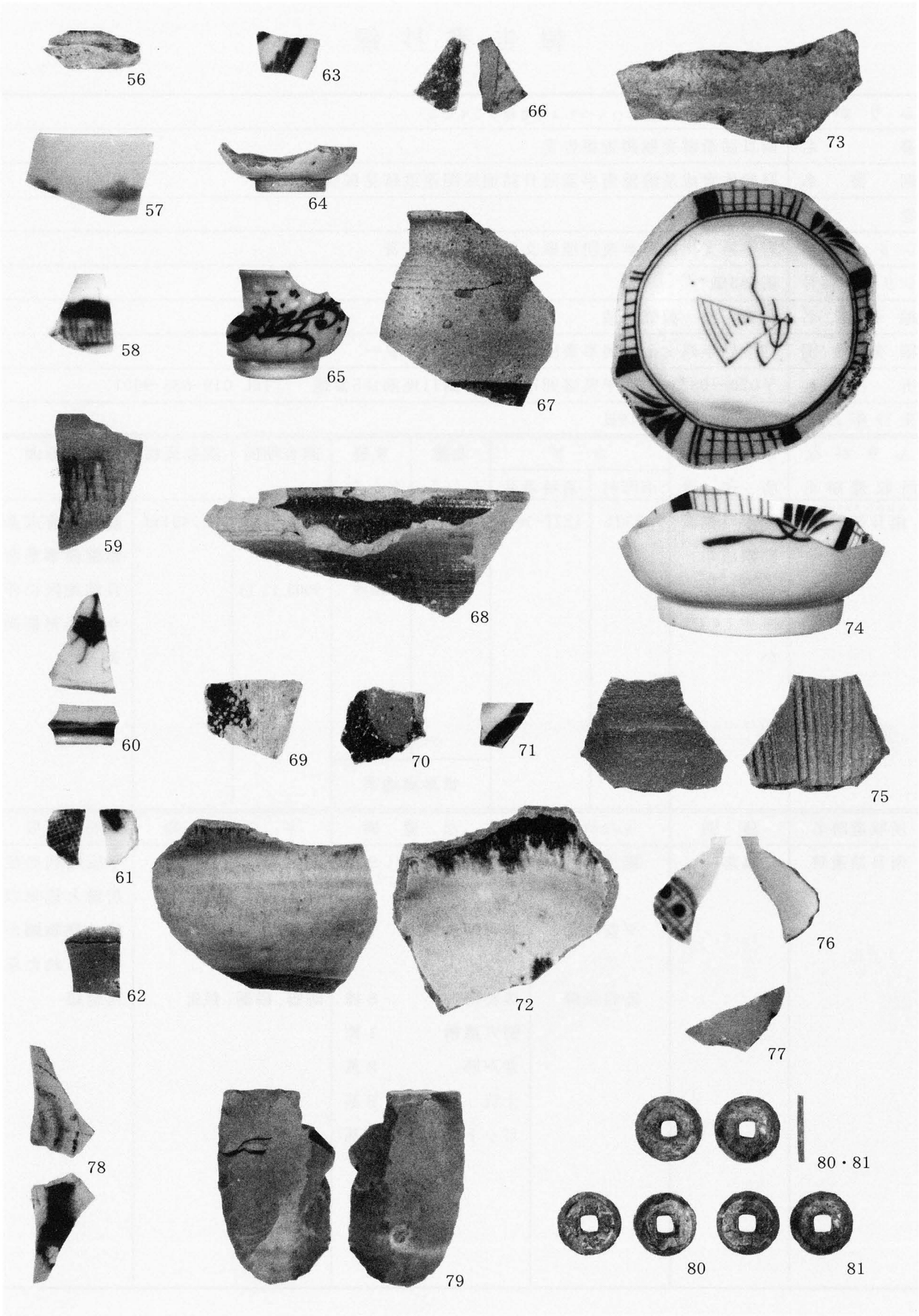
写真図版19　土器(1)



写真図版20　土器(2)



写真図版21　土器(3)、陶磁器(1)



写真図版22　陶磁器(２)、石器、銭貨

報告書抄録

ふりがな	みなみひづめいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	南日詰遺跡発掘調査報告書
副書名	経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第463集
編著者名	北田　勲・坂部恵造
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地　TEL 019-638-9001
発行年月日	西暦2004年11月19日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
南日詰遺跡（みなみひづめいせき）	岩手県紫波郡紫波町南日詰字田中143ほか（いわてけんしわぐんしわちょうみなみひづめあざたなか）	03321	LE77-1086	39度 31分 32秒	141度 9分 56秒	2003.09.16 ～ 2003.11.11	1,491㎡	経営体育成基盤整備事業南日詰地区に伴う緊急発掘調査
				世界測地系				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南日詰遺跡	集落跡	縄文時代	陥し穴状遺構　9基	石器	平安時代の住居跡と近世以降の建物跡が検出された集落遺跡
		平安時代	住居跡　1棟	須恵器、土師器	
		近世以降	建物跡　8棟 竪穴遺構　1棟 井戸跡　2基 土坑　8基 ピット　156基	陶器、磁器、銭貨	

平成16年度　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長	相原康二	副所長	平野允苗

［管理課］

課長	韮澤正吾	嘱託	高橋清助
課長補佐	小田島宏道	〃	常泉治美
主任主査	中嶋賢一	〃	伊藤滋子
主事	猿橋幸子		

［調査第一課］

課長	三浦謙一	文化財調査員	丸山浩治
課長補佐	高橋義介	〃	米田寛
文化財専門員	金子昭彦	〃	北田勲
文化財調査員	水上明博	〃	島原弘征
〃	阿部勝則	〃	村田淳
〃	杉沢昭太郎（柳之御所支援派遣）	期限付調査員	石崎高臣
〃	溜浩二郎	〃	立花裕
〃	村上拓	〃	菅野梢
〃	戸根貴之	〃	新井田えり子
〃	八木勝枝		

［調査第二課］

課長	佐々木清文	文化財調査員	新妻伸也
主幹兼課長補佐	中川重紀	〃	林勲
文化財専門員	小山内透（県教委研修派遣）	〃	星雅之
〃	金子佐知子	〃	西澤正晴
〃	濱田宏	〃	丸山直美
〃	羽柴直人	〃	村木敬
文化財調査員	吉田充	〃	福島正和
〃	阿部徳幸	〃	北村忠昭
〃	早坂淳	〃	須原拓
〃	小松則也	〃	川又晋
〃	窓岩伸吾	〃	中村絵美
〃	亀澤盛行	期限付調査員	小針大志（6月退職）
〃	鈴木裕明		

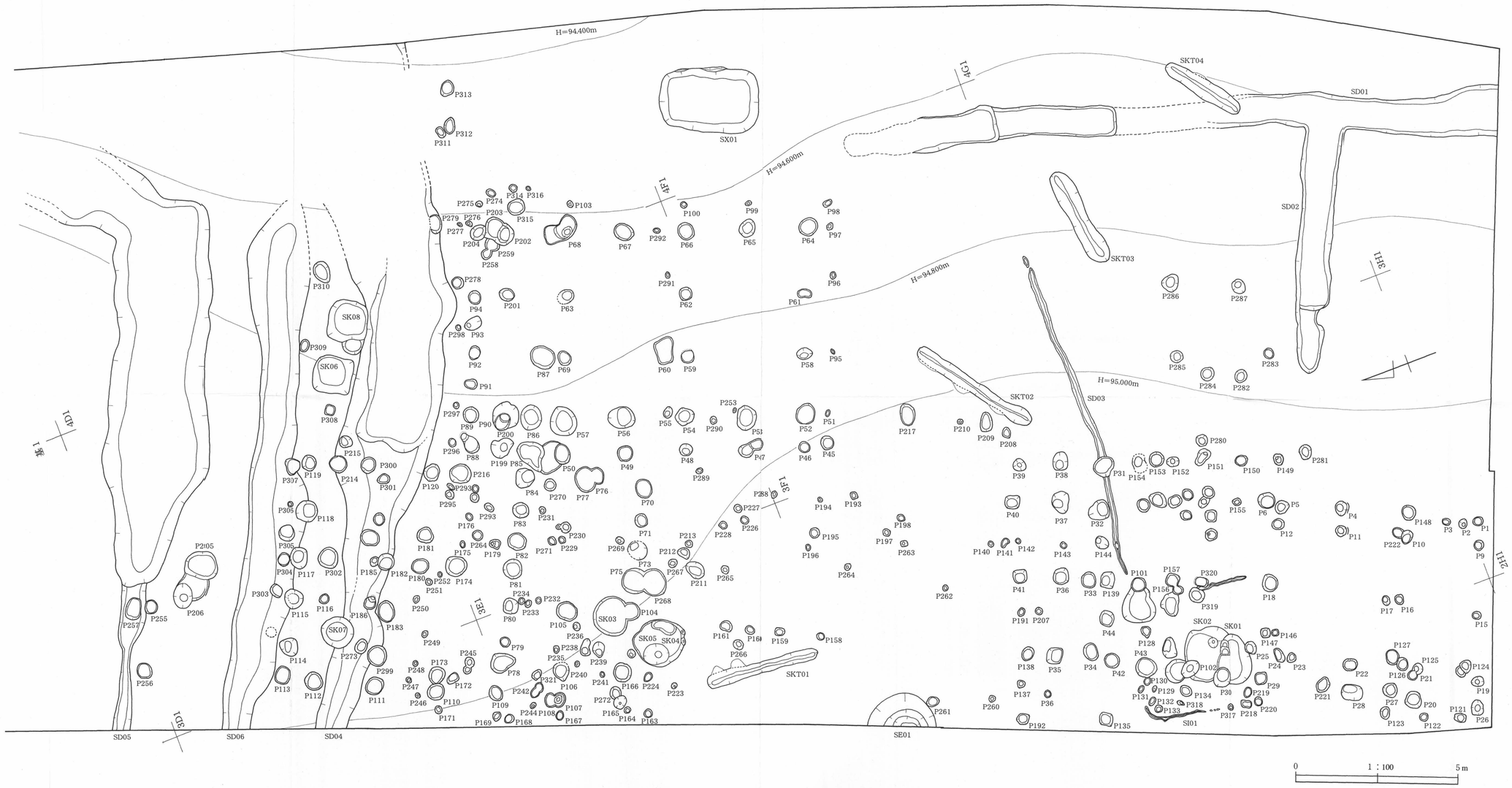
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第463集

南日詰遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査

印　刷　　平成16年11月12日
発　行　　平成16年11月19日
発　行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話　(019)638-9001
FAX　(019)638-8563
印　刷　　株式会社　阿部印刷
〒020-0873　岩手県盛岡市松尾町2-2
電話　(019)624-2242

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004



附図１　南日詰遺跡遺構配置図(柱穴配置)